

14.8

14. 8-189

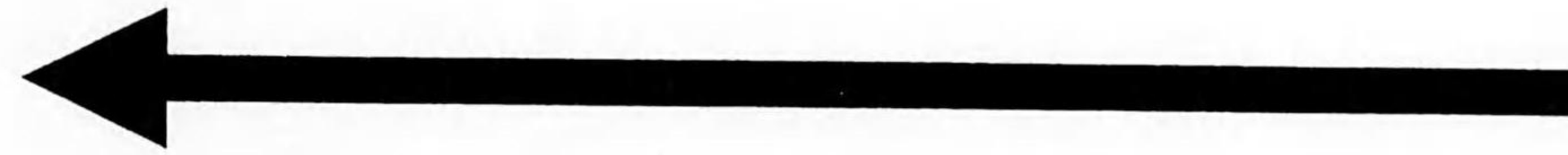


1200501227543

9



始



25 727

2099
4



內外海運新報社編

內外海運經濟年報

(十一、二年度)



序

島國に船の必要であることは誰れでも知つて居る。然し陸上生活に馴れると船の恩恵は無論のこと、その活動も必要も忘れ勝ちである。今、わが國は支那事變のさ中である。此秋に船が必要であることは絶對的であり、平時も亦然りである。

わが國の船は何時、何處で、如何にして今日あらしめ、明日を暮すかは島帝國人のすべてが知らねばならぬことである。此常識を幾分でも擴大し涵養しよう、と念じて出版したのが本年版である。大方の批判を仰ぎたい。

昭和十二年九月十七日

内外海運新報社

池田長市

内外海運經濟年報 (昭和十一・十二年度版)

目次

一、一九三五年の世界經濟	一
イ、國際政局の推移	一
ロ、世界經濟の概観	四
ハ、世界の生産と國際貿易	七
二、一九三五年の世界海運	二
イ、世界經濟の分離化傾向	二
ロ、世界船腹の輸送力	三
ハ、世界海運市場の大勢	三
ニ、英國海運政策の轉向	三
ホ、國際海運會議の失敗	四
三、海運市場好轉の新支柱	四
イ、軍事的色彩の濃厚化した海上荷動	五
ロ、英國不定期船補助の實績	五

本報は、我が國の海運經濟の發展を促進し、世界の海運經濟の動向を明らかにすることを目的として、昭和十一年から十二年までの海運經濟の概況を調査し、その結果を本報に発表する。本報は、海運經濟の發展を促進し、世界の海運經濟の動向を明らかにすることを目的として、昭和十一年から十二年までの海運經濟の概況を調査し、その結果を本報に発表する。

二

- 一、不定期船主要航路に於ける最低運賃率……………六一
- 二、國際油槽船プールの船舶統制……………六四
- 三、原料品市場の好轉……………七三
- 四、世界海運の景氣指標……………七五
- 五、世界海上荷動の種々相……………七六
- 六、小麥の國際移動性の變轉……………七六
- 七、國際棉花の需給改善……………七六
- 八、世界砂糖界の好轉……………七六
- 九、世界ゴム消費の増轉……………七六
- 一〇、世界資源の再分配論……………七六
- 一一、ドイツに於ける原料品輸出の實績……………七六
- 一二、本邦經濟の特異性……………七六
- 一三、昭和十年の推移と大觀……………七六
- 一四、本邦物價の大勢……………七六
- 一五、生産活動の旺盛……………七六
- 一六、本邦景氣の現勢……………七六
- 一七、本邦輸出入貿易の躍進……………七六
- 一八、昭和十年の本邦海運界……………七六
- 一九、概観……………七六

- 二〇、運賃市況の大勢……………一四四
- 二一、糖船市況の推移……………一四八
- 二二、對外爲替の低落と遠洋稼航……………一五〇
- 二三、本邦海運の景氣指標……………一五七
- 二四、本邦海運の現有勢力……………一六九
- 二五、船腹需要の増大傾向……………一七〇
- 二六、海の軍—マリン・トラツクの活躍……………一七一
- 二七、航洋商船隊の現勢……………一七四
- 二八、新鋭優秀船の建造熱……………一七九
- 二九、旺盛を極める船腹消化……………一八三
- 三〇、恒久化された船舶改善助成施設……………一八五
- 三一、船舶改善助成施設の繼續……………一八五
- 三二、第二次助成施設の内容的變化……………一八八
- 三三、第三次助成施設を繞る對立意見……………一九三
- 三四、第三次施設に對する海事審議會の開催……………一九七
- 三五、恒久化されんとする改善施設の内在的缺陷……………二〇三
- 三六、貿易外收支より見たる本邦海運の對外活動……………二〇六
- 三七、國際貸借の改善と貿易外收入……………二〇六
- 三八、貿易外收支中の海運收入の役割……………二〇八

三

- ハ、海運収入に影響する諸要因……………二二四
- ニ、海運収入より見たる對外活動……………二二六
- ホ、海運の貿易隸屬化……………三〇〇
- ヘ、輸出入貿易の躍進と定航化促進……………三三三
- 一、新造受註相次ぐ造船界の好調……………三三七
- イ、黄金時代の再來……………三三七
- ロ、本邦造船景氣の持久力……………三三一
- 、船價の昂騰は船舶投資に重壓を課す……………三三七
- ニ、本邦船價の割高である原因……………三三〇
- ホ、本邦造船工業の合理化と製鐵國策……………三三三
- 十一、日蘭海運問題を繞る諸様相……………三四八
- イ、ジャバ航路同盟の解消……………三四八
- ロ、國策會社「南洋海運」の創立……………三五三
- ハ、内憂外患の「南洋海運」……………三五九
- ニ、南洋航路會社の爆彈的登場……………三六三
- ホ、航路統制法と海運會商の成立……………三六六
- 十二、海運隆興の基調……………三七一
- イ、本邦海運の定航化傾向……………三七一
- ロ、定期船界の現勢……………三七三

- ハ、英國定期船の不振……………三七六
- ニ、滿洲大豆の對歐輸送問題……………三八一
- ホ、對支海運活動の重要性……………三八七
- ヘ、燃料國策と油槽船の充實……………三九〇
- 十三、海運國策樹立に當面する諸問題……………三九四
- イ、海運の統制と海事行政の統一……………三九四
- ロ、航路統制法の制定と其の效果……………三〇〇
- ハ、不定期船遠洋航路補助……………三〇五
- ニ、海上労働會議の再認識……………三三三
- ホ、海運國策の確立……………三三八
- 十四、新海運國策の全貌……………三五五
- イ、海運國策の發表……………三五五
- ロ、船舶建造に對する融資……………三八八
- ハ、積極的優秀船舶建造助成案……………三三三
- ニ、不定期船遠洋航路補助……………三三三
- ホ、承認された海運國策經費……………三三九
- 十五、一九三六年の海運……………三四一
- イ、世界景氣の恢復……………三四一
- ロ、世界海運の動向……………三四四

一、我が海運經濟の現地位……………三〇九

二、日英海運景氣の比較……………三三三

内外海運經濟日誌……………三六〇

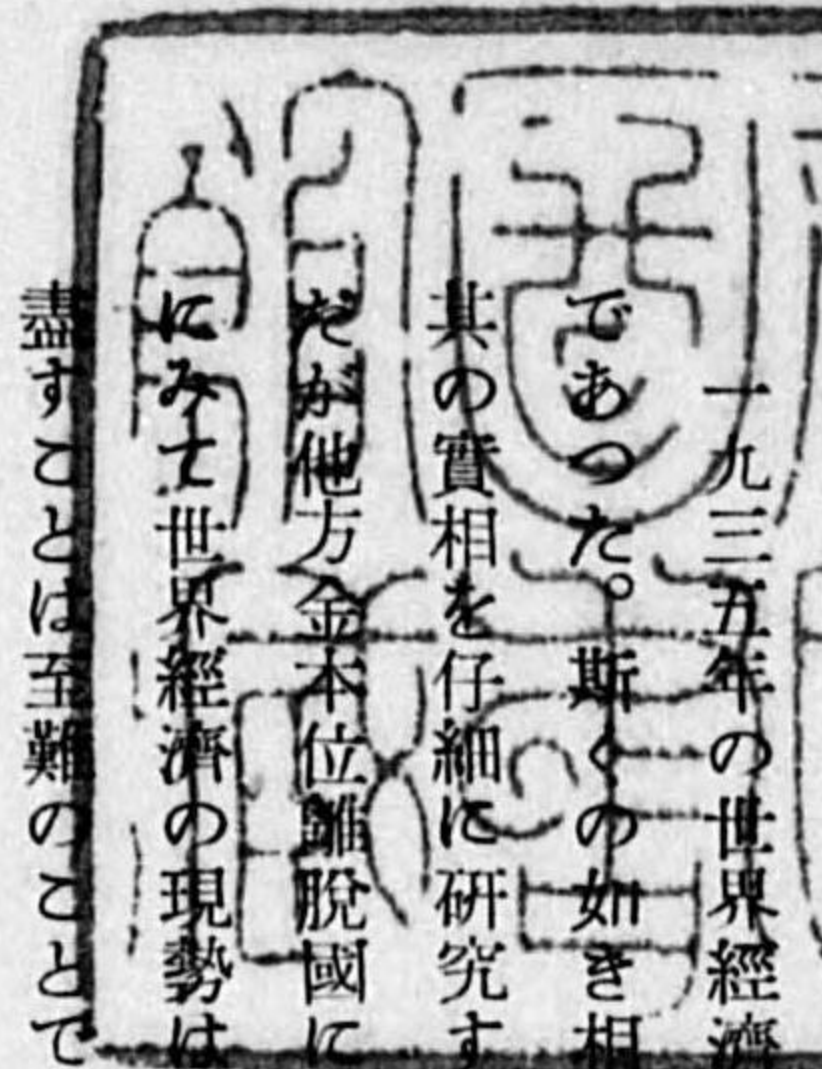
十年一月—十二月……………三七〇

十一年一月—十二月……………三七三

内外海運經濟年報 (昭和十一・十二年版)

下、一九三五年の世界經濟

4、國際政局の推移



一九三五年の世界經濟は歐洲政局に潜在した幾多の騒然たる危機に累せられた安定と不安定の交錯であった。斯くの如き相矛盾する二つの傾向が顯著に現はれたのは一見甚しく不思議の観があるが、其の實相を仔細に研究すると其の内に現國際情勢下にある特質的動向が明かに認識せられるのである。だが他方金本位離脱國に於けるインフレ景氣と金ブロック國に於ける依然たるデフレ的傾向を對蹠的にみれば世界經濟の現勢は跛行的であるとする見方もあるが何れにしても世界經濟の現勢を一言にして盡すことは至難のことである。

先づ騒然たる國際政局の跡を看るに、歐洲に於ては年初から懸命の平和工作が行はれたのは判然たる事實である。潜在してゐた政局の危機と不安を一掃するために一月には佛伊の間にローマ協定が成立し、やがてこれは英佛協定に導き、一面イタリーの東阿野望に對しある程度の諒解を與へ他面イタリーを誘つてドイツの中歐進出に備へたのである。夫れだけでは安心の出來ないフランスはドイツ空

軍の進攻性に脅威を感じてゐる英國を説いて英佛協定を結び更に對獨共同戰線を一段と強化し、ロシヤとも緊密の對獨工作を取つて英、伊を誘き入れた。かくてフランスは聯盟を背景として對獨包圍陣を張つたので、歐洲に於ける政局危機は一時的に回避されたかの觀があつたが内政を整備したナチス・ドイツは全く豫想を裏切つて俄然再軍備の爆彈宣言を發するに至り全歐は再び不安と混沌の渦中に投げられてしまつた。夫れがために英、佛、伊はこの新事態に對處するためストレーザ會議を開き歐洲の平和工作に協力すべきを宣した。一方聯盟はドイツの再軍備をヴェルサイユ條約違反と斷じてドイツ問責を決議したがこれは徒にナチス・ドイツの國民的憤激を招き、より熾烈なる反撥心を唆つたに過ぎなかつた。英、佛、伊の對獨宣言や聯盟の問責決議が如何に無力であつたかは其の後ドイツが空軍、陸軍に相次いで更に海軍の再建を宣言し、結局英國海軍が對英三割五分のドイツ海軍力保有量を承認したことによつて如實に證明せられた。この事實は對獨包圍陣の重鎮たる英國がドイツの條約破壊を公認したことを意味するものであつて、一九三六年三月ナチス・ドイツのラインランド進出の快舉も實にこの時のヴェルサイユ條約抹殺が現實化してゐたとも謂へるのである。蓋し英國としてはヴェルサイユ條約の表面的遵守乃至存續よりも歐洲の平和を現實に維持することが現下の情勢に必至なりと斷じ、夫れがためにはドイツの再軍備承認もまたやむを得ないとしたのであらう。斯くの如き情勢下に英國は巧に大勢を指導しドイツの不滿を或る程度に緩和したことは歐洲の政局不安を局限する點で一應の成功に到達したのであつたがこの事實は半面に於て歐洲政局の根幹が如何に脆弱性に富ん

でゐるかを暴露したものであり、同時にイタリアの東阿工作を積極化させる要因ともなつた。ムツッリーニ首相はドイツ再軍備を承認せざるを得なかつた英、佛の弱腰につけてこんで東阿遠征を執行するに至つたのも其の間の消息が判然する。これは歐洲政局に漲る無政府的狀態を逆用したものであつて英、佛と平和協定を誓つたイタリアの態度としては餘りに皮肉の現象であるが、これを要するに一九三五年の歐洲政情の前半は平和工作に次いでドイツの再軍備宣言、後半はイタリアの東阿遠征に基く一觸即發といふ如き極めて險惡なる情勢の下に推移し、寧ろ政情不安を益々深刻化したものと謂へる。この間米國はルーズヴェルト政權の下に内政の調整に専念して歐洲政局の紛争に巻き込まれる危険を回避したのも特徴づける事實である。ロンドン海軍會議は米國を参加せしめた唯一の國際會議であるがこれは米國をして條約の規定に従つたまでのことであつて、歐洲の列強をリードして軍縮を達成せしめるが如き積極的意圖は持つてゐない。従つて會議も其の経過が示す如く有名無實のものとなり、否軍縮とは似ても似つかない逆轉的傾向、軍擴を招來せしむるが如き情勢を展開させてしまつた。要するに米國は特に中立擁護法を制定するなぞ國際政局に慎重の態度を採つてゐるが歐洲政局の展開如何では其の巻き添へを食ふ惧れなしとは謂へない。歐洲現下の險惡なる情勢は更に全世界の國際政局に憂ふべき飛沫を浴びせかける可能性が多分に包まれてゐることは事實であつて、危機未解消裡に暗轉してゐる。

ロ、世界經濟の概観

四

一九三五年に於ける世界經濟の特徴は世界景氣が今尙ほ上向の姿勢を辿つてゐることである。しかも大抵の諸國が夏枯れらしい夏枯れも經驗せず、秋に入ると若干の國々に於ては又もや急激な上昇を見せた。だがこの間にあつて金ブロック諸國は動きのとれないデフレーションの底に落ち込んだが四、五月の急性なクレジット恐慌の痛手を忘れる暇もなく秋に及んで再び其の襲來を受け、金ブロックの最後の支柱が今にも崩れるかとも思はれる最後の場面をさへ現出した。それにも拘らず世界全體としてみると一九三五年は一九三四年よりも確に明朗性を帯びたことは疑ひのなき處である。

一九三五年の世界經濟に投げかけた印象深き事象は三月ベルギーが遂に金本位を離脱したこと、五月末米國聯邦大審院が産業復興法に違憲の判決を下したことであつて前者は近年の世界的風潮である金本位離脱の流行の中にあつて幾多の荆棘の道を歩みながらも、最後の一線を死守してゐた金ブロックの決潰を意味するものであつて、英國のポンド減價政策は經濟構成に於て對立關係にあるベルガ貨を危機に陥らしめた。そこへドイツの再軍備宣言はベルギー經濟界に不測の波紋を投げかけ、ベルギーは遂に爲替管理令を斷行し次いで正式に金本位離脱を宣言してベルガ貨の二割八分の切下げを發表するに至つた。ベルガの金本位離脱を眺めて他の金ブロック通貨が心理的に大きな衝撃を受けたことは謂ふまでもない。先づ第一にオランダのギルダーが叩かれたがオランダは數次の金利引上げで

よくこれに耐えた。だが金ブロックの盟主フランスの本位制が脅され出してフランは全く風前の灯の觀があつた。とに角フランの危機が一段落となると今度はイタリーのリラが表面に躍り出した。東阿工作に要する尨大なる財政的破綻は遂にリラ本位制を全く名目化し、事實上の平價切下げを斷行せざるを得なかつた。米國に於けるニュー・デイルの違憲問題とルーズヴェルト政權下の經濟統制政策が米國經濟界を根城として進化した許りでなく世界經濟界に影響のあるものとして注目してゐた景氣復興政策が根本的打撃を受けて政府の面目を失墜せしめたが、其の後の米國經濟界は統制主義から自由主義へと凱歌を擧げて復歸し近年に見ざる著しき好轉を示してゐることは世界景氣の前途に一道の光明を與へた。

一九三五年の世界經濟が大勢好調裡に推移してゐる事實は多數の諸國中尠くとも國內景氣が漸次明朗化して來た國のあることの争はれないものがある。ではかうした一九三五年の世界景氣の新規上昇は一體何に基くものであらうか。願れば世界經濟恐慌に襲はれてから足かけ七年にもなるが、恐慌の深度は一九三二年の中頃に一應底を入れて其の後漸次回復して來た。世界の工業生産も全體としては一九三五年既に恐慌前の水準を回復して僅かながら突破してゐる状態である。世界經濟を一丸とした景氣上昇の基因を簡明するのは至難であるが大體次の如きものと謂へよう。即ち經濟界自體が自然的回復を取り戻したことであつて一九三四年の低迷期に一應の内部的整調が行はれ、これによつて自力的回復の素地が作り出されて經濟の基調が全般的に安定化した。これはアメリカ及びイギリスに於て

五

顯著の事實であつて、我が國についても夫れが強調される。

次に國家主義の強化に伴ふて軍擴政策が普遍化した事實である。恐慌打開策として國家主義的經濟政策が列國に採用されたことは既定の事實であつたが一九三五年には夫れが頗る軍事的色彩を濃厚化したことである。もちろんこれは國際政局の緊張に伴ふものでドイツの再軍備、イタリーの東阿工作等がこれを證明してゐる。又從來軍事的色彩を匂はせなかつたイギリスですら最近頗る軍擴熱を昂進させた。世界經濟の好轉姿勢は以上二つの主要原因に伴ふ附隨的のものとして爲替低落策、低金利策の遂行が指摘されるがこれらの進行は國家主義的政策を誘致するものであつて景氣上昇に効果のあつたことは否定出来ない。農業國の立直りも附言されるが、世界景氣の推進力としては世界工業生産の増進に伴ふ隨伴的現象であるから過大評價をすることは出来ない。要するに自力的回復を基調とするアメリカ景氣の上昇と、列國の軍擴的重工業の好轉とが一九三五年の世界經濟を好調裡に推移せしめたと謂へる。従つて世界經濟の有機的回復とは凡そ縁遠いものであり同時に調和が甚しく缺けて居り、その中に隱然と戰爭に對する準備工作が包まれてゐるものに外ならない。この傾向は一九三五年の國際政局の激しい緊張に伴ふて頗る濃厚化し、將來ともこの傾向は強められて行くものと認められる。尙ほ世界工業生産が一九二九年の水準を僅かながらも突破してゐることは以て各國の工業生産の復興を物語るものであつて歐洲大戦後の疲弊に痛められたドイツの工業生産すらも遂に一九二八年の水準を突破して工業復興の反映を如實に示してゐるが、これも軍備擴張熱や非常時的色彩に負ふと

ころが尠くなかつた點から見てこれらの景氣上昇も多くは國內的範囲にとどまつてゐる證左であらう。しかし一方各種國際重要商品の需給關係が、多くは生産制限に基く供給の調節によつたものであるとは謂へ著しく改善の跡を示したのはこれら商品の世界市價を高め景氣昂進に尠からざる心理的影響を與へたことも世界經濟の好轉に見逃すことの出来ない事象であらう。従つて世界生産の増大傾向にも拘らず世界貿易が依然として萎縮状態にあるのは列國の排他的經濟政策が強調せられてゐる一面世界商品の需給均衡を得るために原料商品の供給調節が全般的に實施され世界貿易の活動範圍を益々狭化した導因となり、貿易の改善は生産の増進に比して甚しく低率にある奇現象を示してゐる。世界經濟界の好轉が有機的でない明瞭な證左はこの世界生産と貿易の跛行性に如實に現はれてゐる。

ハ、世界の生産と國際貿易

以上の如き單なる概括的觀察のみを以てしては世界經濟に於ける景氣現勢を充分に把握することが困難である。然し自づと判然する如く世界景氣の現勢は複雑多岐に亘り、現に好轉してゐるもの或は依然として不況に沈淪して呻吟の裡にあるもの等で、それを一口で決めてしまふことは到底企及し難い所である。だが一九三五年の夏から秋にかけてアメリカの景氣が稀にみる持続性を示して前途に一道の光明を與へて世界經濟に明るい半面を示したがその他方フランス、オランダ等に於ける絶えざる經濟不安はアメリカ景氣の將來性に一抹の暗影を投ずるものではないかと疑はれ、相刺する世界經濟

の實相はこれを更に深く探究することによつて其の機微に觸れることが出來よう。

先づ世界主要國の卸賣物價の趨勢を看るにアメリカのルーズヴェルト政府が所謂ニュー・デイルを標榜して産業統制に乗り出した一目標は物價高の招來にあつた。高賃銀、購買力の増進等も所期した目標であつたが、先づ物價を一九二六年の水準に引戻すのが第一義的に景氣昂進の實を擧げるものとなし、ドル貨の金本位離脱や其の平價が切下げられるに至つたのも高物價政策への一方策であつた。一九二六年の物價水準と謂へば一九一三年を基準とせる指數に於て年平均一四一を示してゐるものであるがこれは大戰直後の高物價時代の一九二〇年の平均指數二〇四に比すれば甚しく低く、世界不況期に入る直前の一九二八年平均指數に比しても尙ほ低率であり、戰後最も安定せる高水準として目標がこゝに置かれたのである。然もルーズヴェルト政權出現後のアメリカ卸賣物價は明かに昂進した。

主要國卸賣物價指數 (國際聯盟調査)

	日本	英國	米國	獨逸	佛國
一九一三年	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一九二〇年	二六〇	二八三	二〇四	一〇六	一〇三
一九二六年	一七九	一四三	一四一	一三四	一四四
一九二八年	一七一	一三五	一四四	一四〇	一二九
一九二九年	一六六	一二七	一三八	一三七	一二七
一九三〇年	一三七	一〇七	一一七	一二五	一一〇

一九三一年	一一六	八九	七五	一一一	九四
一九三二年	一二二	八六	七七	九七	八三
一九三三年	一三六	八七	八七	九三	七九
一九三四年	一三四	九〇	一〇一	九八	七五
一九三五年	一四三	九三	一〇七	一〇一	七一

(備考) 日本は日銀、英國はエコノミスト、米國はブラッドストリート、獨逸は統計局、佛國は統計局の調査發表による。但し佛國のみ基準が一九一四年である。

即ち多少の紆餘曲折は免れなかつたが米國の物價は一九三二年の平均七七を底として、一九三三年には八七に昂進し、一九三四年には一〇一となり、三五年には遂に十二月の一三と正に一九三〇年の水準に達してゐる。殊に三五年七月以降の堅實な上昇歩調はアメリカ景氣の本格的回復を示現したものと觀察さへするに至つた。眼を轉じてアメリカ以外の主要國を看るに、最も堅調なる歩みを辿つてゐるのは日本である。日本の物價はアメリカよりも一步先んじて三五年には既に一九三〇年の水準を突破して居り秋から冬にかけて騰勢殊に顯著の事實があつた。イギリスも騰勢は堅實であり、ドイツも正に一九三一年の水準に接近してゐる。而してこれら日、英、米、獨等の金本位離脱國乃至は名目金本位國の卸賣物價は騰勢裡に終始してゐるに反して、金本位國例へばフランスの如きは、物價が低落に低落を重ね一九三四年は一九三三年よりも更に低下してゐる。爲替低落國の間に伍して金本位を死守する國の惱みはこゝに如實に反映せられて、デフレ政策の過程の深刻化が明かに物語られてゐる。

る。この意味で三五年初頭金ブロックを遊離したベルギーの物價が金離脱の翌月より急激の上昇を示した事實は當然の歸結とは謂へ現在の金本位政策を死守して景氣昂進を示現せしむることの如何に至難のことであるかゞ判然する。要するに金本位離脱國は概して其の通貨の減價に出發して國家資力を背景とする人爲的匡救事業、産業及通商に對する保護統制、國際政局の紛糾に處する軍擴工作の進展が主となり、他面これに隨伴する所の金融緩慢に基く資本の投資活動が回復し、工業國の經濟的發展と軍擴に伴ふ原料品消費の増加は多數原料生産國を均霑せしめ景氣上昇に顯著の特色を現はしてゐることが看取せられる。

で世界の工業生産に眼を轉ずると世界景氣の進轉過程が一段と恢復の徵候にあるかゞ判然する。世界の工業生産は先年の不況深化の期間に三十%の減退を示したが、一九三五年は殆んど一九二九年の地位に接近するに至り、之に應じて一九三二年の初頭三千萬と稱せられた世界の失業者数は約三分の一を減少し得たと推測せられてゐる。即ち一九二八年を基準とする世界の工業生産は三五年初頭以來既に其の水準を突破してゐる。これを主要工業國別にみても騰勢最も顯著なるものは日本であるが一九二八年に對して既に六十%近くの昂進を示して居り、イギリスの工業生産も既に基準年を突破してゐて、ドイツ、アメリカ等も一九三三年以來逐年騰勢を示して居る。物價が斯く上昇した如く工業生産に於ても金ブロック諸國の不振は明かに生産部門にも現はれてゐる。

主要工業國の工業生産指數 (國際聯盟調査)

	英國	米國	獨逸	佛國	日本	世界
一九二八年	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一九二九年	一〇六	一〇七	一〇一	一〇九	一一一	一〇七
一九三〇年	九八	八七	八七	一一〇	一〇六	九六
一九三一年	八九	七三	六九	九八	一〇二	八七
一九三二年	八八	五八	五四	七六	一〇九	七七
一九三三年	九四	六九	六二	八四	一二六	八七
一九三四年	一〇五	七一	八一	七八	一四三	九六
一九三五年	一一〇	八〇	九五	七三	一五八	一〇三

一つの有機體としての世界經濟と謂ふ如き問題が對象となり得なくなつた現下の國際情勢に於ては全體が一部分を制約するとしてはなく、單なる一部分の總和體が世界經濟の動向を表現するものであるとする考察が許されるならば前表の示す生産指數の大勢は世界經濟が一九三二年を底として極めて最近に至るまで回復の一途を辿つて來たと謂へる。主要國別に見ても獨り金本位諸國を除き、英、米、佛、獨、伊に於て何れも恐慌以來の新高位に躍進の姿を示し、就中英、伊等は一九二八年の水準を突破してゐる。米國經濟の好轉は世界の生産、消費關係の五十%を握つてゐる事實よりして無視することは出来ない。民主黨治下の米國經濟界はルーズヴェルトの革新的不況克服策が強行されて一九

三三年以來景氣上昇の大きな波が三回に亘りて描き出され、一九三五年の中期から其の繼續的上昇運動は進行中である。景氣好轉の波動で一番大きかつたものは一九三三年の初春より夏への金離脱に伴ふインフレであつた。この第一次上昇運動が全く思惑的性質のものであつたに反して一九三四年上半期に於ける第二次上昇運動は赤字財政を主たる材料としただけであつて多少の反動的波紋を招來した。一九三四年の下半年より一九三五年の上期にかけての第三次、一九三五年下半年より一九三六年へと進行中の第四次上昇運動は前二者とは可なり異なる内容を持つてゐた。恐慌の底入れ後に於ける第一、第二の中間的景氣上昇運動は何れも投機的要因や政府支出の財政インフレの外部的要因を繞つて思惑的要素が多分に織込まれてゐて、やがては凋落せざるを得ない運命にあつたが第三、第四の波動運動は内在的要因に基くもので永續性が期待される性質を持つてゐる。即ち民間創意の自然的回復力が強化したことによるもので、經濟界自體の内容的回復、生産機構の更新、過剩遊資の活動に伴ふ低金利等の要因と統制經濟の強調されたニラ運動の解消による樂觀的心理とが相俟つて經濟界の基調並に經濟政策の轉換を誘致し事業活動を刺戟し、同時に減産政策の効果が農村の購買力増加を誘導せしめ、生産活動は消費財より生産財部門へと轉換する發展的姿勢を具現するに至つた。生産部門中に於ても自動車工業の好轉は一九三四年に對して約十%の増産率を示し一九二九年以來の高率に達し、鋼鐵工業、建築工業等各部門の殷盛も業績著しく好轉の跡を見せてゐる。この堅實的な歩みを進めて來た米國經濟界の好轉はアナリスト誌の景氣指數に如實に反映されてゐる。

アナリスト誌景氣指數 (「ノーマル」を一〇〇とす)

	一九二九年	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年
一月	一一三	七〇	六三	七三	八四
二月	一一二	六八	六二	七七	八三
三月	一一二	六七	五八	七九	八二
四月	一一五	六三	六四	八〇	八一
五月	一一六	六一	七二	八〇	七九
六月	一一七	六〇	八三	七七	八〇
七月	一一七	六〇	八九	七三	八一
八月	一一六	六一	八四	七一	八三
九月	一一五	六五	七六	六七	八四
十月	一一三	六五	七二	七一	八七
十一月	一〇六	六五	六八	七二	九〇
十二月	一〇一	六五	七〇	七七	九三

英國の工業生産は表示する如く一九二八年の水準を突破してゐるが其の經濟界好轉の基調が米國の如く國家の直接的景氣上昇對策乃至經濟部門への積極的國家干渉の手段に訴へるが如きものでなく國內經濟の回復を自力更生に求めた處に特色づけられてゐる。勿論恐慌克服策として信用通貨の政策が強行されたが一般的に國家政策的色彩は比較的尠かつた。先づ金本位の放棄、低爲替、スターリング・ブロックの結成、財政改革、英帝國經濟ブロックの樹立を以てし、これに配するに公共事業の救濟途

行を以てしたものであるが其の主流に潜むものは傳統の自由主義の原理であつた。しかしながら英國經濟界の好轉を内容的にみると往年のそれとは可なりの変化があり、昔日繁榮した産業が凋落して、他方新しい産業が勃興してゐる。榮枯衰盛の跡は著しく國內需要を主とした産業が殷盛を極め輸出に依存する産業は改善の見るべき業績がない事が看取される。だが英國經濟界の好轉を齎したものは畢竟するに世界經濟が從來の國際主義から離れてブロック經濟時代を經過すべきことを豫想した時局洞察が効を奏したものであつて、先づ國內乃至帝國ブロック内の經濟好轉を以つて第一義となし、其の根本方策を實現化するために前述する國家の指導が具體化したものであつて、これだけに國內乃至帝國内の景氣上昇が一應の飽和點に到達するときは直に反動が不可避との見透しもつく譯である。建築工業のブームが一頓挫すると案外早く不況が訪れて来るやの疑念が生ずるがこれに代つて景氣上昇の支柱をなす軍備擴張が産業活動の中心をなすのではあるまいか。米國の景氣指數と對照するために英國エコノミスト誌の英國景氣指數を見ると一九三五年初頭以來騰勢を持続して九月以來二九年の水準を優に突破してゐる。この點は米國よりも一層堅實な歩調を辿てゐるものであつて歐洲に位するとつても金本位國の苦難とは對蹠的に著しい繁榮を謳歌してゐるのである。

エコノミスト誌英國景氣指數 (一九二四年を一〇〇とす)

一月	一九二九年	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年
一月	一一〇	九七	九六	一一〇	一一一

二月	一一〇九	九八	九八	一〇九	一一一
三月	一一〇	九九	九七	一〇九	一一〇
四月	一一二	九六	九八	一〇八	一一三
五月	一一一	九六	九九	一〇七	一一四
六月	一一二	九七	一〇〇	一〇九	一一四
七月	一一二	九五	一〇一	一〇八	一一三
八月	一一四	九三	一〇三	一〇八	一一三
九月	一一三	九四	一〇六	一一〇	一一六
十月	一一四	九六	一〇五	一一一	一一七
十一月	一一四	九五	一〇七	一一一	一一六
十二月	一一二	九六	一〇七	一一一	一一八

獨逸の經濟界も大勢的には尙ほ上昇過程にあり、統制主義に立脚した恐慌克服策は尨大なる勞働振興策を中心として、これに配するに對外的には爲替管理及び貿易統制を以てし、對内的には産業統制の強化を以て經濟回復の國家干渉を實施したがこれによつて表面上著しく好轉の跡を示し工業生産指數は恐慌前の水準に對し九五%の處まで漕ぎつけてゐる。ナチス・ドイツの經濟政策が現在も尙ほ從來の軌道を同じうしてゐるが其れが益々軍備擴張の色彩を濃厚化してゐることは三五年の再軍備宣言に於けるが如く三六年初頭のラインランド進軍の快舉に見ても其の間の消息が解る。これに反して佛蘭西經濟のデフレ政策は依然として世界經濟の好轉的景氣回復に均霑することが出來ずに政治的に經

濟的に動搖を續けてゐる。經濟的逼迫と爲替低落國の好調に對照して金本位死守の努力はその意氣は壯とすべきも國際政局の不安に脅かされて事毎に現狀維持が危殆に瀕するが如きはフランの平價切下が時期の問題なりと説かれるのも當然のこと、觀測されてゐる。

産業活動の進展、物價の昂進と相俟つて國內經濟事象が好轉すれば必ずや株界に其の反映が現れることは當然である。一九三五年の株界が金本位國を除き一様に活況を呈したことも世界經濟立直りの一證左であつて各國株價は可成りの回復を示してゐる。左表は一ヶ年平均の指數で其の動きは餘り顯著でないが一ヶ年を通じて米國は約四十%、英獨は十%の騰貴を示してゐる。これに反して日本及びフランスは若干ながら反落してゐる。フランスの低落は一般經濟活動の鈍狀に基くものであるが、日本のそれは前年來の暴騰が反動化した反映と見るべきである。

各國株價指數 (米國聯邦準備銀行調査)

一九二六年を一〇〇とす

	米國	英國	ドイツ	フランス	日本
一九二八年	一五〇	一一六	一三六	一七八	八七
一九二九年	一九〇	一二〇	一二三	一一八	六八
一九三〇年	一五〇	一〇三	一〇〇	一八八	四三
一九三一年	九四	七九	七八	一三二	四四
一九三二年	四八	六八	五〇	一〇五	五五

一九三三年	六三	七九	六二	一〇〇	七九
一九三四年	七三	八六	七一	八三	九六
一九三五年	七八	八六	八〇	八〇	七八

次に世界貿易の趨勢を見る。こゝに最も注意すべきは各國の工業生産が増進してゐるに拘らず、世界貿易の趨勢はこれに伴はず改善されてゐないことである。日本の如きは例外であるが各國工業生産の増大乃至産業好轉は未だ國內的の域を脱し得ないことを通則としてゐる。英國や獨逸の景氣好轉も其の例に漏れぬ。これが要因は軍需工業に於ける生産部門の殷賑を呈するものか或は失業救濟的の特殊的非常時事業の現象に基くものかであつて對外的に輸出工業部門の好化にこれを求めることは出來ない。然して各國は依然として國家主義的經濟政策の強調を採用して輸入防遏策を緩和せず、關稅障壁は引續き撤去されず進んで輸入割當制、物々交換制度の如き變態的貿易制度が實施され、一方米國に於ては互惠通商政策が各個新條約締結國との個別的關稅引下げに奏功しつゝあることは特に注目すべきところであるが、世界貿易總體として未だ充分の障礙撤去の域には達せず、従つて國際通商の範圍は恐慌以後依然たる舊態を改善することが出來ず、萎靡沈滞の現狀にある。世界景氣の實體を左右する主因が國內的事情にあり、工業生産の増進傾向もその主因がこゝにありとは謂へ、工業生産の増大は其の原因の如何を問はず原料品の需要増加を必然とする。これは日本や英國の如き原料品輸入國に當然起つて來ざるを得ない現象であるが輸入の増加と共に輸出の振興を招來しないやうでは國際

貿易の妙味がない。然し以上の如き情勢は各國の貿易が充分とはいへないまでも漸次改善の過程にある事は争はれないが各國工業生産の増大に伴はすテンポの極めて遅々たる事實は世界海運の活動範圍が依然として狭化閉鎖されてゐるのであつて、生産増大、貿易停頓の變態的現象を誘致した障戟を艾除するにあらざれば世界海運の再建は覺束ないものである。

國際聯盟調査による主要國貿易を見ても日本の増大著しきは別として英、獨、米各國の輸出入も漸次増進の跡を示してゐる。只佛の貿易が依然として悪化の一途を辿つて金本位死守の悲運を反映してゐる。蓋し價値の過大に評價されたる通貨を擁して、輸出の捌け口を求めるとは容易でなく、従つてこの輸出にバランスをとらせるためには輸入に防遏を施すこととなるのも、けだしこの種の國としてはやむを得ないところであらう。尙ほ貿易金額の増加を示す諸國としても其の國が金本位離脱國であり、爲替低落國である以上は貿易額を金價格で見ると世界貿易が依然として萎縮状態の極に達せる様相を示して居る。されば貿易不振の現象は獨り金本位國のみの苦惱ではなく普遍的のものであることが解り、同時にこれを數量的に見るも大なる變化がないことは次ぎに示す表の通りである。

世界貿易指數 (國際聯盟調査)

一九二八年を一〇〇とす

金價格	數量
一九二九年	一〇二
	一〇五

一九三〇年	八二	九八
一九三一年	五九	八九
一九三二年	四〇	七八
一九三三年	三五	七九
一九三四年	三四	八一
一九三五年	三五	八二

要するに自力的回復を基調とする經濟界好轉と軍擴的戰爭昂揚景氣とが結合して出來たものが一九三五年の世界景氣上昇の導因であつて世界工業と貿易との比較が一番その點を明瞭にしてゐる。此點について伯林景氣研究所の調査も同様の傾向を述べてゐる。

世界の生産と貿易 (伯林景氣研究所調査)

一九二九年を一〇〇とす

工業生産	貿易數量	
一九三二年	七六・八	七三・九
一九三四年	九五・二	七七・二
一九三五年	一〇三・五	七七・六

茲兩三年に於ける國際貿易の停頓は既に述べた生産と貿易の跛行性を誘致せしめた諸原因に基くものであるが他面國際通貨の不安も見逃すことの出來ないものがある。世界主要通貨の動搖は一九三五年に於ても幾多の特記すべき現象を醸生して居る。即ち米國に於ける金約款判決不安を繞るドルの昂

騰、ポンドの崩落、ベルガ貨の平價切下げ、フラン及ギルダの危機、リラの崩壊、支那に於ける銀貨動搖と幣制改革等がそれである。要するに金の局部的偏在と銀の動搖が世界通貨の安定に一の脆弱性となつてゐることは否定出来ないが過去兩三年に比してドル、ポンド、フランの三大通貨に關する限り爲替相場の振幅が比較的狭少に止つたのは一九三五年の爲替界の特記的事象であつて、かの英米に於ける金離脱當時に直面した重大性乃至影響力は小さく、意識的に爲替の動搖を可及的小幅化するがために尨大な爲替平衡資金を動員した事は疑ひない處である。例へば一九三五年初頭米國金約款判決前、ドルに猛烈なる買物が集中した際、米國は爲替安定資金を出動して外貨を買ひドルを賣つた如く、三月のベルガ貨切下げの際、ギルダ、フランに對して攻撃が集中したが佛蘭西はこれら諸國に金融的援助を惜しまなかつた如く、又五月のフランの危機の場合にも英國の爲替平衡資金がフランの防戦に絶大の助力を與へた如きがそれである。かくの如く通貨の安定操作が各國の通貨安定の決定的方策と見做すことは出来ないが少くとも各國は自國の通貨の不必要な動搖を抑止せんとする意圖を有し、この意圖の一致的行動が各國通貨の相對的安定となつて現はれてゐることは見逃すことの出来ないものである。世界通商回復の根本的條件は貿易に對する障礙を除去して通貨の安定を強化せしめてこそ始めて貿易は生産活動に平衡する水準に到達する筈である。

世界經濟の好轉にも斯く明暗相が伏在し未だ變態的な異常時様相を脱し得ず、多年に亘る經濟恐慌も克服されず將來に未解決のまゝ残されてゐるものと斷じて差支へなく、その中に隱然又公然と戰爭準備に忙殺されてゐた歐洲大戰直前を彷彿するが如き危險性が包藏され、其れが濃化して行くものと觀測される。

二、一九三五年の世界海運

1、世界經濟の分離化傾向

世界經濟が茲兩三年好轉の一途を辿つてゐるかに見えるが其實工業生産の増轉と貿易とが全く分離して生産の上昇にも拘らず世界貿易は金價格に於ても數量に於ても依然たる萎縮過程にあり、其れがために世界海運の活動分野も甚しく狭められてゐることは疑ひのないところである。何れの國に於ても恐慌克服のために採つた國內市場保護の諸政策は排他的非協調主義である。就中自給自足政策の強行は甚しく國際通商に障礙を與へるに至つた。最初は輸入貿易の阻止策として關稅の障壁を構築する方法を採用したが其れは若し相手國が關稅障壁だけダンピングを強化すればそれで國內市場保護の徹底が實現性を缺くに至つたので最近では輸入割當制とか求償互惠貿易とかの數量制限策に轉出した。即ちブロック經濟の一環は貿易數量の制限を強行して、これがために國際貿易數量は極度に制限されざるを得なくなり、同時に増進する可能性を全く喪失させてしまつた。一般的輸出入貿易數量の不振は必然的に海上荷動に影響して海運の活動が鈍化せざるを得なくなるのは當然である。

世界貿易量が世界工業生産の増轉と跛行状態を呈してゐることが海上荷動の増進を甚しく妨げてゐることが海運不況の主因と觀測されてゐるが其他に農産品輸入國が自國農業保護のために穀物の輸入を防遏して自國の増産を奨励し、それがために主要農業國よりの輸入に高率の關稅を設け或は割當制限等の排他的政策を強調したことも亦海運不況を誘致してゐる。歐洲に於ける主要工業國は經濟恐慌があらゆる部門に浸透して、工業生産品と農業生産品の價期に於ける缺狀が甚しくなるに及んで、一般農産物の價格釣上げに努力し、以つて農業生産品の價格維持のために増産を決行したが、これに反して從來の農業生産品輸出國はその農産品の輸出不振が滯荷の累積となり、價格の崩落を招來した。この農業生産品の世界市場性を喪失した生産過剩の對策として各國は極端な減産政策を強化した。例へば米國の如く、小麥の四大主要輸出國であつたものがこの兩三年は輸入國に逆轉してゐる状態を見ても其の間の消息が判然する。従つて農業國は工業國より工業生産品の輸入を報復的に阻止する態度に出でたのも單なる報復的の行動と解することは出來ないものがある。從來とても國際收支の均衡を得るためには通貨の引下げ、或は對外債務の不履行を斷行した國もある位であるから相手國の輸入阻止に對して自國の輸入を制限したのも當然の措置であらう。歐洲諸國は大戦後の經濟再建に専念したが農業部門に關してはあまり顧みる暇はなかつた。だが一九二五年頃より歐洲諸國は小麥の豐作に直面して自國産小麥の保護が當面の問題化し、輸入關稅のみでなく輸入割當制の實施とか或は輸入を政府獨占の下に置いて統制を採るとか自國産小麥の保護施設を確立した。従つて小麥保護に成功した各

國は他の農産品の輸入に手を擴げ、斯くして農業生産品の保護政策は世界恐慌の深刻化と共に益々強化され、其の排他的傾向は自給自足主義が根底深く植へつけられてしまつた。

農業國の工業化過程は生産機構の進化であつて國際的に擴大する可能性は到底不可避の現象であつて如何なる方策を以てしても其れを阻止することは出來ぬ。從來の農業國は主として債務國の立場にあり、とかく農産物輸出の停頓に累せられて資本の國際的移動も休止せざるを得なくなり、又購買力の減退は歐洲主要工業國の海外市場に於ける生産品の狹隘化と共に國際收支にも深刻の打撃を受けてゐたものである。排他的鎖國主義を強化し農業生産品に不自然的人爲政策を施して流通性に富む農産原料品の國際的移動を萎縮させる工業國の農業保護政策は世界貿易の進展に障礙を與へる許りでなく、ひいて世界海運の活動を徒に不振に導くものである。

要するに世界經濟恐慌により國際貿易は極度に沈滞不振となり、海上荷動きは停頓してこれが輸送の局に當る世界海運は久しい不況に喘いで居るが其の反面世界海運企業も恐慌の深化と共に自由企業の獨立性が稀薄になりつゝあることが明かに看取せられるのである。「海は陸を支配す」とか「何々の將來は海上にあり」とかの詞も自由主義華やかなりし時代にこそ海運企業の特異性があつた譯であるが世界恐慌の深刻化が激しくなるに伴つて國家主義的經濟政策が強化されるに及んで國際的に開放されてゐた海運企業も海洋の自由性に制限が付けられかけてゐる。近時海運企業が輸出入貿易に對し隷屬的地位に墮せんとする傾向は顯著の事實であつてかの自國貨自國船主義を高調して自國海運を保

護するために輸出入貿易に或る種の制限を附して自國船の擁護を策するなどはこの間の消息を如實に物語つてゐる。海運保護のために高度の補助金交附政策を強化しつゝあることも海運企業の獨立性を喪失せしめてゐる證左であらう。自國海運の保護伸張のために國庫の尨大なる補助金政策を徹底的に遂行してゐるのは米、獨、佛、伊等であつて本邦の如きも幼稚産業の育成時代を通じて手厚き保護を受け、航權の開拓、外國海運との競争對立のために依然として他の産業に比較の出來ない保護を受けてゐる。自由主義の祖國英國もかのオッタワ會議以來、自國海運の凋落に對して補強工作を施すために、數百年來の傳統を破つて自國不定期船隊の對外活動に尨大の補助金交附を開始するに至つた。世界海運が國家的保護政策のみならず、補助金交附の恩恵がなければ其の獨立企業性を脅される傾向を帯びて來たことは海運企業の生産機構に潜む内在的缺陷を曝露したものであるまいか。又海運企業は國防的見地から海軍政策の一環ともなつて來た。往時に於ても商船の軍用化は幾多の重要性を演じたものであるが、特に海軍縮條約の出現以來この傾向は益々濃化した。ロンドン條約の締結後巡洋艦の制限が實施せられるに及んで一層商船の軍用化問題は熾烈となり優秀快速の商船隊建造を刺戟するに至り各國はこの種商船隊の保持に可なり努力してゐる。本邦に於ても船舶改善助成施設はこの間の事情を物語るものであり、米國に於てはスワソン海軍長官の戰時に於ける商船の軍用化に對して特別立法を要請したことは周知の事實であり、ルーズヴェルト大統領も商船隊の能率化を圖るために現行保護政策の強化を要望し、特に戰時用最適船舶の建造に融資の途を開き、外國海運との競争力を

旺盛ならしむるために建造費及び運航費のバランスを國家の補償の下に置かしめんとする要旨を提議してゐることは注目に價ひする。

世界經濟の分離化傾向が激化しつゝある情勢下に於て、海上荷動きの増進が期待されないとこへ、海運企業の自由獨立性が極度に脅されて稀薄化しつゝあることは、自由産業たる海運企業の特異性に對して悲しむべき情勢と謂はなければならぬ。

ロ、世界船腹の輸送力

一九三五年六月末現在の世界船腹は六千三百七十二萬七千總噸を示し、前年六月末に比して約六十三萬噸餘の減少を示してゐる。これを大戰前の一九一四年六月末、及び三四年六月末の兩年の列國保有別に見ると次ぎの如くである。

世界船腹と主要國保有量 (ロイド・レヂスター調査)

各年六月末現在 (單位 千總噸)

	一九一四年	一九三四年	一九三五年
英 國	一八、八九二	一七、六二九	一七、二九八
佛 國	一、九二二	三、二六〇	二、九八九
獨 逸	五、一三五	三、六八〇	三、六九三
和 蘭	一、四七二	二、六一二	二、五五四

伊 太 利	一、四三〇	二、八七五	二、八三八
日 本	一、七〇八	四、〇七三	四、〇八六
米 國	一、九五七	三、九八〇	三、九六七
計	二、〇二七	九、七九五	九、六六五
「計」中には其他の國を含む。	四五、四〇四	六四、三五七	六三、七二七

二六

前表は要するに一九三四年六月末より三五年六月に亘る一ヶ年間の世界船腹の消長を表面的に現はしたものであつて、スチーマーの減少が百三十三萬噸に及んでゐるに反してモーター船は七十萬噸の増加を來たし、新造船として進水した船舶は百十四萬九千噸を算し、結局六十三萬噸の減少となつてゐるがこれに解體船、喪失船を考慮して略解すると

一九三四年六月末	世界船腹	六四、三五八
	解體船腹	一、四五〇
	喪失船腹	三三〇
	進水船腹	一、一四九
一九三五年六月末	世界船腹	六三、七二七

(單位 千總噸)

の如き推移を示してゐる。此の新陳代謝の跡は不經濟老齡船が姿を没して新鋭代船が建造され、特に百十五萬噸の新造船中モーター船が七十萬噸を占めてゐる事實は世界總船腹の絶體數量が六十三萬噸

の減少を來たしても全輸送力にはあまり大差のないことが判明するのである。

以上述べた世界總船腹はレヂスター・ブックを通じて觀察したものであるがこれは海運市況の不勢から老なる繋船船舶の存在を輸送力のあるものとしての計算であるが實際上の輸送力は此の繋船船舶を控除し就航船舶のみを以てして始めて茲に世界船腹の輸送力が見出されるのである。この見地から世界海運の船腹需給状態を算定すると前述する船腹減少の事實が全く覆へされて世界海運の輸送力は荷動關係の趨勢に逆轉的傾向を辿つてゐるのではないかの疑點が浮ぶ。一九三四年六月末に世界繋船量は減少したけれども優に八百七十萬噸を算し、一ヶ年後の三五年六月末にも尙ほ五百三十萬噸に及んでゐる。此の繋船の漸減傾向は一部が不經濟船として解體された爲めであるが近時は多數繋船を解除して就航させて居る。世界船舶の就航船腹を測定すると

(單位 千總噸)

一九三四年六月末現在	世界船腹	六四、三五八
	繋船船腹	八、七四〇
	就航船腹	五五、六一八
繋船解除船舶		七二〇
新造進水船舶		一、一四九
解體船舶		一、四五〇
喪失船舶		三三〇

二七

一九三五年六月末現在	就航船舶	五七、一五七
	繫船船舶	六、五七〇
	世界船舶	六三、七二七

の如く三五年六月末現在に於ける世界就航船舶は過去一ヶ年を通じて百五十八萬噸膨脹してゐる譯であつて、ロイド・ブックによる六十三萬噸の減少は世界海運市況に影響する點よりすると實相に觸れたものとは謂はれない。

こゝに世界恐慌の突發時たる一九二九年以降の就航船舶を揚げると次ぎの如き推移を示してゐる。

世界船舶と就航船舶の推移 (各年六月末現在)

年	世界船舶		繫船船舶		就航船舶	
	總噸	千總噸	總噸	千總噸	總噸	千總噸
一九二九年	六五、一五九	三、三八四	六三、〇二三			
一九三〇年	六六、四〇七	五、四三九	六二、五八五			
一九三一年	六八、七二三	九、六五三	五九、〇七〇			
一九三二年	六八、三六八	一四、一六六	五四、二〇二			
一九三三年	六六、六二八	一一、四七二	五五、一五六			
一九三四年	六四、三五八	八、七四〇	五五、六一八			
一九三五年	六三、七二七	六、五七〇	五七、一五七			

即ち世界船腹は一九三一年を頂上として其れ以後は漸減の傾向を辿つてゐるが尙ほ海運恐慌は世界

市場に於ては膨脹を餘儀なくした。この繫船量の最高峰は一九三二年の一千四百萬噸で實に世界船腹の二十%に及んでゐたがこれも漸減して其の大部分は解體されて姿を洩したものゝ三五年末にはなほ五百萬噸を算してゐる、反面世界船舶の輸送力は新造就航船舶の膨脹に伴つて増大しつゝある傾向が看取される。即ち世界海運の船腹需給關係は一九三二年まづ漸減の一途を辿つたがそれにも拘らず依然たる過剩状態を持續して、三三年以降は漸次増大化してゐる。三五年十月末より年末にかけても解體船、進水船の關係からすると世界就航船舶は五千八百萬噸に達して居るが、斯くの如き就航船舶の膨脹は一見海運市況の好轉したるものゝ如く見ゆるが、事實は然らず、畢竟國家主義的自國船保護政策の濃厚化した所産であつて列國が競つて自國海運の再建をめざして自國船の對外競争力を強化したからである。世界海上荷動量の増進がない情勢下に於て徒に就航船舶の膨脹することは海運企業 of 安定性を危殆に導くもので世界海運の再建にとつて妥當性を缺く現象である。

世界海運に船腹需給の基調が破壊され依然として是正が出来ないことは叙上の世界就航船舶腹の漸増傾向を見ても判然するが、茲に過去十ヶ年間に於ける世界船腹の喪失、解體並に進水の新陳代謝した跡を見よう。

世界船舶の解體、喪失及び進水 (ロイド船級協會調査)

年	解體船		喪失船		進水船	
	總噸	千總噸	總噸	千總噸	總噸	千總噸
一九二六年	七九九	四二八	一、六七五			

一九二七年	四〇三	四五〇	二、二八六
一九二八年	七三六	四八二	二、六九九
一九二九年	九四三	五一五	二、七九三
一九三〇年	八四九	三八四	二、八八九
一九三一年	一、〇一八	三一八	一、六一七
一九三二年	一、三四六	三五〇	七二七
一九三三年	二、四一三	三二〇	四八九
一九三四年	一、七四一	三三一	九六七
一九三五年	一、四〇〇	三二〇	一、二八八

(備考) 三五年の「解体」及び「喪失」は概算なり。

喪失船舶は論外として、解体船と進水船の推移を見るに、一九三一年までは進水船の量が解体船を凌駕して世界船舶は増大の傾向を有してゐたものであるが恐慌深度が甚しくなるに伴つて三二年以降其の趨勢は逆轉して解体船の數量は進水船を超えてゐる。即ちこれは尙大なる繋船群中の就航目途のなき不經濟老齡船が市場より大量姿を沒したことに基因するもので海運不況の深刻化を物語ると同時に海運恐慌克服のために船腹需給の均衡を達成すべく列國が船舶優秀化の實施を古船解体、優秀船新造の合理化運動によつてなすべくこゝに活路を見出したのである。世界海運の不況を物語る進水船と解体船の大勢逆轉傾向は三二年を始めとしてゐるが三三年の世界進水船は未曾有の減少であつてこれと同時に解体船の數量も二百四十萬噸を算する尙大の古船が市場より撤退したのであるが、この解

體船増大、進水船減少の出發年たる三二年以降三五年に至る四ヶ年に兩者の合算をみると、進水船の三百四十七萬噸に對し解体船は六百九十萬噸に及んでゐる。然しながらこれらの解体船は運航中の船舶ではなく、一九三一年以來の尙大なる世界繋船群中の不就航船であるから、結局海運恐慌の進行中にも拘らず新鋭船の進水が三百四十七萬噸あつたと謂ふことになり、茲に船舶の優秀化に伴ふ輸送力の膨脹した事實は表面的數量の背面に甚大の影響のあつたことに氣付くのである。繋船群中よりの解体船は主として大戦時以前の建造にかゝるものが多く従つて船舶の輸送能率も低い種類のものであつたが繋船而して解体であるから其等の船舶の輸送力は零であつたとも謂へるのであるから、四ヶ年中に建造せられた新造船が速力に於て輸送能率に於て新鋭優秀船たるに疑點の餘地はないからインヴィデブル・トンネージを加味した船腹量は單なる數字で片附けられないものがある。況んや近時進水船中内燃機船増加の趨勢は三五年中の進水船中八十一萬三千噸を算し總進水船の六十三%に達してゐる事實からしても速力の高度化と内燃機關の裝備化に伴ふ船舶の積載重量及び容積の能率増大は輸送力の膨脹化を招來せしむることは當然であつて、海運不況の打開のために船腹需給の基調を是正せしむることが緊急事と認められてゐる折柄、斯くの如き世界船腹の輸送力擴大が強行せられてゐる事實は海運不況を更に激化するものであつて市況の好轉を期待することは困難であらう。

八、世界海運市場の大勢

世界船腹の輸送力過剰は依然たるものがあり、船腹の需給均衡が是正されない以上、海運市況の大勢は畢竟不況裡に終始したといふの外はないのであるが三五年の運賃市場の概観に關して英國海運集會所の年次報告を引用して見よう。該報告には英國海運の一般的情勢及び三五年中に於ける世界海運に與へた幾多の要因を詳細に述べて居るが其の運賃率の稍々好轉した事實に對して述べて曰く

「運賃率は漸次好轉して現在に於て大體運航費をカヴァすることが出来るが完全なる減價償却を行ふに至らず、投下資本に對する公正な収益を擧げ得ることは全く不可能となつてゐる。不定期船運賃市場は年初より崩落して二月には一九二九年を基準とする指數に於て六九・二四を示し、一九三〇年以來の低率となつたが其後穀物運賃の最低率協定が實行されて運賃の低調傾向は或る程度に阻止することが出来た。他方無統制運賃市場は引續き軟調を辿つてゐたが下半期に入るに及んで伊エ紛争に基く伊太利船腹の世界運賃市場より撤收したこと、歐洲政局の尖鋭化で商品需要の増大により海上貨物輸送の増轉を促したことによつて運賃市況は漸く硬調を帯びて十二月には遂に一九二九年の水準に對し始めて九十%に上昇することが出来た。年初頭に於ける不定期船市場の不振は定期船運賃にも反動的影響を與へんとする傾向があり穀物運賃の統制が消極的に定期船運賃の落勢を防止することが出来て、最低運賃率下にある統制市場の不定期船を競争力から開放した。」

要するに世界海運市場の大勢は依然として前途尙ほ多難の裡にあるが叙上運賃市場の推移を雄辯に物語る示標である英國海運集會所調査の不定期船運賃指數を掲げると左の如くである。

英國海運集會所不定期船運賃指數 (一九二〇年を一〇〇とす)

年	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十	十	年
平均	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	平均
一九三三年	一九三五年	一九三四年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年
一八・八五	一八・五七	一九・〇四	一八・八五	一八・五六	一九・〇一	一八・〇一	一八・一七	一八・四九	一八・七五	一九・〇〇	一九・八五	一九・五八	一九・八八
一八・五六	一七・二二	一八・〇一	一七・七四	一七・二六	一七・六九	一七・四三	一七・七八	一七・二七	一七・六二	一七・九二	一七・九五	一八・八五	一九・〇〇
一七・七四	一七・六九	一八・二六	一七・二六	一七・二六	一七・九三	一七・四三	一七・七八	一七・二七	一八・七五	一九・〇〇	一九・八五	一九・五八	一九・九七
一七・二六	一八・一六	一七・六九	一七・二六	一七・二六	一七・九三	一七・四三	一七・七八	一七・二七	一八・七五	一九・〇〇	一九・八五	一九・五八	一九・九七
一七・四三	一七・七六	一七・六九	一七・二六	一七・二六	一七・九三	一七・四三	一七・七八	一七・二七	一八・七五	一九・〇〇	一九・八五	一九・五八	一九・九七
一八・一〇	一七・七六	一七・六九	一七・二六	一七・二六	一七・九三	一七・四三	一七・七八	一七・二七	一八・七五	一九・〇〇	一九・八五	一九・五八	一九・九七
一九三三年	一九三五年	一九三四年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年
一八・八五	一八・五七	一九・〇四	一八・八五	一八・五六	一九・〇一	一八・〇一	一八・一七	一八・四九	一八・七五	一九・〇〇	一九・八五	一九・五八	一九・八八
一八・五六	一七・二二	一八・〇一	一七・七四	一七・二六	一七・六九	一七・四三	一七・七八	一七・二七	一八・七五	一九・〇〇	一九・八五	一九・五八	一九・九七
一七・七四	一七・六九	一八・二六	一七・二六	一七・二六	一七・九三	一七・四三	一七・七八	一七・二七	一八・七五	一九・〇〇	一九・八五	一九・五八	一九・九七
一七・二六	一八・一六	一七・六九	一七・二六	一七・二六	一七・九三	一七・四三	一七・七八	一七・二七	一八・七五	一九・〇〇	一九・八五	一九・五八	一九・九七
一七・四三	一七・七六	一七・六九	一七・二六	一七・二六	一七・九三	一七・四三	一七・七八	一七・二七	一八・七五	一九・〇〇	一九・八五	一九・五八	一九・九七
一八・一〇	一七・七六	一七・六九	一七・二六	一七・二六	一七・九三	一七・四三	一七・七八	一七・二七	一八・七五	一九・〇〇	一九・八五	一九・五八	一九・九七
一九三三年	一九三五年	一九三四年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年
一八・八五	一八・五七	一九・〇四	一八・八五	一八・五六	一九・〇一	一八・〇一	一八・一七	一八・四九	一八・七五	一九・〇〇	一九・八五	一九・五八	一九・八八
一八・五六	一七・二二	一八・〇一	一七・七四	一七・二六	一七・六九	一七・四三	一七・七八	一七・二七	一八・七五	一九・〇〇	一九・八五	一九・五八	一九・九七
一七・七四	一七・六九	一八・二六	一七・二六	一七・二六	一七・九三	一七・四三	一七・七八	一七・二七	一八・七五	一九・〇〇	一九・八五	一九・五八	一九・九七
一七・二六	一八・一六	一七・六九	一七・二六	一七・二六	一七・九三	一七・四三	一七・七八	一七・二七	一八・七五	一九・〇〇	一九・八五	一九・五八	一九・九七
一七・四三	一七・七六	一七・六九	一七・二六	一七・二六	一七・九三	一七・四三	一七・七八	一七・二七	一八・七五	一九・〇〇	一九・八五	一九・五八	一九・九七
一八・一〇	一七・七六	一七・六九	一七・二六	一七・二六	一七・九三	一七・四三	一七・七八	一七・二七	一八・七五	一九・〇〇	一九・八五	一九・五八	一九・九七
一九三三年	一九三五年	一九三四年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年
一八・八五	一八・五七	一九・〇四	一八・八五	一八・五六	一九・〇一	一八・〇一	一八・一七	一八・四九	一八・七五	一九・〇〇	一九・八五	一九・五八	一九・八八
一八・五六	一七・二二	一八・〇一	一七・七四	一七・二六	一七・六九	一七・四三	一七・七八	一七・二七	一八・七五	一九・〇〇	一九・八五	一九・五八	一九・九七
一七・七四	一七・六九	一八・二六	一七・二六	一七・二六	一七・九三	一七・四三	一七・七八	一七・二七	一八・七五	一九・〇〇	一九・八五	一九・五八	一九・九七
一七・二六	一八・一六	一七・六九	一七・二六	一七・二六	一七・九三	一七・四三	一七・七八	一七・二七	一八・七五	一九・〇〇	一九・八五	一九・五八	一九・九七
一七・四三	一七・七六	一七・六九	一七・二六	一七・二六	一七・九三	一七・四三	一七・七八	一七・二七	一八・七五	一九・〇〇	一九・八五	一九・五八	一九・九七
一八・一〇	一七・七六	一七・六九	一七・二六	一七・二六	一七・九三	一七・四三	一七・七八	一七・二七	一八・七五	一九・〇〇	一九・八五	一九・五八	一九・九七

前表に明かなるが如く世界不定期船市場は上半期を通じて不況裡に終始して居るが後半期は主要穀

物運賃率の最低額協定が履行されてゐるので從來の協定に比し豫期せざる効果を擧げてゐることは永續的不況に悩んだ不定期船界の一貫した不況克服に邁進せんとする協力的精神の發揚の結果と見る可く、其の上伊エ紛争の進展と共に伊太利船腹が市場から離脱したことは一層市場の好轉に拍車をかけた。九月より十一月にかけて沸騰的市況の硬調を示したことは歐洲再動亂の豫想を織込んだ結果であるがこれは一時的の線香花火式に終つて行つた。當時に於ける運賃市場の全般的好轉は紛争地帯、地中海方面に極度の反映を見せ、同地方諸港揚げ石炭運賃の如き年初頭の六志六片が時に六志四片といふ軟勢にあつたが十月に入るに及んでサウス・ウエルス/アレキサンドリアは九志六片となり、夫れに關聯して海上保険も戰時特別料率を課する情勢となつたが英伊の地中海對立が稍々緩和されるに及んで市況も軟勢を辿つて行つた。従つて世界不定期船運賃市況が僅かの好轉を示したのも要するに實際情勢の危機化したことに基因するものであつて船腹需要の増轉を促す常態的の海上荷動の擴大が原因ではなかつた。勿論主要穀物運賃の最低率協定實施は其の統制市場に運賃上昇力を與へたが無統制市場の運賃率は逆に落勢を示してゐる。即ち英國不定期船航路補助法下の統制委員會で前者の運賃率は三四年に比して四分五厘の上昇をしたが後者は一方方の低落をしたと發表してゐる。

世界不定期船運賃市場は主要穀物運賃率の最低制度協定實施と歐洲に於ける國際政局の對立的危機症狀に影響され辛じて低落を免れたが一方倫敦備船市場は如何なる傾向を辿つたであらうか。備船市況は通則として運賃市況に先驅し常に騰勢現象を呈するものであるが大體運賃市場と並行的の歩みを

辿つてゐる。年初頭は三四年に比して不勢を示してゐたが四、五月頃より一段と騰勢を見せ、東阿戰局の激化するに及んで甚しく上昇したことは蓋し運賃市場と同様の氣配に捉はれたものであらう。備船市況の動向が運賃市場に左右されることは當然であるが近時の海運不況は一方に尨大の繫船量を控へて居るので此の輸送力豫備軍が備船市況に背壓的作用を及ぼすことは備船料市況の好轉に一大障礙を與へてゐる。過剩船腹の整理が着々と列國で斷行され繫船群中の不經濟船が大量淘汰されたがなほ世界繫船は五百萬噸臺を彷徨してゐる實狀であるから備船市況に直接的重壓を加へることは當然である。運賃市況の大勢と備船市況を對照するために備船料指數を掲げる。

英國海運集會所備船料指數 (一九二〇年を一〇〇とす)

	一九三三年	一九三四年	一九三五年
一 月	一三・九三	一五・九〇	一三・一五
二 月	一四・二〇	一四・九四	一二・三三
三 月	—	一三・四五	一三・〇八
四 月	—	一二・九五	一三・六三
五 月	一四・九四	一三・四五	一四・六四
六 月	一四・九四	一三・四五	一四・九四
七 月	一四・九四	一三・四五	一四・九四
八 月	一四・二〇	一六・一四	一四・九四
九 月	一四・二〇	一七・九三	一五・六九

十	月	一四・九四	—	二五・四〇
十一	月	一三・九三	—	二三・五四
十二	月	一四・九四	一四・九四	一五・八八
年平均	均	一四・六二	一四・六二	一五・八五

要するに海運不況は船腹需給の均衡が破れて荷物に對し船腹が過剰になつた場合の現象であるから勿論運賃率は下向する。従つて採算的運航の不可能な船舶は繋船する。此の繋船は豫備軍的存在であるから市況の好轉氣配に接すると敏感に繋船解除の舉にでて就航船腹量を膨脹化し、以て運賃市況を軟調に導く作用をする。されば現下の如き老大の繋船々腹が存在してゐることは世界海運の再建を促進せしむる所以でない。茲に運賃市況に直接的因果關係を持つ就航船腹と、備船市況に背壓的作用を及ぼす四者の相互關係を指數に基いて例示すると次ぎの如くである。

・運賃・備船料・就航及び繋船船腹の關係（一九二九年を一〇〇とす）

年	就航船腹	運賃	繋船船腹	備船料
一九二九年	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一九三〇年	九九	七七	六一	七二
一九三一年	九四	七九	二八	五七
一九三二年	八六	七五	四一	五四
一九三三年	八八	七二	三三	六〇

一九三四年	八八	七五	二五	六〇
一九三五年	九〇	七七	一六	六五

船腹の過剰量を調節するために過去兩三年は繋船と謂ふ操短を實施して船腹需給の不均衡を是正せんと試みたが何等の効果もなかつた。蓋し海運企業の特異性は陸上産業の操短の如くこれによつて豫期の効果を擧げることが容易でない。國際的移動性に富み感受性に敏感な海運企業の操短工作は單なる繋船形態を採るのみでは企業の安定性を維持することは不可能である。世界海運をして一九二九年の水準に還元する方途は現在繋船の（三五年十二月末）五百萬噸を解撤した上に、尙ほ就航船舶中の五百萬噸を抹消して始めて船腹需給の均衡が得られるであらう。即ち世界貿易の數量的増加があるか或は積極的船腹縮減策を採用するにあらざれば世界海運の好轉を促すことは絶無と謂へよう。況んや新鋭優秀船の建造が顯著の現象となつて來た三六年の世界海運の景氣進路も晏如たるを許さざるものがある。

二、英國海運政策の轉向

世界最大のノルマンディ號と鎬を削る英國のクイーン・メリイ號の進水式は英國先帝陛下、現皇帝陛下の御親臨の下に盛大に舉行されて、然も皇后陛下であらせられた皇太后陛下の御名まで贈つてゐる。ナチス・ドイツの極東航路就航の第一船シャールンホルスト號の進水式には總統ヒットラーが親

しく臨場して「獨逸海運の再興は極東から」と獅子吼した。是等の情景は一體何を物語るのであるか。國際海運戰の尖鋭化は遂に國家總動員に等しき熱意を以つて官民一致となり國際商戰に於ける爭覇に躍氣となつてゐることが解るが其のために列國の海運政策も保護的色彩が益々濃厚化して來る許りとなつた。光輝ある傳統の自由主義を永い間誇つてゐた英國も、自國海運再建のためには保護政策を實施しなければならぬ情勢に陥つてしまつた。從來とても、極端なる海運保護政策を採つて來た米國は現行郵便報償金制度に代つて、露骨なる海運補助策を企圖し、ルーズヴェルト大統領は海運界の權威を集めて外國船との運航費及び造船費との差額を補助すべく案を練つてゐる。佛國は郵便航送報償制度と、タツソー法と稱する一種の不定期船補助制度とを併用し、伊國も亦定期船補助、不定期船補助、解撤獎勵制度の各補助制を有して居り、ナチス・ドイツは船主の債務支拂保證、運航及び船員給料補助、解撤獎勵補助の海運保護政策を以つて臨んでゐるなど列國海運は競つて自國海運の對外競争力を培養して來たがこの傾向は世界經濟會議の自敗以來、特に顯著となつて來た。

一八九〇年即ち今を去る四十五年前、世界の商船は二千百十萬噸に過ぎなかつた當時、英國海運は實に其の四十九%を占め、一千二十四萬噸を保有して、世界海上貿易に於て天下無敵の飛躍をなし以つて列國海運を蹙若たらしめてゐたがこの無敵商船隊に對し獨逸海運の急速なる驚異的躍進は刻々と肉迫して英國海運に脅威を與へる好敵手となつた。勿論この間佛、伊、和、諾等の列國も夫々自國商船隊の陣容を整備して英國海運の牙城に迫つて行つたが獨逸海運の精進振りには及ばなかつた。一九

一四年の大戦直前には世界船舶は四千九百萬噸を越ゆる數量に膨脹してゐたが、其の内英國海運は一千九百十三萬噸を占め、世界比率に於ては三十九%へと顛落してゐた。他方獨逸海運は五百四十六萬噸に増大して十一%の割合を占め、明かに英國海運の活動分野を蠶食しつゝあつたことは疑のないところで、從來世界海上貿易に獨占的甘味を貪つてゐた英國海運にとつては痛烈な大打撃であつたに相違ない。此時歐洲大戰は世界海運の内容を一變してしまつた。大戰中は例の獨逸の潜水艦戰で英國商船約六百萬噸を撃沈し、大戰直後には一千六百五十萬噸に低下する状態となつた。この間相手國たる獨逸も徹底的打撃を受け約二百萬噸を失ひ保有量は三百五十萬噸に減じ、續いて媾和條約と共に更に其の三百萬噸を聯合國側に奪はれて僅か四十萬噸といふ少量に低下してしまつた。これに反して獨逸の三百萬噸は大部英國の有に歸し英國海運は再び一千九百五十萬噸と比率も三十二%を保有するに至り斯く大戰直前の状態を取り戻すことが出來た。だがこれだけの内容變化であれば英國海運にとりてまことに好條件であつたが、由來好事魔多しで茲に新敵手米國海運がむく／＼と擡頭して來た。米國海運は大戰前航洋商船二百九十七萬噸を保有して世界比率でも僅か六%の低位に過ぎなかつたが大戰中、中立國として海運活動に全力を注ぎ商船の建造達成に努めた結果、大戰直後には一千四百七十萬噸を算するに至り、世界比率に於ても一躍二十四%を占めて世界第二位の海運國となつてゐた。即ち大戰前の英獨關係に比し米國海運の膨脹は英國にとりて遙に緊迫關係を招來したのである。然るに米國海運の躍進は大戰の終了と共に停頓して尨大なる商船の大部分は徒に繫留され米國をして眞の海運

經營國たるの資格なきものたる實體を暴露させるに至つたがこの大量鑿船群はやがて世界海運市場の痛となり海運市況に重壓を加へ、間接的に英國海運に打撃を與へたものである。

其後に於ける世界海運の内容的推移は英國海運にとりて苦悶そのものであつて荊棘の道を辿つたことは周知の事實である。米國海運こそ桃源の夢を結んでゐたが日、獨、佛、伊、和、諾等の諸國は着々と陣容を充實して所謂朝に一城、夕に一壘と英國海運の地盤を奪つて來た。特に内燃機船の發達は自國內に石油資源が乏しく、自國石炭の輸出減退は英國にとつて二重、三重の打撃であつた。一九三五年にはさしもの英國海運も世界總船腹中、一千七百三十萬噸、世界比率で二十七%の低率に陥ち込んでしまつた。大戰前には獨逸海運の急激なる壓迫に遭ひ、大戰後には多數後進海運國の包圍に直面した譯であるが試みに、英、獨二ヶ國の保有船舶と二ヶ國を除いた其他諸國の商船の膨脹した跡を見ると

年	英獨を除いた世界船舶		英國		獨逸	
	噸	隻	噸	隻	噸	隻
一九三五年	四二、七三六	一七、二九八	一〇、二四二	一、〇五五	五、四六〇	六五四
一九二一年	四一、六八七	一九、五七一	一九、二五七			
一九一四年	二三、三三七					
一九〇年	九、三〇七					

の如き推移を示して、これは或る意味に於て英國海運の衰退を如實に物語つてゐるものではあるまいか。

斯くの如く英國海運は頽勢裡にあるが今尙ほ世界船腹の二十七%を占有し英本國並に其の屬領諸國の貿易は全世界の三十%を占め、これらの海上貨物の移動は相互に距離が長く全世界に亘つてゐる關係上自國海運のみでは帝國內の貿易を全ふることが出来ない状態にあつた。従つて列國商船隊に海上貿易の好餌を供給してゐたのであるが世界經濟恐慌の深化すると共に世界貿易は極度に萎縮し英國自體の貿易も激減した。世界船舶の過剩輸送力が船腹需給の均衡を失するや英國海運の打撃は更に加重した。英國はこの恐慌打開のためにオッタワ會議を開催して帝國內の貿易促進、並に自國貨自國船主義を提唱して英國海運の再建を企圖したが往年の優勢を奪還することは出来なかつた。英國海運の對外活動に基く貿易外收入たる海運純收を見ても如何に英國海運の頽勢裡にあるかと反映してゐる。即ち一九二七年には海運純收入は一億四千萬磅を算してゐたが世界恐慌の進展と共に漸次減少して三五年には七千五百萬磅を示してゐる。茲に一九二九年以降の純收入を運賃の騰落作用に基き海運純收入を明示して英國海運の對外活動量を彷彿して見よう。

英國海運の對外活動量 (單位百萬磅)

年	海運純收入		ロイド・リスト 運賃指數に於て修正したる純收入		海運活動量指數	
	百萬磅	指數	指數	指數	指數	指數
一九二九年	一三〇	一〇〇・〇	一三〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一九三〇年	一〇五	八一・一	一二九	九九	九九	九九
一九三一年	八〇	七九・八	一〇〇	七七	七七	七七

一九三二年	七〇	七五・一	九三	七二
一九三三年	六五	七二・二	九〇	六九
一九三四年	七〇	七三・八	九五	七三
一九三五年	七五	七四・三	一〇一	七七

即ち運賃指數は一九二九年以降逐年低落してゐるが三三年を底として上昇傾向にあり、一九三五年は尙ほ一九二九年の水準に對して二十五%の低落を示してゐるので運賃収入も運賃の落勢に作用せられて低下してゐる。二九年當時の運賃率が保持するものとした場合は第三段に示す純収入に算定されるのであるがこれを以てしても英國海運の對外活動の退化してゐることが明かに判明する。従つて對外活動量を彷彿する指數で表示すれば第四段の如く、稍々好轉したと謂へる三五年に於ても尙ほ一九二九年に比較して二十三%の退轉を示し英國海運の對外活動量は依然鈍化してゐることが如實に現はれてゐる。

世界海運の王座を占めて世界海上貿易に天下無敵の活動を振舞ふてゐた英國海運も斯く頽勢の跡を見せて居るがこれに加ふるに世界經濟恐慌の強襲に直面した世界貿易の萎縮は英國の輸出入貿易にも大打撃を與へずにはゐなかつた。就中世界經濟會議の失敗以來列國の國家主義的排他政策は通商の上に自國海運の上に手厚き保護を加へ出したことは前述する通りである。國際海運資本戰の激化は遂に光輝ある自由主義の傳統を誇る英國をして自國不定期船に對して保護制度を實施するに至らしめた。從來よりの郵便航送報償制度の外に時のランシマン商相は一ヶ年を限り二百萬ポンドを不定期船遠洋

航路補助に投げ出し、更に本邦の施設を眞似た船舶改善施設制度を設けて英國海運の對外活動強化策に最後の切札を出したことは英國船の競争力を旺盛化し諸外國船に比して優越的地位を確保せしめんとするものであるが、茲に看過することの出来ないことは自由主義の傳統を護る英國の海運保護積極策が刺戟となつて列國海運に保護政策の競演を招くやも保し難き情勢に導きはしないかといふことである。従つて問題となつてゐた國際海運會議の主題たる列國海運の補助金制度も早くより一抹の不安を醸すに至り會議そのもの、機能を喪失する機運を投げかけた。この不定期船補助制度の内容は概略左の如きものである。

- 一、補助金 總額二百萬ポンド以内、但し一ヶ年の平均運賃率が一九二九年平均運賃率の九十二%以上に達した場合には一定割合に従つて補助額を遞減する。
- 一、交附の條件 補助金は一九三五年一月より十二月に運航せる不定期船に下附する。但し油槽船旅客船、冷凍船並に英國諸港間の沿岸航路に就航する船舶は除外する。又船主間の協調に違反して運航する船舶には下附しない。
- 一、補助金下附の方法 補助額は船舶の噸當り航海日數(トン・デイス)に準據して毎四半期中間交附を行ひ、年末に精算する。
- 一、機關 商務省の諮問機關として不定期船助成委員會を組織し補助金の交附その他の助成に關する全般の事項を審議具申せしめる。

この外に不定期船統制委員會を組織し不定期船の合理化、外國船との對抗策、國內定期船との協調などを考究する。

然らば同制度が如何なる成績を挙げ得たかといふに單に世界海運が船腹の需給調節といふ合理化に手を染めずに互に自國海運に非經濟的の補助政策を強調して企業性を不堅實化ならしめ焦眉の急務たる船腹需給の不均衡を是正せんとする努力を拂はず、相互に躍起となつて自國海運の保護を強調する世界海運保護政策の傾向が深められて行くばかりであつた。

ホ、國際海運會議の失敗

世界經濟恐慌の深度が漸く濃厚化するにつれて萎縮した世界貿易は世界海運資本に致命的の打撃を與へ、遂に海運國の王座を占める英國をして不況打開を名とする國際海運會議の開催を提唱せざるを得なくならしめた。傳統を誇る自由主義より保護主義へと百八十度の急轉回して國家經濟政策を強化した英國は世界海運資本戰の内在的矛盾の糊塗策として高唱されつゝある自國貨自國船主義、海運補助制度の競演に關して新たな視角より再吟味し以て世界海運資本の再編成を一舉に解決せんと企圖したのも自國海運の頽勢を往年の優越的地位にまで還元せんとする英國海運資本の強壓的威力に基くものであると見られてゐる。

世界海運の不況對策としては既に一九三二年十二月に開催された國際商業會議所特別委員會に於て

も世界船腹の需給調節問題が論議されたが別に何等の具體を見ずに終つた。續いて一九三三年のロンドンに於ける世界經濟會議準備委員會も世界船腹の調節並に新造船船に關して國際的協定に達する可能性に言及したがこれも有耶無耶に流産してしまつた。一九三四年三月北歐諸國より成るバルチック海運會議は同様の目的のために英國を促して國際海運會議を英國首唱の下に開催すべきことを決議し實現に向つて努力したが偶々英國は不定期船補助計畫を具體化し同時に列國海運と協議して世界船腹の需給を調節すべきことを懇願して世界海運市場の好轉に對し何等かの協定を結ぶべきことを促したので、茲に世界海運會議が具體化される運びとなり三五年一月十四日からロンドンに於て第一次豫備會議が開かれ世界船舶の合理化案原案が作成されて各國參加船主團體に發表せられるに至つた。

抑も世界海運會議が過剩船腹調整に乗り出したのは海運の合理化を目指して種々の審議を重ねなければならぬが既に海運保護國に轉向した英國として往年唱へた補助金問題を再燃する筈なく遂に會議議題から補助金問題が削除されたことは注目すべきである。然し乍ら列國海運資本の相刺する處は非經濟的國家補助が海運を企業的な不堅實性に導くものとして列國海運の補助金問題は會議開催前議題化するや否やに關して重大岐路に陥らざるを得なかつた。其れがため國際商業會議所海運部委員長ノツテンベルト氏やリバプール船主協會長ビーズレー氏、さてはイギリス海運集會所、米國船主協會等を繞つて賛否の大論争が展開され、更にドイツ交通省のフェツスラー氏は金本位國の補助金制度は金本位離脱國に對する經濟的正当防衛であつて獨、佛の補助金制度は理論的根據のあるものであるが、英

米、日のそれは不當極まるものであると喝破して補助金制度の再吟味を試みるなど熾烈な論駁が交されたのであつた。斯くて船腹合理化と補助金問題は不可分のものであるとする一群と船腹需給の調節こそ焦眉の急務であつて非經濟的補助金制度は何等の効果あるものでないとする一團との對立的論争も結局各國海運資本を再編成するといふ結論には一致するに至つて、遂に會議の討議を容易ならしめ一般的支持を受け得ると豫想された合理化案のみを議題草案と決したので参加に難關を見せた米國の態度も決し、一時絶體的反對を唱へた獨、佛、伊も参加を受諾したので茲に世界海運資本の儀禮的協力機關の豫備會議は十七ヶ國の參同を得た次第である。一九三三年の世界經濟會議の失敗の苦い經驗を顧みても各國の經濟的利害關係の交錯に徴しても其の効果は殆んど期待され得べき性質のものでなく、單に一時的の彌縫糊塗策が講ぜられるとしても世界海運の痛腫は容易に切開されるとは會議直前より豫想されざる情勢にあつたことは否定出來ない。

翻つて本邦海運は金再禁止以來、異常の好轉に見舞はれ世界海運の不況に逆行して獨自の恵まれた諸條件にあつたが不参加の場合を豫想する英國の或る種の排他的差別待遇も傳へられてゐたので國際的感受性に富む海運企業を再吟味する國際會議に参加することは若干の犠牲も亦已むを得ずとなし一月十一日に開催された日本船主協會理事會は急遽參加と決定し齋藤日本郵船ロンドン支店長を日本代表に任命した。かくて第一次豫備會議は一月十七日ロンドン海運集會所内に於て開かれ、英國海運集會所海運政策委員長エツセンド卿が議長となり十七ヶ國が出席して各國船腹を世界海運實需に應ずる

ために割當て國際的協力に基いて過剩船腹の合理的調節を實現化するため各國より一名の委員を選出して合理化原則案並に基礎計畫に關する起草委員會を組織し、翌十五日より研究に着手して十八日終了した。其の結果作成した合理化案は各國船主團體に回送されて審議せしめた上更に第二次豫備會議を開くことを決定してゐる。會議に先だち次の如きコムミニユケが發表されてゐる。

「世界船腹に需給調節の必要なることは痛感する處であつて國際海運會議開催の目的もこれがためである。これがために基礎的草案を作成し、各國船主團體の審議を俟つて速急に本會議を開催する豫定である。委員會作成の草案は代表選出國を何等拘束するものでなく本會議開催前までに豫め各國體の校閲を得べきものである」

第一次豫備會議に於て作成せられた世界海運合理化基礎草案の内容は一九三四年二月結成を見た國際油槽船プールの合理化計畫を模型としたものであつて世界海運に横はる難問題の解決に最も重大なる第一歩を踏み出したものと謂へよう。この合理化案は國際船主評議會とも謂ふべき機關の設立を意味するものでこの機關の活動を俟つて世界船舶の需給調節の機構を改善せんとするにあり、其の對策として現在に於ける世界船腹六千四百萬噸中より油槽船九百萬噸を控除した殘餘の五千五百萬噸中より更に船齡二十五年以上の老齡不經濟船千百萬噸を差引いた四千四百萬噸に對して實際の需要船腹を三千六百萬噸と見、其の過剩八百萬噸を繋船し、或は運航不能の船舶は解體し、解體船には毎噸一磅、繋船には一ヶ年より四ヶ年までは毎噸十志を支給し、この支給資金は運航船舶より噸當り二志六片を

醸出せしめんとするものである。尙ほこの資金を徴集する方法として各國政府は自國の港に入港する船舶に對して噸當りの特別賦課を徴集して其れを國際船主評議會に移牒するのである。この方法は既に國際油槽船プールに依つて試験済で効果を擧げてゐる。従つて同様の機構を一般船舶にも適用することの可能性を有するものであるが其の規模が擴大なる場合、管理は甚だ複雑することは疑のなきところであつて若し此の方法が効果を擧げ得るとすれば世界海運資本に對する根本的問題として論議の重要性を痛感させた海運補助金問題の如きも世界船腹の合理化達成の暁は自然に消滅するものと觀測される。

第一次豫備會議の基礎草案の送附を待つた日本船主協會は三月中旬より本邦側の態度決定のために數次の理事會を開催して研究對策を練つた。先づ豫備會議より送附された原案、即ち繫船を中心とする合理化案に對しては大連、辰馬、山下、互光、岸本、島谷、大阪商船、岡崎、板谷、神戸商船の十社で原案審査委員會を組織して研究し、同時に石原、大洋、中村、松岡、佐藤國、近郵、北日本の七社よりなる本邦独自の合理化案作成委員會を組織して世界船腹の共同解體を中心とした日本案の研究に當らしめることゝなつた。かくて第二次豫備會議に提出すべき日本案は日本船主協會の第一、第二委員會に於て幾多の研究を重ねた結果、繫船を中心とする全理化案の如き將來に禍根を残すものより一步進めた共同解體案を以て本邦独自の合理化案を作成すべしとする意見が有力となり、茲に本邦側に於ても繫船案を中心とする原案側と、本邦独自の解體、新造を中心とする共同解體案を支持するも

のとの意見が對立して協議が纏まらなくなつたので更に特別委員を選んで右兩案の折衷案を具體的に研究することになつた。右特別委員は太平洋海運、松岡汽船、佐藤國商店、近海郵船、北日本汽船、山下汽船、石原産業、辰馬汽船、互光商會、岡崎汽船、板谷汽船、神戸商船、大連汽船の十三社であつて可及的迅速に協議して本邦最後案を決定するに至つた。然して新に作成せんとする獨自案は、第一案たる繫船案でなく、第二案たる解體、新造併行案でもなく、解體のみに重點を置いたものであつて各國が無制限に新船建造を斷行する場合は解體に依る船腹調節も効果を失する結果、新造に對しては或る種の制限を加へることを考慮したことが第三案の特色であり、その内容は新造一噸に對して解體三噸の割合として、解體船は内外船の如何を問はず、解體船主に對して規定する補償金を交附し、右補償資金は加盟船主より徴集するといふのが大體の骨子であるが細目に亘つて相當に議論の餘地があり、特に解體と新造に制限を附した本案は趣意に於ては最適案であるが實際上に於ては本邦第一次船舶改善助成施設に現はれた如く解體船の船價を不當に騰貴させる傾向が多分にあり、従つて船腹調節の目的に逆行する反對現象を見るやも保し難く、新造船に關しては全然觸れず、解體のみを以て進むべしとする意見も有力となつたので、(一)解體補償金、(二)運航船よりの徴集金、(三)除外すべき船舶限定、等の審議を兼ねるために更に小委員を組織して一氣に解決することになつた。右小委員は近海郵船、國際汽船、大阪商船、三井船舶部、辰馬汽船、北日本汽船、板谷商船、岡崎汽船の八社が選出されて日本船主協會独自の海運合理化案を再審議することになつた。

繋船を中心とする原案を放棄して本邦独自の立場から最終的決定を見た解体を目標とする日本船主協會案は大體次ぎの要綱から成つてゐる。

- 一、船主に對して解体を奨励し過剩船腹は實施期間内に解体する。
- 一、加盟國の代表を以て中央機關をロンドンに設置し、各國代表を以て理事會を組織する。
- 一、理事會は解体奨励、釀出金の賦課徴収、補償金の支拂、仲裁等一切の事務を統轄する。
- 一、各國に國內機關を設置する。
- 一、解体補償基金として純一噸に付き一ヶ年大體一志見當を徵集する。
- 一、釀出金は實施決定より六ヶ月後に徵集し爾後六ヶ月毎に徵集する。
- 一、船舶の解体は外國に於ても許可する。
- 一、解体船主は解体補償金を受ける。(イ)補償金は純噸數一噸最高四十志とし條件により遞減する(ロ)最高補償金は實施後三ヶ月以内四十志、最低は二ヶ年以後三十志。(ハ)解体申込船舶は爾後貨物の輸送に従事することは出来ない。(ニ)旅客、郵便、冷凍貨物の各スペース。油槽船、捕鯨船、漁船、帆船、湖水船、回遊船、非商業用、國有、公有船、總噸數二千噸未満の船舶及び國際機關が有効單位たらずと認定した船舶は補償を受けることが出来ない。
- 一、本計畫は三ヶ年有効。以後一ヶ年毎に延長すること。但し六ヶ月の豫告で脱退することを得
- 一、紛議は仲裁に附し仲裁裁定は最終且拘束を有する。

一、非加盟國の船舶に對しては特別の考慮をする。

四月十二日の最終理事會で決定を見た世界海運會議の本邦合理化案は同月二十五、六日と逓信當局と官民協議會を開催することになり、協會側よりは常務理事の樺木幹雄、牧野元、余語光、河野常八、山本源吉、谷口房雄六氏と管理委員として石田貞二、野村治三良、佐藤國一三氏が出席しこれに黒川船主協會長が参加し、逓信省側は淺野管船局長を始め伊勢谷監理課長、重光船舶課長が臨席して協議に入り、船主協會側より世界海運の不況を打開する合理化案としての繋船中心案の如きは適切のものでなく且つ恒久性に缺けてゐるを以つて飽くまで解体案を以つて進むべく主張する所があり政府當局も其の意のあるところを諒として賛意を表し、翌二十六日も前日決定を見なかつた賦課金問題に關して討議するところあり、漸く官民協議の一致を見るに至つた。残された問題は運航船より徵集する賦課金を如何にして徵集するかにあるが、船主協會を強制組合化するか又は政府當局で新法規を制定するか二途あるのみであるが前者は實現性に乏しく所詮後者に依る外なき模様で世界海運本會議の雲行如何によつては賦課金徵集の特別法規が制定される譯であつて本邦海運の世界海運合理化案は本格的に世界の舞臺に踊りでて列國の論議の的となつた次第である。

かくて各國の基礎草案に對する回答を待つて開催すべき第二次豫備會議は最初四月末と豫定されてゐたが六月十七日/二十一日の五日間に亘つて開催する旨の通告に接したが米國は船船院で同國海運を支配してゐると主に定期船であるとの立場から、海運合理化問題にあまり利害關係を表示せず、

回答も延々となつてゐたので遂に開催期日が延引したに拘らず本邦が極東の一角から敢然として積極的合理化案を逸早く送附して各國から注目されたことであつた。六月中旬の開催が七月一日と變更されたがこれも延期され夏期を経て十月開催との非公式情報が入るに及んで一般には同會議も立消えになるのではないかとの懸念が擡頭し、世界船舶の合理化問題も混沌たる状態となつた。然るに世界海運會議の進捗が斯くの如く停顿状態にあるのに業を煮やした歐洲船主はこれと別個に世界各航路に亘る不定期船運賃の協定を実施するのが焦眉の急務であるとしてプレート、加奈陀、濠洲等の小麥運賃最低率協定が或る程度成功しつゝあるに鑑み、世界海運會議が目鼻のつくまで暫定的に廣汎なる運賃協定を実施せんとする機運が濃厚化し、特に此點に關してギリシヤ船主が強硬に英國船主を牽制してゐる事實は世界海運會議の開催延期事情を繞つて注目すべきである。

果して七月十二日に至り會議主催國たる英國有力船主團體たるリヴァプール船主協會々頭ローレンス・ホルト氏はデヤールナル・オブ・コンマース紙に聲明書を送つて「リヴァプール船主協會は國際海運會議第一次豫備會議に於て作成された合理化案をエツセンドン卿がパリーの國際商業會議所會議に於て提唱されたが其れには斷然反對である」として其の理由も發表した。即ち(一)合理化案は毎年多額の賦課金を徴集するがこれによつて運賃率の好轉を促すことは單なる假説に過ぎない。(二)若しこれを實施すれば海運補助金交附國の海運利益を圖ることになり經濟的基礎に立つて經營する海運國は不利を招く。其の結果英國船員の失業を増加せしめる。(三)本案は世界各地に亘り著しく異なる状態を考

慮してゐない。同時に荷主の保護に關しても何等の條項を含んでゐない。(四)本案は行政的にも實行不可能であるとなしてゐる。

以上の聲明に對して署名せる船主は英國の主要定期船主十七社であつて英國は既に國內的に足並の不一致を來たし、會議開催の成否は豫斷を許さざる情勢に陥つたがこれがために英國は會議の主催者たる立場上苦境に立つた次第である。米國を除く參加國の意見書の出揃ひを前にして強制賦課金を採用することは一に政府の干渉を誘致することになり、徴集金額の大部は既に政府の補助を受けてゐる船主の手許へ流入することになるので定期船筋及び一部の不定期船筋の強硬なる反對ありと稱して第一次會議の基礎草案に對する代案を提議して來た。これは任意的且つ地域的條件を基礎とした新合理化案であるがこれも國內的且つ國際的に賛意を得べきか否かは疑點のあるところがあつて一般に實現性の乏しいものと見られてゐた。斯くして十月開催と豫定された第二次豫備會議も英國自體に於て草案審議の望を絶つた上に、伊エ紛争に基く地中海の政情不安が世界海運合理化の問題を一時停顿せしめるの止むなきに至り、遂に十月七日英國海運集會所は聲明書を發表してこの點を明かにした。

「國際海運會議事務局は各加盟團體に對して列國の多數は本年十月合理化に關する第二次豫備會議を開催することの提案に賛成せるも二、三國は未だに回答を送附せず、且つ現在の政治情勢は此の際會議を開催することの不可能なる旨を通告した由。而してこれと同時に各加盟團體に對しては可及的速かに會議を開催するため八月中廻附した文書につき意見を提出する様に要求せり」

何れにしても對立する列國海運資本の爭覇戰であり、表面協調的の態度を示してゐても其れが血みどろの戰を意味する以上たとひ補助金問題が合理化案より除外されようが合理化案そのものが本會議に於て成界を収める期待は最初より薄かつた。伊エ戰爭といふ思はぬ際物が飛び出したために折角の合理化計畫も有耶無耶の形となつて解消するに至つた。深刻なる世界海運不況の危機打開策としての海運會議を不調に終らしめた底に流れるものは實に列國海運に國家主義の強調された爲めであり、他方世界海運の對立激化は更に拍車をかけて結局共倒れになるか、又はその一步手前で補助金制度の保護政策強行、自國貨自國船主義の濃化、海運鎖國主義の尖鋭化からする實力戰が展開されることは必然であらう。

三、海運市場好轉の新支柱

イ、軍事的色彩の濃厚化した海上荷動

一九三五年の世界景氣の特質は自力的回復を基調とするアメリカ景氣と軍擴景氣乃至戰爭景氣とがかち合つて出來上つたものでこの色彩が濃厚に浮び出て景氣は新規上昇した。従つて世界景氣の有機的回復には凡そ縁遠いものであつて、所謂國家經濟政策が強調される處、世界工業生産や貿易の中にも此變態景氣の色彩は明瞭にあらはれてゐるのである。世界海運の好轉を促す支柱は何としても國際

貿易の増進以外に積極的發展の道がないのであるが一九三五年に於ける國際貿易の増加は前年に比して僅か一・八%に過ぎない。しかも尙ほ茲に注目すべきはこの貿易増量が専ら兵器貿易の増加に基くとされてゐる。ベルリン景氣研究所調査によれば世界の兵器貿易は一九三五年に入つて頗る増加し、遂に恐慌前の水準を突破してゐる。

世界兵器貿易數量 (一九二九年—一〇〇)

一九三二年	五七
一九三三年	六〇
一九三四年	八三
一九三五年	一〇七

右の如く世界貿易の増轉が兵器貿易の増加に基くことが顯著の事實となつてゐるがこれを世界船舶の交通關門の一であるスエズ運河の通航報告に見ると其の一斑が窺はれる。即ち次表に示す如く一九三五年のスエズ運河通航船舶は三千二百八十一萬噸で、一九二九年を除いた過去の最高レコードを示してゐる。

スエズ運河通航船舶及び貨物噸數

年	通航隻數	通航船舶噸數 (單位 千登簿噸)	通航貨物噸數 (單位 千噸)
一九二九年	六二七四	三三、四六六	三四、五一六
			五五

一九三〇年	五、七六一	三一、六六九	二八、五一一
一九三一年	五、三六六	三〇、〇二八	二五、三三二
一九三二年	五、〇三二	二八、三四〇	二三、六三二
一九三三年	五、四二三	三〇、六七七	二六、九一五
一九三四年	五、六六三	三一、七五一	二八、四四八
一九三五年	五、九九二	三二、八一	二六、三二八

五六

しかも此の通航船舶の増量は専らイタリ軍のエチオピア遠征による軍需品輸送の殷盛を物語るので、この遠征關係の通航船舶は約四百萬噸と推定されてゐる。その最も多かつたのは十月で通航船舶は三百二十二萬噸といふ未曾有の數量に達した。尤も軍用船舶の通航量は一九三四年の三十五萬三千噸に過ぎなかつたが三五年は二百七十七萬八千噸と六倍の激増振りである。尙ほ空船の通航量は三四年の四百四十一萬八千噸から三五年は四百七十萬五千噸に増加してゐる。これも伊エ紛争の影響である。即ち南航の空船通航が前年に比して三十二%方減少したのに對し北航の方は十四萬八千噸から百八十一萬四千噸に激増してゐる。これを國別に見てもイタリ船舶の通航量は二百八萬九千噸から六百七萬八千噸と増加し、過去十數年に亘つて第五位前後の通航量であつたものが三五年には一躍第二位に飛び上つた譯である。勿論第一位は依然として英國であつて一千五百七十三萬五千噸の通航量を示してゐるが三四年に比すれば百五十萬三千噸の減少であつて運河開設以來始めて通航全船舶の半ばに満たない不振を示現してゐる。一方通航總船舶より伊エ紛争關係の分を除くと普通のスエズ通航船

船は約二千八百八十萬噸となり、これも過去十年來の最低記録を示し、世界的不況の最も深刻であつた一九三二年當時の數量と略等しくなるが三五年のスエズ運河は經濟的機能を失つて軍事的機能を發揮してゐることが明かに判然する。

ロ、英國不定期船補助の實績

一九三五年の世界海運市場の水平線に新らたなる波紋を投げた英國の不定期船補助制度は國際海運會議の主題たる世界船腹の合理化計畫に對し寧ろ反對的な現象として登場した。英國海運集會所の第五十九次年會は三六年二月二十七日開催されたが其の席上發表された報告に「英國産業は著しく復興し又世界貿易も稍と好轉したが世界海運は依然として不況裡にある。而し英國の不定期船補助と船舶改善融資制度は政府の要望した運賃協定制度的發展と相俟つて英國海運をして一時的にせよ其の地歩を維持することが出來た」と述べてゐる如く英國不定期船が傳統を破つた遠洋航路補助制度によつて崩壊から免れたことは否定出來ない。商務省政務次官バージン氏も同法の延長を審議するに當つて「一九三五年二月に運賃は一九二九年に比して六九%にまで崩落したが年末には九〇%に回復した。だがこの現象は恒久的に安定化したとは見られないから補助制度の使命は未だ終了したとは思はれない」と説明してゐる如く、不定期船補助制度が恰も運賃市場の好轉を齎らしたかの如き口吻を洩してゐるが、これは右補助制度實施の結果、不定期船主間に運賃の協定が行はれ、主要穀物航路に於ける

最低運賃の協定が達成せられて無統制運賃市場に常に見られる運賃不當競争の弊が除去されたがためであつて補助制度が英國不定期船の對外競争力を強化させたに過ぎないのである。尙ほ單なる對外競争力の強化のみでは徒に列國海運との對立競争を激化せしめて運賃市場に於ける争奪は必ずや市況の落勢を招來せしむることになるので政府の企圖は補助制度を効果あらしむるために運賃率協定といふ自治的統制策を慫慂したものに外ならない。がこれは英國不定期船のみならず、外國船主も同計畫を忠實に支援したことは海運企業の國際的流動性に鑑み建設的協力をしたものと謂へる。同時に運賃の安定化を歓迎する荷主の支持するところとなつて連續五ヶ年の英國不定期船業態の不成績を勘らず好轉せしむることが出來た。英國不定期船の財政状態が危機的症狀に瀕してゐたことは一九三五年の不定期船補助制度が立法化されるときに確認された既定事實であるが其の内容に至つては依然として改善されてゐない。フェア・プレイ誌の調査によれば代表的不定期船會社三十一社の減價消却は二分の一に過ぎず、全然消却費を準備すること不可能なるもの二十一社、無配當のもの二十七社、配當した會社にしても配當平均率は僅か四厘六毛の低率となつてゐる。従つて二百萬磅の補助金全額を以つてするも消却費に完全に充當することが出來ない譯である。英國不定期船の輸送に當る大宗貨物たる輸出石炭及び輸入穀物の數量を見ても次の如く、船腹の需給状態と均衡を失してゐることが解る。即ち石炭輸出は三五年に僅か三千八百七十萬噸でこれに對して三四年は三千九百七十萬噸、二九年は六千三十萬噸、一九一三年は七千三百四十萬噸と激減してゐる。一方輸入穀物數量は三五年の一千十萬噸、三四年の一千二十萬噸、一九一三年の一千一百十萬噸と大きな變化はないが、外國船の競争と原

産地に於ける作柄の關係とで船腹需給の不規則性に煩はされる不利があり、世界的海上荷動が増量しないのであるから不定期船補助に刺戟せられて繋船解除した就航船腹の膨脹は不定期船業態の復興に重大なる障礙を與へて海運収益を引續き低下せしめてゐる。
過去兩三年に於ける英國航洋船の就航状態を一瞥しても繋船減少、就航船増大の一斑が判るが、結局これが不定期船補助の最も顯著なる効果であらう。

英國航洋船の就航状態

(總噸數三千噸以上)

(單位 千總噸)

定期船	貨物船	油槽船	總計
一九三二年末	七、一〇四	三、九〇一	一一、五二〇
就航船	九三六	一、六〇二	六一二
計	八、〇四〇	五、五〇三	一三、五三二
一九三三年末	七、一〇〇	四、〇九三	一一、一六六
就航船	五六五	七七八	四二八
計	七、六六五	四、八八一	一二、〇九四
一九三四年末	七、〇〇三	四、三二三	一一、七八八
就航船	五三九	三〇一	三一〇
計	七、五四六	四、六二四	一二、〇九八
一九三五年末	七、一四八	四、三九〇	一一、八四九
就航船	二一一	七六	二三六
計	七、三五九	四、四六六	一二、〇八五

斯くの如く英國の不定期船に對する遠洋航路補助は不況に喘いでゐた同國不定期船をして全く蘇生の状態となし著しく對外活動力を旺盛化したことは就航船の増量したことによつても解る如く、三五年夏頃に於ける彼の老なる船腹が極東市場に進出した一原因ともなつた位であつた。此の不定期船遠洋航路補助が如何なる程度に同國不定期船を潤したかといふに、豫想外の好成績を擧げてゐる。即ちこの補助金を支給せられた不定期船主は三七九社であつて、總額百九十八萬九千九百九磅に上つてゐる。然して此の遠洋航路補助が同國不定期船に對して重量噸當り約八片半となつてゐるから現下の對英爲替相場からすると邦價に換算して約六十三錢程になる。噸當りに斯くの如き高率の補助があるとなれば如何に英國不定期船が恵まれた保護を受けてゐるかゞ首肯出来る。英國不定期船がこの國家補助によつて對外活動力を強化したことは本邦不定期船の遠洋配船にとつて極めて重大な問題であることは疑のなき處である。

英國不定期船が遠洋航路補助と最低運賃率の協定により外國船との競争に優越的地位を確保したことは最低運賃制の協定を見たリヴァー・プレート航路に於ける英國船の就航量に見ても解る。即ち一九三四年の英國船の比率は四一%であつたが一九三五年は五〇%に増加してゐるのである。

リヴァー・プレート航路に於ける配船國別 (隻數)

イギリス船	一九三四年	一九三五年
	五五七	五七八

ギリシヤ船	四七二	三三四
オランダ船	六六	七三
ユーゴ・スラビア船	五八	七五
イタリー船	九六	一一
其他	九四	五四
計	一、三四二	一、一二五

(備考) 一九三四年は一月一日より十二月三十一日まで、三五年は二月十四日より十二月三十一日まで。

過去に於ける榮譽をかなぐり捨て、遂に世界海運の合理化を自ら主張せねばならなかつた英國は同時に自國海運政策をして徹底的變革といはれる強烈な補助政策へと急テンポに移行し自國不定期船の著しき活動力を増大して將に崩壊せんとする一歩手前に於て自國海運を救済し進んで列國海運に異常な刺戟を與へたのである。

ハ、不定期船主要航路に於ける最低運賃率

世界船舶の合理化を目ざした國際海運會議も彼の倫敦國際經濟會議が列國經濟政策の利害關係の交錯から決裂した如く第二次豫備會議すら開催することを得ずして流産してしまつたが其の副産物として不定期船主要航路に最低運賃制が列國不定期船主の間にも協定されたことは三五年の世界海運市場の特異的な現象であつた。元來不定期船の輸送する貨物は主として大量又は嵩高の原料品であつて、

棉花、羊毛、木材等の工業原料品、石炭、鑛石、岩鹽、燐鑛石等の鑛産物、或は小麥、砂糖、米、大豆等の農産食料品であつて、これら貨物は鑛産物を除いて多くは生産が季節的關係に制約されてゐる。従つて其の積出し時期も一時的に輸送されることになり、船腹の需要も特定時に急増することになるが現時に於けるが如く船腹需給の均衡が甚しく破れて過剩船腹に悩まされ不定期船運賃市場が慢性的不況の極に達してゐる場合、運賃率の低調化を招くことは當然で、此際よし世界船舶の合理化計畫には失敗したといへ無統制市場の統制化を企圖として列國海運の對立的競争下にある不定期船市場の統制が小部分でも容易に解決したのであるから特筆に値ひする。

尤も英國不定期船補助制度にも補助金交附は運賃率に對して遞減的に支給されるを原則とし且つ市況の好轉を回復して不定期船經營の基調を是正せしむるために政府は船主に對し組織改善に協力すべきことを要求し、無統制下にある不定期船の再組織を具現せんとしたことは、不定期船管理委員會の活動によるものである。とにかく英國不定期船を主としてこれにギリシヤ、ユーゴ・スラビア、伊太利の船主が参加して茲にリヴァー・プレートより英歐向け穀物の最低運賃制が三五年の二月以降實施せられ、續いてセイント・ローレンス河積加奈陀穀物の英歐向けと濠洲穀物の英歐並に極東向の最低運賃制が成立するに至つた。主要穀物運賃最低率の實施が何等の破綻を見ずして經過したのに鑑みカナダ向け英炭、歐洲炭、黒海炭や白海、バルチック海積の木材輸送にもわが北洋同盟會の如き運賃協定が行はれて居るがこの協定の恒久性如何は世界不定期船市場にとりて注目すべきものであるが一ヶ年

の實驗を得た効果はとにかく低落した運賃率を或る程度まで引上げることが出來たので英國海運集會所の年次報告に指摘された如く、最低運賃制下にある航路に於ては運賃は四・五%の上昇、無統制市場下に於ては一%の低下を示してゐる。即ちこの最低運賃制の實施は主として英國不定期船管理委員會が料率の決定並に適用區域の變更等を決定し指導した點に特徴があり、最低率を低下することなしに、漸次料率引上げに成功したことは統制市場に於ける船主の協調的態度の發露に負ふものであらう。英國不定期船の遠洋補助制度と不定期船主要航路に於ける最低運賃制の適用とは不可分の關係にあるもので、不定期船の對外活動を強化せしめて自國船運營の基礎を確立せしめ、運賃市場の統制を強調したところに補助制度の萬全を期したところが窺はれる。今後に残された不定期船航路は大連積出の滿洲大豆、黒海並に北米太平洋岸積の穀物、南阿の玉蜀黍、西印度の砂糖、チリ硝石等であるが他面自國貨自國船主義の強調されるところに國際的協力が達成されるや否やは疑問の餘地がある。世界海運會議の主題たる過剩船腹の整調が全く不問に附せられ、列國海運は自國海運の就航率を増大せんとする努力を試みてゐる現狀に於て世界海運の基調を是正せんと企圖することは極めて困難であらう。従つて變態的な最低運賃制が突如、海運市場に出現したのもギリシヤ船主の創意とは謂へ英國海運政策の急激なる轉換から出發したものであつて不定期船の遠洋航路補助、最低運賃制、英ブロックを繞る自國船主義の三段構への攻防陣は國際海運戰に對處する英國海運の企圖以外の何物でもあり得ない。

二、國際油槽船プールの船舶統制

世界海運會議の開催は遂に國際情勢の尖鋭化によつて世界船舶の合理化計畫が達成せられずに終つてしまつたが油槽船界には船舶統制に關して顯著の効果を擧げ得た國際油槽船プールが現れた。茲にその結成と其後に於ける推移を述べて見よう。

元來油槽船は一般貨物船と異つて特殊の用途を形成してゐるだけに伸縮性が甚だ乏しい。従つて石油の國際關係についても歐洲大戰後は逐年其の工業用途が擴大して石炭の領域を犯し、ために油槽船腹の膨脹して來たのも當然である。しかるに一九二九年の世界恐慌を轉機として世界石油の消費量に停頓の兆が現はれ續いて次第に減少する頽勢を示し、其の國際的移動も不振に陥つた。世界石油の國際的活動に異變があれば油槽船にも敏感に反映せずにはゐない。遂に油槽船船腹の需給均衡が破れたのである。世界油槽船の不況を齎した事由は世界石油の海上移動量が著減した以外に新鋭快速油槽船が世界恐慌の直前より列國海運によつて多數建造せられ、これら優秀油槽船は石油輸送力を増大する作用を與へ、世界油槽船界の不振を一段と深刻化した。大型デイゼル・タンカーにして十七、八哩の快速を有する新鋭船は舊來の十哩程度のものを完全に競争圏外に放出したことは蓋し優秀船の經濟化として當然のことである。

世界油槽船市場は恐慌の發展と共に船腹過剰となり一時約三百萬噸にも及ぶ繫船を斷行せざるを得

ない状態にあつた。元來世界石油の生産は主として獨占的巨大なトラストを背景として必死の生産調節を實施して價格の崩落を防止してゐたので、ソヴェートやルーマニア石油の進出があつても或る程度の價格維持には一應の成功を見せた。だが消費減退して生産調節に惱まされ他方海上移動量の著減した事實は油槽船自體の有する特殊性と其の新鋭優秀化による輸送力増大とのために油槽船運賃は未曾有の低水準を見るに至り、特に石油生産者所有以外のフリー・タンカー船主の打撃は甚しかつた。従つてフリー・タンカーを多數に保有して國際的オープン・マーケットに活動してゐる諾威の油槽船界は一九三二年六月末に百八十五隻、百四十萬噸中、五十三隻四十五萬噸を繫船するといふ不活動の状態となつた。斯くの如く油槽船船主の不振は諾威に限らず特殊的立場にある本邦海運を除いて列國海運の等しく受けた打撃であるが、この油槽船界不況の打開のために諾威船主は率先して油槽船カルテルの結成に努力し、備船者側たる石油生産者、造船業者、金融業者の支持を得て船舶投資に對する公正なる收入を確保しようとして試みた。だが各船主の協同的精神の缺除は其の七十%の加盟を見るにとゞまり残る三十%のアウトサイダーの統制攪亂に煩はされて不幸失敗に終つてしまつた。一方一九三三年以來英國の油槽船主間にも油槽船運賃率の國際的引上策が倫敦海運集會所に於いて研究中であり偶々油槽船界の不況に加ふるにジャバ輸出の米國向きの糖密輸送の減退から其の輸送の任にあつた英國糖密輸送船の打撃が油槽船界の不況に拍車をかけた。

英國油槽船主の積極的對策として呼びかけた油槽船不況打開運動は歐洲各國船主の支持を得て英國

を中心に歐洲八ヶ國に油槽船船主が一九三四年二月、大油槽船隊の所有者であり、フリー・タンカーの備船者たる石油トラストの賛意を得て茲に國際油槽船プールの設立を具體化した。この國際油槽船プール設立は諸威に於て試みんとしたプール體を踏襲したものであるが其の實運賃率の公定には全然觸れず、且つ繫船計畫に關しても放任主義を採るといふ新しい出發點を具へてゐた。即ち油槽船の就航、繫船ともにプール加盟船主の任意であつて船主の自由性、獨立性は完全に認められ何等の制限を附せざる特殊なもの、唯運賃收入に關して船主或は備船者は其の收入中の一部をプールに醸出する規定となつてゐる。現實の醸出率はトリツプ・チャーターは十%、タイム・チャーターは十二%であつて、其後この料率は三四年六月に前者は十五%に、後者は十八%に引上げられた。この就航船の醸出金は繫船船舶に對する補償金資金となつて分配されるのであるが規定として繫船一總噸當り一ヶ月最高四志、即ち六ヶ月を一期として最高二十四志を越えざる範圍に於て分配する。其の第一期の補償金はプールの活動開始期たる一九三四年五月より十一月に至る六ヶ月の分として十五志四片半に及んでゐる。勿論デイズル船と汽船との間には稼航力の關係から後者は前者の七十%の補償率を受けることになつてゐる。第二期決算は三五年五月を以て行はれたがデイズル船の補償金は十九志九片交付された。第三期決算は三五年十一月を以て終つたが補償金は十七志六片になつた。一九三六年一月プール理事會は倫敦に於て開催され、醸出率を七・二%と九%に低下し、現行六ヶ月の繫船補償最高額一總噸當り二十四志を十五志に變更する決議をした。

斯くの如く國際油槽船プールは不況打開策として比較的伸縮性に富むカルテルを結成して一應船腹の調節に効果を擧げたが茲に其のプール加盟油槽船の内容を見ると次ぎの如く諸威が首位を示し英國を加へてこの二ヶ國が全プールの三分の二を占めてゐる。

國際油槽船プール加盟の油槽船數量 (隻數)

	汽船	機船	計
諾威	二六	一一〇	一三六
英國	四七	四七	九四
伊國	四〇	七	四七
佛國	一一	三	一四
瑞典	一	〇	一〇
獨逸	九	八	一七
和蘭	一	七	八
丁抹	一	七	七
土耳古	一	一	二
計	一三五	一九九	三三四

尙ほ以上プール加盟油槽船は歐洲に於けるフリー・タンカーの九十七%に當つてゐるのであるから現實的効果のあつたのも當然であつて、船舶調節を加味した協同的統制が國際的に實施せられたこと

は世界海運會議の不調に終つたのに比して皮肉の現象と謂はなければならぬ。因に一九三五年六月末現在に於ける各國保有の總噸數一千噸以上の油槽船は次ぎの如くである。

各國保有油槽船隊 (ロイド・レヂスターより)

國名	隻數	總噸數 (單位 千噸)
米 國	三八八	二、四九一
英 國	三七九	二、三三三
諾 威	二二一	一、五六四
和 蘭	七九	三六六
伊 國	六七	三二九
佛 國	三七	二一三
日 本	二〇	一五〇
獨 逸	二八	一一九
全 世 界	一、四四五	八、八九六

即ち全世界の油槽船は八百九十萬噸に達してゐるが各國海軍の所有する非商業的の油槽船が約六十三萬噸包含されてゐるので民有油槽船隊は八百三十萬噸となる譯であるが、この民有油槽船中、獨占石油生産者たる三大石油會社に所屬してゐる數量は五十四%に及び、然も米國系資本、英國系資本の油槽船の分布が世界石油の生産及び輸送に強大の實力を有してゐることが判然する。

石油生産者の所有する油槽船 (單位 千總噸)

スタンダード	二、一〇〇
ローヤル・ダッチ	八五〇
アングロ・ベルシヤ	五三〇
其他	九二〇
小 計	四、四〇〇
フリー・タンカー	三、九〇〇
合 計	八、三〇〇

このプールが結成せられた當時は油槽船運賃下落傾向の惰性が甚しかつたためプールの活動が疑問とされてゐたが、釀出金の引上げ、補償金の擴大などが反映してか、繋船の自發的獎勵が次第に市況を引締め、三四年末にはプール加盟の所屬船中の四分の三は繋船を斷行した。其れがためプール結成の前年末と結成の年末に於ける加洲ノ歐洲の運賃は十三志から十五志へと躍騰した。當時油槽船のタイム・チャーターレヂは四志乃至四志六片であつたが前述する補償金は二志六片に當り運航船主も運賃率の昂騰に伴つて釀出金の重壓を感じず、繋船船主も儲船料の過半が補償されるのでプール結成の現實的効果は顯著の事實として認めざるを得なかつた。元來不定期船市場に配航されてゐたフリー・タンカーのプールが斯くの如く實績を挙げ得たのは比較的少數船主が多數の油槽船を支配してゐたことに基くものであるがプール結成の背後に巨大なる獨占資本を擁する石油生産業者がプール結成の一

支柱となつたことによるのは否定出来ない。だが石油生産業者は他面大油槽船隊の所有者でありフリー・タンカーの備船大手筋であるが常に石油輸送運賃の不安定に煩はされて石油價格の維持が困難となるのを惧れる處から自己保全のためにプール強化に努力した點も多々ある。勿論米國石油資本の参加はなかつたが英國側は積極的の支持を與へ、プールの達成のためにはプール以外のアウト・サイダーを備船せず、プール加盟員に優先権を與へた。其上石油資本支配下の油槽船にして繋船中のものも市況の軟調に煩はされて敢へて出動せず、萬一出動する場合はプール加盟員同様の釀出金をプールに寄せるなど、石油トラストの補助的産業たる油槽船プールの統制に多大の犠牲を拂つたことは蓋し石油トラスト自體の強化作用以外の何物でもないが其れがためにプールの機能が比較的統制ある活動をするに大きな力となつたことは疑のないところである。

翻つて世界油槽船界の現状を見るに、今尙ほ繋船中の油槽船（三五年末）は約三十五萬噸と計上されてゐるが一ヶ年前の三四年末に於ける八十二萬噸に比しては激減してゐる。右の内繋船を解除して就航したのも相當數に上るが約二十五萬噸は不經濟船として解撤されてゐる。されば三五年末に於ける建造工業中の油槽船は約六十三萬噸に及んでゐるのである、この六十三萬噸中、三十五萬噸は石油資本直屬のものであり、残り二十八萬噸はフリー・タンカーでオープン・マーケットに出動するものであるが、建造中の三分の二に當る四十萬噸が三六年中に就航すると推定しても現在に於ける繋船中の不經濟船が早晚解體される前提の下に新造されるのであるから世界石油の消費増大といふ事實と相俟つて過剰化する惧れはない。試みに世界油槽船の最近五ヶ年間に於ける推移を示すと

世界油槽船（總噸數一千噸以上）

（各年六月末現在）

年	隻數	總噸數
一九三〇年	一、三〇八	七、五三六、三六八
一九三一年	一、四三九	八、五四九、八二七
一九三二年	一、四五八	八、八〇八、八二一
一九三三年	一、四四二	八、七五六、八三二
一九三四年	一、四二〇	八、六六八、四七七
一九三五年	一、四四五	八、八九六、四三七

の如く年々船型は大型化し、大型新造船が就航することは輸送力を増大するかも知れないが一方不經濟船の繋船、解體を考慮に容れると四年前と大差ないことになる。三六年初頭の油槽船備船料が一ヶ年前の四志六片臺から五志六片臺に好轉した堅調は持續するものと見て差支へないし又世界石油界の需要と生産が共に増大して好調を示してゐる事實は油槽船運賃市場に刺戟材料たるは謂ふまでもない。一九三五年の世界石油界にはイタリーの石油需要が重要な好材料となつたが世界一の石油生産國たるアメリカを見ても生産高は一九二九年以來の殷盛を示して居るのは次表に示す如くである。

世界石油生産高 (單位 千バレル)

	一九三四年	一九三五年(見積)
アメリカ	九四六、三二九	一、〇二〇、五〇〇
ソヴェート	一六八、五四八	一六八、八〇〇
ヴェネツエラ	一四二、六九二	一四九、七〇〇
ルーマニア	六三、〇〇九	二六、三〇〇
ペルシヤ	五三、五三五	五二、二七〇
蘭印	四四、〇九二	四四、八〇〇
メキシコ	三八、五七七	四〇、五〇〇
イラク	七、一九二	二五、〇〇〇
合計	一、五六二、八三四	一、六六八、八一〇

一九三五年中の世界生産高は三四年に比して約一億バレルを増加し、未曾有の多量レコードである。減少したのはルーマニア、ペルシヤ等であるが其他の諸國は何れも増加し、就中イラクの生産高は三倍以上に達し、其の他に於ける増産も亦顯著である。かゝる生産高の増大に連れて三五年の石油消費は世界的に増大した。軍需インフレの齎らす世界工業の生産増轉は石油需要増大の最大要因となつてゐる。

永らく開かんとして開けなかつた世界海運會議の目標は世界海運の合理化を斷行して不況を打開するにあつたのであるが、それは一回の豫備會議を開いたのみで有耶無耶の裡に流産してしまつた。こ

れに反して國際油槽船プールは加盟船主の犠牲的協調によつて市況好轉を招來したのであるが國家の保護乃至補助を得て運航してゐる一般船舶が合理化計畫を斷行することが出来ないにも拘らず、國家の補助を受けず自治的統制のみに依存した油槽船が叙上の効果を擧げ得たことは國家の保護を均霑しつゝある世界海運部門に於ける特質的協調工作の成功と謂はなければならない。

木、原料品市場の好轉

一九三四年より三五年にかけての世界景氣の新規好轉が工業生産の増轉にあり、しかも貿易は其れに伴はず跋行的な特殊性を帯びてゐることは既述したが農業生産國の立直りも見逃すことは出来ない。世界景氣の推進力としては世界工業生産の再建が主要條件であつたが農業生産は其の隨伴的現象として需給の均衡を取り戻し原料品生産の増大したことは其の市場性の擴大化を呼び起し茲に世界海運にとりて重要な好轉支柱となりつゝある動向が看取せられるのである。

更に世界海運の好轉に一支柱となり得る原料品市場の前途好望と豫想せられる農業、鑛業生産品の全般的好調の推移を示しつゝある證左には世界原料品市場が三五年の下半年期以來順調の歩み見せて居ることである。三四年の秋にも活況を示してゐたがこれは専ら凶作による食料品價格の昂騰したことが反映したのであつて、農産工業原料品の如きは一部消費工業、就中羊毛工業の中間的不況に累されて甚しく不振の商狀を招來し、同時に鑛産原料品の如きも軟調を呈してゐた。これに對して三五年秋

以來の世界原料品市場の活況が各種原料品全般にわたつて好轉したのは一に世界景氣の一般的昂進に伴ふ原料品需要の増大に基くものであつたが、是に反して世界生産は逆轉して減退を示した。國際聯盟調査にかゝる生産指數を示すと。

世界農業生産指數 (國際聯盟調査)

—一九二五年—一九二九年を基準とす—

年	食料品		原料品		總指數
	食料品	原料品	原料品	原料品	
一九三二年	一〇五	九六	一〇二	一〇四	一〇四
一九三三年	一〇四	九六	一〇二	一〇四	一〇四
一九三四年	一〇二	九六	九六	一〇一	一〇一
一九三五年	一〇三	九九	九九	一〇三	一〇三

の如く需給の均衡は失はれてゐるかの觀を呈してゐる。即ち食料品の生産が少量ながら増加が見越されてゐるがこれは主として小麥其他の穀物の生産増加で、これとても需給逼迫を和らげる程度には到達してゐないのである。これに對して畜產品の生産は特に米國に於て飼料高のために相當減産で農産工業原料品の供給も大體に於て需要を充たすに足らぬ状態であるとされてゐる。即ち羊毛、ジュートの減産政策が効果を擧げ得た如く今尙ほ平均水準には到達し得ない状態である。斯くの如く農産品需給の均衡が尠からず逼迫してゐる事實は農産品過剰に基く價格調整に各生産國が減産政策を採つたことと外ならないが、其の反映として食料品並に原料品共に價格の騰勢を見せ農産品の價格が工業生産

價格に比較して一段と上昇したことは既定の事實であつて、世界市場に於ける農産物の購買力が増大したことを立證することに他ならない。

世界原料品價格指數 (伯林景氣研究所)

—一九二九年を基準とす—

年	食料品		原料品		礦産原料品		總指數
	食料品	原料品	原料品	原料品	原料品	原料品	
一九三二年	四二・一	三三・九	四六・六	四〇・五	四〇・五	四〇・五	四〇・五
一九三三年	四八・七	四四・六	四八・三	四七・四	四七・四	四七・四	四七・四
一九三四年	六二・五	五八・一	五九・七	六〇・六	六〇・六	六〇・六	六〇・六
一九三五年	六七・一	五八・三	五八・〇	六二・六	六二・六	六二・六	六二・六

右の如く原料品價格の上昇には需給の逼迫關係が影響したと共に消費の一般的増加が一層重要な役割を演じてゐる。イギリス、アメリカ其の他諸工業國に於ける購買力の増大は先づ食料品に對す需要の増加となつて現はれた。殊にアメリカに於ける三四—三五年の農業不作は多量の農産食料品の輸入をしなければならなかつたといふ現象は世界原料品市場に大なる刺戟材料となつてゐた。各國購買力の擴大は次いで消費工業に、惹いては消費工業用原料品、即ち棉花、羊毛、生絲等の市場にも需要の増加となつて好影響を與へてゐる。又礦産物原料品市場にあつても主要國に於ける工業生産の増轉と共に需要は急増した。いふまでもなく軍需工業の活況を原料品需要の増加とが與つて大に力あることを如實に物語つてゐる。

これを農産品購買力（工業製産品価格にて除したるもの）に見ても農産品価格が重要工業製産品に比して一段と上昇してゐることが判然する。

農産品購買力指數（伯林景氣研究所）

—一九二九年を基準とす—

	食料品	原料品	總指數
一九三二年	六四・二	五一・七	五九・四
一九三三年	六六・三	六〇・三	六四・一
一九三四年	七〇・七	六五・九	六九・〇
一九三五年	七七・五	六七・三	七三・七

かく逐年増大の一途を辿り三五年には前年に比して約十二%の上昇を示してゐる事實は需給の逼迫に基くものであるけれども他面消費の増大したといふことは海上荷動といふ見地からしても重要視すべきであらう。世界原料品市場の好轉と謂ひ農産物生産品の需給逼迫よりする購買力増大と謂ふ現象も必然的に對照的となるものは海上荷動の變化であつて世界不定期船の好餌たる世界農産物の海上移動は敏感に世界海運市場に衝動を與へるに相違ない。だが世界海運最近の好轉を指示する基礎的條件としては世界繋船の減少、世界造船の殷盛及び世界景氣の回復等が指摘されてゐるがこれらの諸現象は世界海運の樂觀的根據となり得る決定的條件であるか否やは速断することを許されないが世界原料品市場の好轉に伴ふ海上荷動の増加は世界海運に豫備的伏線としてでも樂觀的根據を與へるものであ

る。

へ、世界海運の景氣指標

現下世界海運が當面してゐる問題は船腹の過剩と列國の海運保護制度との二問題であらう。歐洲大戰前と世界恐慌のドン底であつた一九三二年とを比較して見ても世界貿易數量は約二割見當減少をしてゐるにも拘らず、世界船腹は五十%から七十%に膨脹してゐる。しかも列國が恐慌克服のために經濟的國家主義政策から採算無視の國家補助によつて造船及び運航の獎勵を強行してゐるために船腹需給の均衡は依然として是正されず海運企業の生産機構は甚しく歪曲されたまゝである。この事實は世界海運の中心たるイギリスに海運保護の急轉回、國際的船腹調節、國際油槽プール、不定期船遠洋航路補助及船舶改善施設、穀物主要運賃の最低率協定等の動きが齎らされた事實を見てもこの間の消息が判然する。かくて一九三五年の下半年から地中海に於ける英伊對立の激化關係は歐洲各地及び極東方面の運賃に一時的建直りを見せ、繋船も三年前に一千四百萬噸に上つたものが今や五百萬噸臺に減少してゐる。勿論世界的軍需工業の好況に伴ふ古鐵需給の増大から老齡船の解體が進捗したのは繋船減少の一因であるかも知れないが背壓的脅威を及ぼす繋船の減少、造船工業の増轉、及び世界景氣の好轉等の現象は尠くとも世界海運市場に何等かの反映を與へずにはゐない。茲に世界海運の景氣指標として、就航船腹、繋船船腹、解體船舶、進水船舶、建造中船舶、運賃、傭船料の相互關係を指數化

して對照して見ることにする。以下掲げる指數は各項目の過去十ヶ年間の平均を基準として作製したものである。

世界海運景氣指標 (十ヶ年平均を100とす)

年	就航量	繫船	解體	進水	建造中	運賃	備船料	英國卸賣物價	英國事業活動
一九二六年	九七	八二	六九	九六	一〇三	一二三	一一一	一〇〇	八九
一九二七年	一〇一	五六	三五	一三一	一四六	一二二	一一三	一三五	一〇三
一九二八年	一〇四	六四	六三	一五五	一三〇	一二九	一一〇	一三三	一〇三
一九二九年	一〇八	四七	八一	一六〇	一四一	一二三	一一三	一三五	一〇三
一九三〇年	一〇七	七三	七三	一六六	一五二	一三七	一一三	一三五	一〇三
一九三一年	一〇一	一三〇	八七	九三	九四	八七	九五	九七	一〇一
一九三二年	九三	一九〇	一六	四三	七五	九〇	七六	八二	九四
一九三三年	九五	一五四	二七	二八	三八	八三	七二	七六	九三
一九三四年	九三	一七	一四	五五	六三	八二	七六	七九	九七
一九三五年	九六	八	一〇	七四	六六	八六	七九	八二	一〇四

「就航量」とはロイド・レジスター各年六月末現在の世界船舶中より各年六月末現在に於ける米國商務省調査の繫船船舶を控除したるもの。

「繫船」前項参照。

「解體」ロイド・レジスターより。

「進水」同上。

「建造中船舶」ロイド船舶調査より。

「運賃」及「備船料」は英國海運集會所の一九二〇年を基準とする指數より換算す。

「卸賣物價」は英國エコノミスト誌調査のものより換算す(一九一三年—100)

「事業活動」同上。(原指數は一九二四年を100とするもの)

運賃と備船料は大體に於て類似の傾向線を辿つてゐる。備船料は一九二九年に稍々かけ離れて上昇したが二九年以降は運賃率に對して低位の軟勢を續けてゐる。蓋し世界恐慌の進展と共に繫船の老대화したことは特に備船料市況に背壓的作用を及ぼしたことが如實に反映されてゐるのである。運賃と備船料を英國卸賣物價と對照させても三者共に類似の歩調を示してゐることが判る。

世界海運の不況深刻なる例示としては「進水と解體」及び「建造中船舶と繫船」が其の間の消息を雄辯に物語つてゐる。即ち繫船及び解體は恐慌の深化と共に増大してゐるが之に反して進水、建造中船舶は著しく低位を示し、繫船は三二年を解體は三三年を底として減少し、建造は三二年、進水は三二年を底として等しく増大してゐる。繫船群の老化するときは新造船の旺盛を極めるが如き現象はあり得ない譯で、これに反して解體が減少した場合は進水が増加してゐる。この事實は海運市況の好轉を物語るものであるが新造船の就航に連れて輸送力の増大することは過剩船腹の弊を再び招來するもので海上荷動の増轉なき限り海運市況の堅實性は求め得られない。

次に「運賃と就航船腹」の關係を見るに運賃は一九二九年までは後者の上位にあつたが其後は低位

を辿り續けてゐる。これは明かに船腹過剰の事實を反映したものであつて船腹の需給調節が完全に失敗してゐる有力な證據であらう。これに對して「英國事業活動」の動きを連繫させると事業活動の景氣の動向は就航船腹と歩調を一にしてゐる事實が発見される。世界海運の景氣動向を検討するに、單に英國の事業活動の大勢を結び付けることは妥當性を缺く憾があるが、要するに世界景氣は三二年を底として上昇の一途を辿つて好轉してゐるが物價は依然として低位にあり、しかも就航船腹は景氣線と歩調を一にしてゐる事實は明かに船腹過剰の現象が續けられてゐるからで、前記運賃及び傭船料が卸賣物價と大勢を同じうしてゐることも見ても就航船腹の現勢が需給の均衡を喪失してゐることは否定することが出来ない。「運賃と就航船腹」が一九二九年を契機として缺狀を呈してゐる現象は海運企業の生産機構に歪曲せられた缺陷が潜んでゐるものであつて、急激なる海上荷動の増大が船腹の需給均衡を是正する現象に見舞はれない限り世界海運の景氣發展力は持続性を缺くものであらう。同時に世界海運の活動を鈍化せしむる列國國家主義的經濟政策は根底深く浸透して相互に排他的挑戰を激化せしめてゐる海運保護の轉換こそ世界海運景氣の進路を昂進せしむる素因となり得るであらう。

四、世界海上荷動の種々相

イ、小麥の國際移動性の變轉

小麥が農業生産物中産額の點よりしても、海上移動性の點よりしても世界海運にとりて重要性を帯びたものであることは周知の事實であるが、世界恐慌を一轉機として農業恐慌の深度が強まるに伴ひ其の國際的商品としての重要性が著しく稀薄化し、其れに關聯して輸出國、輸入國を繞つて世界海運に甚大の影響を與へるに至つた。世界小麥産額は近年著しく増産されて一時生産過剰の難に遭遇した。歐洲大戰のために其の生産機構が根本的に變革されてゐたものが戦後の回復が進捗するに及んで世界小麥の作付面積は大戦前に比して約二割の増加があつたとされてゐるが同期間に世界人口の増加は約一割に過ぎないから世界小麥の生産は世界經濟恐慌の勃發前後は明かに過剰に陥つてゐたことが看取される。

世界小麥の産出高は羅馬農事協會の調査に據るとソヴィエトを含んで約四十億ブツシエルに達し、これを噸數に換算すると大約一億三千萬噸と推算されるが海上移動として世界海運に最も關聯性にあるものは其の生産高ではなくして生産國より輸出される數量に存するのであるから、ソヴィエト、印度の如く大量生産國は自國消費量が著大なるために輸出餘力は全然ない。従つて小麥生産國にして輸出餘力を有する加奈陀、米國、アルゼンチン、濠洲の四ヶ國の生産及び輸出餘力量が小麥の海上移動に重要性を有する所以である。この世界總産出高の一億三千萬噸も世界農業恐慌以前の年産額であるが最近三、四年の世界産額は減少の一途を辿つてゐる。

世界小麥產出高 (國際農事協會調查より換算す)

一九三二—三三年	一〇一、八七七、〇〇〇噸
一九三三—三四年	九九、一九六、〇〇〇噸
一九三四—三五年	九二、七三七、〇〇〇噸
一九三五—三六年	九一、九五七、〇〇〇噸

世界全產出高中國際的に海上移動量として輸出される小麥數量は大體恐慌以前に於て二千五百萬噸と概算され、全產出高の約二十%弱であり、其の内前述する四大主要輸出國の輸出餘力は二千萬噸前後であつて、海上移動量の八十%を占めてゐる。世界經濟恐慌突發以前の一九二四—二八年の五ヶ年平均の四大主要輸出國の輸出餘力を算定すると次ぎの如くである。(因に原數字は概ねブツシエルであるが是を噸數に換算したのであるから其の間多少の誤差があるやも保し難い。)

小麥四大主要輸出國の生産と輸出餘力

平均產出高	(單位 千噸)
アメリカ	二四、七八八
カナダ	一二、五七六
アルゼンチン	六、六〇六
オーストラリア	四、〇九一
輸出餘力	四、七八八
	九、〇〇〇
	四、〇六一
	二、七五八

世界計	四八、〇六一	二〇、六〇七
	一三〇、〇〇〇	二五、〇〇〇

要するに小麥は歐米のみならず國際的移動性が近年日本、支那等の東洋諸國まで關聯を有するに至つたが元來が一般農産物と同様自然現象との關係に制約されて投機的性質を帯びて生産者、輸送者及び消費者に大きな影響を與へてゐる。即ち歐洲大戰後の小麥生産力の回復は農業技術の進歩に刺戟されて却つて過剰を招來し、従つて價格の暴落著しく世界農業恐慌時代を現出したが、特に作付面積の増大してゐる米、加、亞、濠の四大輸出國は最も打撃が甚しく苦境に呻吟したのも必須の勢であつた。

右四大主要輸出國よりの輸出地別を見るに英國を含む歐洲が全體の八十五%を占めてゐる。即ち輸出餘力量の七十%は南北アメリカ、即ち米、加を含む北アメリカより四十%、南アメリカのアルゼンチンより三十%の比率で輸出され、其の内の約七十%は歐洲へと輸入されてゐた。其の間濠洲の輸出も全體の十%を示して其の大半は歐洲輸出であるから四大輸出國の消費者は歐洲であると稱しても差支へないのである。

小麥四大主要國輸出の仕向地別

—一九二四—二八年の平均—		(單位 千噸)	
英國	歐洲	亞細亞	其他
一、九三九	二、四八五	三六四	—
アメリカ			計
			四、七八八
			八三

カナダ	四、三三三	三、三九四	六六七	六〇六	九、〇〇〇
アルゼンチン	一、一一一	二、三三三	一	六〇七	四、〇六一
オーストラリア	七二七	一、〇三〇	四五五	五四六	二、七五八
計	八、一二〇	九、二四二	一、四八六	一、七五七	二〇、六〇七

右四ヶ國の歐洲輸出は英國を含んで一千七百四十萬噸に達してゐる。斯くの如く歐洲大陸は南北アメリカ、濠洲から多量の小麦輸入を行つてゐたが世界恐慌の深化と共に自國農業機構の再建を目ざして農業保護の防戰的政策を採るに至つた。自國農産物の保護のためには或は關稅の障壁を築き或は輸入割當制を實施して輸入の防遏に狂奔した。其れと同時に自國の生産を増大させるために必死の獎勵を斷行した。ムツソリーの「小麦戰爭」は數年前既に宣告された處であつて、ヒットラーも小麦植付運動に蹴起し、英、佛これに習つて歐洲の小麦増産熱が高潮したので小麦の海上移動性は益々狭化されて止まるところを知らなかつた。歐洲諸國の小麦増産運動は夫々自國の産額を増大せしめ輸入數量を著しく減退せしめた。イタリーの如きは輸入は十分の一となり、フランスは三分の一、オランダは三分の二、ドイツの如きは輸出餘力を有するに至つた。斯くの如く小麦輸出國、輸入國を繞る輸入の異變は主要輸出國に滯荷の山を築き上げ價格の崩落は世界農業恐慌の深度を益々強くした。世界恐慌以後五ヶ年間の四大輸出國の輸出餘力を見ると次ぎの如く恐慌以前の其れと著しく變化してゐる事實が看取される。

小麦四大主要輸出國の輸出餘力

— 恐慌前後の比較 —

(單位 千噸)

	恐慌前五ヶ年平均	恐慌後五ヶ年平均
アメリカ	四、七八八	二、一三〇
カナダ	九、〇〇〇	五、七二七
アルゼンチン	四、〇六一	三、九七六
オーストラリア	二、七五八	二、六一二
計	二〇、六〇七	一四、四四五

右の内英國を含む歐洲輸出量は一千二百萬噸に及ぶのであるが恐慌以前の一千七百四十萬噸に比較すると約三十%激減してゐる。以上小麦の海上移動性の變轉を見たが海上荷動量として船腹を消化する農産物としては他に米六百萬噸、大麥四百萬噸、燕麥百五十萬噸、ライ麥百二十萬噸、玉蜀黍八百萬噸、小麦粉の三百萬噸があるが小麦が農産物中で、王座を占めてゐることは世界海運市場に影響するところ甚大であつて、海上移動の數量的變化は世界海運市況に敏感に働きかけるものがある。

最近の羅馬國際農事協會報告には小麦に關する需給状態が詳細に發表されてゐる。この數字より世界小麦の海上移動の現況を観察すると需給の均衡は稍々是正されて改善の跡が顯著であるが國際的移動性は依然として何等の積極的發展性に乏しいものがある。特に從來の小麦生産國で同時に輸出國であつたアメリカ、カナダ、アルゼンチン、オーストラリアの諸國の産出高は著しく減退した。就中ア

メリカの如きは輸入國に逆轉してゐる始末である。一九三四、五年とアメリカはAAAの減産政策を強行した上に、旱魃、害虫等の自然的現象に累されて豫想外の産出減となり、小麥の輸出は不可能になる許りでなく、前年度より増收を期待された三五―六年度の收穫を以てしても國內消費高に尙ほ八、九十萬噸の不足とされてゐる。蓋し製粉用硬質小麥の不足が輸入必須と見積られてゐる有様である。一方アルゼンチン、オーストラリアでも旱魃から生産減は免がれず、主要輸出國として獨りカナダが前年來より増收されてゐるのみであつて、南半球側のアルゼンチン、オーストラリアの減收は一億四千萬ブツシエル、即ち約四百萬噸と報ぜられてゐる。以上の四大主要生産國を含めて世界小麥の需給状態は次ぎの如くである。

世界小麥の需給状態 (國際農事協會調査より)

	前年度持越高	生産高	供給高
一九三三―三五年	二九、四九〇	九二、七三五	一二二、二二五
一九三五―三六年	二一、四七八	九一、九五七	一一三、四三五

三五―三六年に於ける世界小麥の需給は稍々好轉して供給高も前年度に比して約七%の減少を示してゐることは持越高の相對的減少となつて現はれ、國際小麥協定が形骸化して歐洲の増産計畫が續行されてゐるにも拘らず四大小麥輸出國が打續く不作を告げたことに基因してゐる。

以上の如く小麥の需給は國際的に政治的事情が加味されて歐洲の輸入量は年々減少の一路を辿つて

ゐるが茲に世界小麥輸出供給量と海上荷動として世界船腹の消化を促す輸出量を算出すると次ぎの如くなる。

世界小麥供給高と輸出高

	一九三五―三六年の現況	(單位千噸)
カ ナ ダ	輸出餘力	七、六一四
アルゼンチン	九、七八六	二、三五九
オーストラリア	三、七〇〇	二、五七四
ソウイェト	三、五三九	六四三
ダニユーブ諸國	一、〇七三	一、〇〇〇
計	一、一〇〇	一四、五〇〇
	二一、五〇〇	

(備考) 合計欄中には其他の諸國を含む。

即ち右表よりすると三五―三六年度供給量は前年の輸出剩餘たる持越高約一千萬噸に對し本年度新麥の輸出供給高の一千百五十萬噸を合算して總輸出供給高は二千百五十萬噸に達するが是れを前年に比すれば二百七十萬噸の減少、前々年に比すれば八百七十萬噸の減少であつて、所要輸出品の一千四百五十萬噸の消化が現實にあるとすれば次年度への持越高は約七百萬噸となり、需給調節は完全に平均され、農業恐慌以前のノーマルの持越高水準となつた譯である。尙ほ三五―三六年度新麥の輸出供給量は一千二百萬噸と推定されてゐるが輸出品を右の如く一千四百五十萬噸とすれば結局前年よりの

持越古麥の二百五十萬噸が消化され、減産政策の強化は次年度持越高を好化し小麥價格の奔騰を促進したのは伊エ紛争に伴ふ思惑的買付けもあつたので、アルゼンチン政府は三五年十二月小麥買上價格を一キンタール六・五ペソより十ペソに引上げた。

尙ほ三五―三六年度に豫想される輸出货量は前述するところであるがこれが海上移動となつて世界船腹の需要に重要性のあることは疑のなきところであるがこれを三四―三五年に於ける輸出货量と比較すると次ぎの如き推移を示してゐる。

世界小麥の海上荷動量 (單位 千噸)

カ	ナ	ダ	一九三四―三五年	一九三五―三六年
アルゼンチン			四、三九七	七、六一四
オーストラリア			四、八五三	二、三五九
ソ	ヴ	イ	二、八四二	二、五七四
エ	ト		五四	一、〇七二
ダ	ニ	ユ	五六三	六四三
イ	ウ	ブ	一三、七〇〇	一四、五〇〇
諸	國			
計				

即ち世界小麥輸入供給量は前年に比して約八十萬噸の増加であるがこれもアメリカの輸入國に變轉した事實よりすれば前途の小麥海上移動は多少割引する必要がある、特に歐洲に於けるソヴイェト、ダニユープ諸國の輸出餘力の増大は必然的にカナダ、アルゼンチン、オーストラリア三大輸出國の輸

出量を相關的に縮小化することになり、對歐輸出量の増大も期待出来ないものがある、もつともカナダの一九二四年に設置したプールは小麥生産者に對して資金供給と新市場操作の開拓に全力を擧げたが打ち續く生産過剰よりする價格低落がプール制崩壞の端緒となつて、老成なる過剰小麥を抱藏するに至つた。其の間政府の統制販賣政策があつたに拘らず輸出不振を招來するなど、三四―三五年末には五百萬噸餘の政府手持を有する程であつたが同國總選舉の結果自由黨の勝利となり、貿易政策の轉機として小麥輸出の積極化が試みられた結果前述するが如き輸出供給力を有するに至つた。これに反してアルゼンチン、オーストラリアの南半球に於ける小麥輸出餘力は前年に比して減少してゐる。他方歐洲の輸入諸國は依然として輸入防遏手段を強化してゐることは既に述べた如くであるが本年度に大體九百五十萬噸程度の輸入を仰ぐことは豫想されるところであるから、歐洲以外の輸入量は、支那の旱魃、洪水に基く輸入増加等の特殊事情を考慮に容れて約五百萬噸と推算され、結局減産に基く輸出供給高は減退したが輸入需要高は前年に比して少量の増加が見越されてゐる現況を呈してゐる。最後に小麥海上移動量と船腹の需要關係を検討して見る。茲に三大輸出國たるカナダ、アルゼンチン、オーストラリアの輸出货量と歐洲の輸入需要量を掲げると次ぎの如くなる。

小麥輸出货量と歐洲輸入量 (單位 千噸)

	三ヶ國輸出货量	歐洲輸入量	
一九三	四一三	五年	一一、〇九一
一九三	五一三	六年	一二、五四七
			九、六〇〇
			九、五〇〇

即ち三輸出國よりの全部が對歐輸出となるのではないが世界小麥移動と世界腹船の需要量を觀察する便宜上、前記三ヶ國輸出量全部を對歐輸出に當てるものと見做して三ヶ國輸出量と其の船腹需要量とを看ると次ぎの如き事實が展開される。

カナダより歐洲への輸送距離を一〇〇とするときアルゼンチンよりは一七七、オーストラリアよりは三一四となり、其處に輸送距離を加味した所要船腹の需要量に大きな差違が生じて來ることになる。三輸出國に於ける輸出量と輸送距離を加味した船腹需給量の百分率を算出すると次ぎの如くなる。

小麥輸出量と船腹需給關係

	一九三四—三五年		一九三五—三六年	
	輸出量	船腹需要量	輸出量	船腹需要量
カナダ	三六・四	二〇・一	六〇・七	三八・三
アルゼンチン	四〇・一	三九・二	一八・八	二一・〇
オーストラリア	二三・五	四〇・七	二〇・四	四〇・七
計	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇

右表に示す如くカナダの前年輸出量は三六%を占めてゐたが其の船腹需要量は二十%に過ぎない。本年の輸出量は六十%を超えてゐるが船腹需給量は三十八%に過ぎないが南半球よりの輸出量は前年が六十%、本年が三十九%となつてゐる。其の船腹需要量は前年に八十%、本年に六十%を占めてゐる。

本年に於けるが如く遠距離國たるアルゼンチン、オーストラリアの輸出量が減退して近距離國たるカナダの輸出量が増大してゐる事實は小麥の海上移動に關して軟材料である。要するに三五—三六年度は世界小麥海上移動の特異性は

- 一、歐洲に於ける輸入供給が依然たる低位にあり
- 二、小麥輸送に關して船腹需要率を増大せしむるアルゼンチン、オーストラリアよりの輸出量が著しく減退し
- 三、カナダの輸出量が政變のために小麥政策に轉換があり、其の輸出量を増加せしめて居り
- 四、其の間世界船腹の就航量は増大して、其れに伴ふ運賃競争の激化を防止するために穀物運賃の最低額がカナダ、アルゼンチン、オーストラリア/歐洲に對して協定せられ、其の持続性如何が問題とされてゐる
- 五、小麥需給の好轉は價格の昂騰を促し、小麥市場の堅實化は小麥商品の國際的移動性を旺盛化する導因となり得る可能性が充分に認められる

等々である。尙ほ一九三三年八月から實施された國際小麥協定は一九三五年七月末を以て延期となり全く形骸化されてゐる。この協定の骨子は小麥輸出に一定の輸出割當を設け減産を協定し、小麥輸入國は小麥價格が一定の點まで上昇した場合には輸入關稅引下げを決行し、輸入割當量を増加せしむる一方、自國內小麥生産高を協定調印の反別以上に増加せしめない旨を規定したものであつたが一九

三四―三五年度に於て豊作であつたアルゼンチンは輸出割當量を超えて協定違反をやり、更にフランスが過剰小麦の輸出を要請するなど全く前途打開の不可能なる事態が惹起した。かくて一九三五年五月二十二日よりロンドンに於て國際小麦諮問委員會第七次委員會が開催されたが單に國際小麦協定の大綱だけを残して協定細則の施行停止を決議してゐる。従つて今後は小麦諮問委員會を存続せしめるに止り、世界小麦需給の好轉した現在の情勢が再び悪化するが如き場合には各國政府の聯絡機關たらしめることにして協定更改に關しては未だに委員會の開催がない。今後小麦市場に重大なる影響を及ぼすものとしてはソヴェエト聯邦の急速なる生産増大があるが積極的に輸出市場に乗り出し、世界海運市場に船腹の需要を求める時期は目下の處期待薄であらう。

ロ、國際棉花の需給改善

世界棉花生産の約半数を占める米棉相場は一九三四年八月には十三仙九五と一九三〇年六月以來の高値を現出したが三五年に入るに及んで三月に先づ急落を演じて三四年一月來の安値に落ち込み、其後幾分の恢復を示したが下半期初頭は軟調を續けた。これはアメリカの農事調整法及びバンクヘッド棉花統制法に據つて一九三四年以來棉花の減産を斷行し、その結果滞荷は減少し、價格の吊上げに成功したが米棉の割高から他國棉への消費を助長したので米棉そのものゝ價格崩落と謂ふ動搖が齎らされた譯である。だが下半期に於ける伊エ紛争の發展はイタリーのエチプト棉買付けを旺盛ならしめエ

チプト棉の好調を現出したがこのエチプト棉のブームは米棉相場にも波及して其後徐々と恢復の一路を辿り軍需用途及び戦争思惑に市況の好轉を取り戻すことが出来た。しかして一九三五―三六年度の世界棉花消費は前年度に對して多少とも増大するものと見て差支へない。依つて世界の棉花需給の現勢を一瞥すると、三五年七月末の世界棉花持越高は約一千四百萬俵と三四年に比して約三百萬俵の減少であつた。しかもこの減少は消費の増大によつたのではなく生産の縮減であつて米棉も亦同様である。

世界棉花需給統計 (紐育棉花取引所調)

(單位 千俵)

前年持越高	生産高	供給高	需要高
一九二九―三〇年	四、五七	一四、九一	一三、〇一一
一九三〇―三一年	六、一七	一五、八七	一〇、〇九
一九三一―三二年	八、九七	一六、八七	一三、五八
一九三二―三三年	一三、二六	二二、九六	一四、三三
一九三三―三四年	一、八〇	一、七二	一三、七〇
一九三四―三五年	一〇、七〇	一五、五七	一一、一〇
一九三五―三六年	九、〇一	一四、〇一	—

他國棉		合計	
一九二九—三〇年	五,二五	一九二九—三〇年	九,六三三
一九三〇—三一年	五,一三七	一九三〇—三一年	一一,三三四
一九三一—三二年	五,一五三	一九三一—三二年	一四,一三六
一九三二—三三年	四,三六六	一九三二—三三年	一七,六四九
一九三三—三四年	四,七七三	一九三三—三四年	一六,五八二
一九三四—三五年	六,〇四九	一九三四—三五年	一六,七六〇
一九三五—三六年	四,八六三	一九三五—三六年	一三,九〇四
一九二九—三〇年	二,八七六	一九二九—三〇年	二六,五九二
一九三〇—三一年	二,三六八	一九三〇—三一年	二五,二五九
一九三一—三二年	九,五六七	一九三一—三二年	二六,四六四
一九三二—三三年	一〇,六五三	一九三二—三三年	二五,六二三
一九三三—三四年	一三,一七三	一九三三—三四年	二五,八八五
一九三四—三五年	一三,〇三六	一九三四—三五年	二二,六一二
一九三五—三六年	一四,九〇八	一九三五—三六年	二二,四四五
	一五,〇三八		三九,四四五
	一七,九四八		
	一〇,二六五		
	一四,七三九		
	一六,九六一		
	一六,五三三		
	一四,七三九		
	一〇,三三三		
	一七,八九七		
	一〇,二六五		
	一四,三三三		
	一四,八七五		
	三六,三三四		
	三六,五六三		
	四〇,五九二		
	四一,二六二		
	四二,四六七		
	四三,四六七		
	三九,三六二		
	三九,三六二		
	三五,四七六		

即ち前表に據れば米棉以外の棉花の一九三四—三五年年度の需要高は米棉の急騰といふ特殊事情に刺戟せられて好條件を示し一千四百萬俵といふ好記録を作つたが一面米棉の需要高は一千一百萬俵といふ九三〇—三一年を除く十數年來の少量記録を示してゐる。従つて生産高に於ても米棉は九百五十萬俵に減少し同時に他國棉も一九三二—三三年度以前に比すれば勿論増加してゐるが一九三三—三三年度よりも減少してゐる。この結果が米棉及び他國棉の期末滞荷をそれぞれ激減せしめたものである。米國

の農調法は一九三六年一月違憲の判決を宣告せられ之れに伴つてバンクヘッド法も消滅したが其の後之に代る統制法を制定してゐるが、それが本年度需給に關してどれだけの効果があるかは目下の處疑問とされてゐる。だが三五年下半年期に於ける歐阿戰雲に引き續いて世界は軍擴準備工作に専念してゐる現下の情勢からして國際棉花の需要は前年に比して好轉することは否定出來ないだらう。

世界棉花の需給に關して最近ナチス・ドイツの強行した原棉買付分散主義は棉花の國際的移動性に興味ある事象として注目されてゐる。即ち世界棉花の供給に王座を占める米棉の最も大きな買付國は日本とイギリスとドイツの三國であるがこの三國の輸入は例年米棉輸出の六十%を占めてゐる。ところがドイツは三五年以來米棉買付を著しく減少せしめた。アメリカ發表の輸出統計によれば七月末を以て終る米棉年度の一ヶ年間の對獨輸出は前年に比して四分の一となつてゐる。

米 棉 輸 出 高 (七月末を以て終る一ヶ年分) (單位 千俵)

	一九三三年	一九三四年	一九三五年
ド イ ツ	一,八四九	一,三一八	三四一
イ ギ リ ス	一,四九二	一,二七八	七三八
日 本	一,七四三	一,八四六	一,五二一
總 輸 出 高	八,四一九	七,五三四	四,七九五

ドイツは日本と同様にアメリカに對しては毎年五千萬弗内外の輸入超過であつて主として棉、小麥

等の原料品を多量に輸入しなければならなかつたが自國輸入統制の強行を意圖して小麦は自給自足主義を堅持し、棉花は從來の米棉主義を放棄して各國より輸入する分散主義を採用した。ドイツはナチス政權の樹立以來アメリカに對して米獨通商條約を有利に改訂せんとしてアメリカに迫つてゐたが一九二五年締結の通商條約が三五年十月十四日に滿期となつたのを好機として一ヶ年の豫告を以て條約廢棄を通告したのである。即ちドイツの希望するところは無條件の最惠國條項を削除して輸入統制を斷行せんとするにあつた。一方アメリカは一旦是を承認し米獨間には三五年六月に新條約の調印を見るに至つたが後日アメリカはこの新條約の調印を拒絶したので、現在に於て兩國は無條約の状態を續けてゐる譯である。ドイツとしては輸入棉花の八十%を占めてゐた米棉の輸入を各國棉に向けて自國貿易の均衡を整調せんとするものであるが一九三三年當時ブレイメン及びハンブルグ兩港に於ける棉花輸入總高は二百二十萬俵を算し米棉は其の内百七十五萬俵を占めたが一九三五年に於ける米棉の地位は約二十%（三十萬俵）に激減してゐる。これに反して他國棉の輸入は著しく増加して第一位はブラジル棉で一九三五年中には約五十萬俵に達し遂に米棉を凌いでゐる。ブラジル棉の輸入は一九三四年に對比して十倍に當つてゐる譯である。その他アルゼンチン、トルコ棉の多量輸入を見たがこれもドイツ貿易統制の効を奏した結果であつて、實に三十ヶ國に及ぶ廣汎な原棉買付分散主義を採用してゐることは巨額の米棉、印棉を買つてゐる日本がとかく對米、對印輸出に相手國より不利の條件を強要されてゐる事實に比して他山の石となり相である。要するにドイツの原棉買付分散主義は原料品輸

入國として自國海運の活動を自國貿易に連繫せしむるに自國貨自國船主義の強調に拍車をかけるものであらう。

ハ、世界砂糖界の好轉

一九三五年度の世界糖業界は一時的小弛みもあつたが大體に於て終始漸騰歩調を辿り需給調節の達成に努めた跡は顯著なものがあり、従つて國際的移動性も前年に比して好調を豫想されるところがある。キューバの政情不安、及び勞働爭議による積出不能懸念や伊エ紛争に伴ふ需給關係の混亂等は突發的好材料であつたかも知れないが根本的には需要の増大と産糖國に於ける各國の市場整調操作が効果を擧げ得たものであることは疑ひのなきところであらう。

先づアメリカでは三四年以來コスチガン・デョーンズ砂糖統制法に基き一ヶ年の砂糖消費量を基準として、これを國內産糖及び輸入糖に割當てゝゐるが、三五年もそれを續行實施した。即ち屢次の改定を行つた最後の割當量は次ぎの如くである。（單位千噸）

國內産 甜菜糖	一、五五〇
國內産 甘蔗糖	二六〇
キューバ糖	一、八二三
フィリッピン糖	八九九
ポルトリコ糖	七八八

ハ ワ イ 糖	九二六
ウ ア ー ジ ン 糖	五
其 他	一七
合 計	六、二六八

ところが三五年の五月にはN R Aの違憲判決が下り一時は輸入割當制崩壊の危機に臨み市場に暗雲がたゞよつたが政府でコスチガン・デョーンズ法繼續の意向を明示したため市場もやがて安定化するに至つた。續いて三六年一月農調法違憲決定は少なからざる影響を與へたが其後市場の大勢は硬軟材料を繞つてとにかく好轉化しつゝあることは否定出来ない。

一九三五年の特筆的事項としては九月一日に國際砂糖の需給調節に多大の貢獻をしたチャドボルン協定が期限満了と共に廢棄されたことである。即ち八月始めブラツセルに開催された國際砂糖委員は協定參加國間に尠からざる犠牲を與へたにも拘らず所期する効果を擧げ得なかつたと一片の聲明書を殘して該協定の延長又は更新をも決定せずに閉會してしまつた。該協定は一九三一年五月に砂糖の過剩滞荷を縮減し價格を吊上げるを目的として成立したものであつたがこれが失敗に歸したことはこの協定が世界産糖額の僅か四十％にし適用されなかつた爲めであると同時に世界の砂糖消費を過大に評價したことにも基因するが更に有力な原因としては各砂糖輸入國に於いて自國糖業の保護及び高率關稅の障壁を築いて排他的政策を執つた傾向が深められたからだとされてゐる。尤も該協定は廢棄當時既に空文に等しいものとなつてゐたとはいへ、過去五ヶ年に亘つて存續してゐた協定が廢棄されて

茲に無協定時代が名實共に實現した譯であつて今後の世界砂糖の需給の推移は注目すべきものがある。

翻つて世界砂糖の需給關係を見るに一九三五—六年度(九月より八月まで)の世界産糖高は甜菜糖及甘蔗糖を合して二千五百七十萬噸と見積られ前年度に比して約百萬噸の増加であるが三五年度期末に於ける滞荷量は消費量の著しく好化したためか却つて減少して市場は一段と明朗性を加へてゐる。即ち三四—五年度の消費需要量が同年の生産額を遙かに突破し夫れだけ滞荷の減少となつた譯である。

世界砂糖需給統計 (ミクシユ博士の調査)

	持越高	生産高	供給高	消費需要高	過剩高
一九二九—三〇年	四、五九〇	二八、六六四	三三、二五四	二六、九五三	二、八〇一
一九三〇—三一年	五、九〇〇	二九、四二二	三五、三二二	二六、九三九	四、八七三
一九三一—三二年	七、四三三	二六、九六〇	三四、三八二	二五、一三六	四、七四六
一九三二—三三年	七、五九二	二四、四六三	三一、九九二	二五、八七六	二、六一六
一九三三—三四年	六、八〇一	二四、七〇〇	三一、五三三	二五、〇三三	二、九八五
一九三四—三五年	六、一〇一	二四、七七一	三〇、八七三	二五、六三三	一、七六六
一九三五—三六年	四、六八五	二四、七七一	三〇、四〇一	—	—

(備考) 「過剩高」は期末理想持越高の三百五十萬噸を含まざるものなり。

需給の好轉は又國際協定の前途に光明を與へた。三五年に一旦無協定時代を現出したが世界糖業を

經濟的基礎の上に置かんとする希望國は舊協定參加國たるジャバを除き八月に至つてブラツセルに新國際砂糖委員會を形成するに至つた。三六年に入つて新協定の機運は漸く濃厚となり一月にはブラツセルに準備委員會を開く協力を示し、又二月には英蘭兩國政府當事者がヘーグに會して國際會議の前途に關して懇談を遂げてゐる。ところが國際會議の開催に關して最も悲觀されてゐるのはジャバの態度であつた。ジャバは三五年の秋國際砂糖委員會にも參加せずその態度は著しく懸念されてゐた。即ちジャバ砂糖生産は過去數ヶ年國際的にはチャドボルン協定により國內的にはニヴァス（蘭印砂糖販賣組合）によつて統制されてゐた。がその何れも目的は世界的生産統制によつて砂糖價格の恢復を意圖せんとするにあつた。チャドボルン協定はジャバの第一年度輸出を二百三十萬噸に制限し其の後毎年十萬噸宛増加して一九三五―六年度には二百七十萬噸に制限してゐた。この協定は成立當時には非常な成功として認められてゐたが其後協定加盟外の諸生産國は著しく生産を増大したので協定加盟國はアウトサイダーのために生産高を次ぎの如く減少して行つた。（單位 千噸）

協定參加國	一九三〇―三一年度	一九三五―三六年度
非參加國	一一、七一四	五、八一〇
計	一六、六四二	一九、八〇二
	二八、三五六	二五、六一二

協定參加國で最も生産の減少したのはジャバであつて、ジャバは一九三〇―三一年度に約三百萬噸を生産したものが五ヶ年後の一九三五―三六年には僅々六十萬噸に激減してしまつた。これは從來の

輸出市場であつた印度、日本に於ける生産が増大したためにもよるがジャバ生産の減少は輸出高の激減と共に滞荷が増大して前記生産減を招くに至つたのである。チャドボルン協定を九月限り廢棄したのも右の事情に基くのであつた。次ぎはジャバの國內統制についてみるにジャバには從來世界無比の強固なる砂糖トラストが存在してゐたがこれは一九三二年末に崩壊してしまつた。これはトラストに加盟してゐないアウトサイダーの競争によつてトラスト加盟會社が著しく不利な立場に陥つてしまつたからである。よつて蘭印政府は一九三三年一月より前記ニヴァスを設立し強制的に製糖會社を加入させて事實上政府は砂糖販賣組合を支配下に置くことになり、これによつて砂糖の生産及び販賣の統制を行つたことは周知の事實である。しかし一九三四年四月一日よりは外國糖の輸入を禁止してゐる。生産の統制に關してもニヴァスより政府に建議し一九三六―三七年の生産量を百二十七萬噸と決定したが今回政府は百四十萬噸の生産量を採定してゐる。國際協定と國內統制を繞るジャバ砂糖生産及び需要を示すと次ぎの如くである。

ジャバ 糖需給統計 (年度は四月より三月) (單位 千噸)

A、チャドボルン協定に基く豫想

	持越高	生産高	供給高	國內消費	輸出高	期末持越高
一九三一―三二年	700	11,000	11,700	800	11,100	700
一九三二―三三年	700	11,400	11,600	814	11,200	724

一九三三—三四年	六七五	二,七〇〇	三,三七五	四,五〇〇	二,九〇〇	四,三〇〇
一九三四—三五年	四四五	二,九〇〇	三,二四五	四,七五〇	二,九〇〇	四,三〇〇
一九三五—三六年	五〇〇	三,一五〇	三,〇〇〇	四,五〇〇	二,九〇〇	四,三〇〇
B、實績 (×印は推定)						
一九三一—三二年	七三三	二,八四五	三,五八八	三,六三三	一,四三三	一,六三三
一九三二—三三年	一,六三三	二,六〇〇	四,二四一	三,七五〇	一,三三三	二,五三三
一九三三—三四年	二,五三三	一,四〇一	三,九四四	三,五五〇	一,一〇〇	二,四二〇
一九三四—三五年	二,四二〇	六四六	三,三三七	三,六〇〇	一,一八〇	一,六三三
一九三五—三六年	一,六三三	五三四	二,一三三	三,二〇〇	× 一,〇〇〇	× 八五〇
一九三六—三七年	× 八五〇	× 五五五	× 一,三〇〇	× 三〇〇	× 一,〇〇〇	× 六〇〇
一九三七—三八年	× 六〇〇	× 一,四〇〇	× 一,四〇〇	× 三〇〇	× 一,〇〇〇	—

前二表を對照すると國際協定の豫想するところと其の實績の跡は全く所期した効果を擧げ得ず生産を甚しく縮減したにも拘らず國內消費は減少の一路を辿り、これに反して輸出は半減するの頽勢を示し滞荷の累積となつてジャバ砂糖生産の全機構は全く破壊される事態を招來した。蘭印參議院が三六年一月ニヴァスの無期延長を決議し引續き政府に砂糖生産及び販賣の統制權限を與へたことも當然とされよう。と同時にジャバ糖の輸出に依然として許可制度を採用し、ジャバ砂糖工業改組案を實施して新設工場の進出を防止した。即ちジャバ現在の滞荷が一掃される一九三七年以降は各生産工場が一九三一年の製糖能力と當該年度の市場需要に基いて割當を設けるために極端な生産統制を行はんとす

るものである。これはジャバ可能生産能力が現在の最高可能需要よりも倍加する生産能力を有してゐるからであつて、やがて統制化されたジャバ糖の需給關係は世界市場に効果を及ぼすであらうことは疑ひのないところである。

終に甜菜糖と甘蔗糖の生産分野は世界海運の船腹需給に相當影響あることは當然であつてこれが地域別の生産高を参考のために左に掲げよう。

主要國砂糖生産高 (ミクシユ博士調査) (單位 千噸)

A、甜菜糖			
ヨーロッパ	一九三三—三四年	一九三四—三五年	一九三五—三六年
アメリカ	七,三六八	八,四九六	八,四九七
其他	一,六四八	一,一七八	一,一六〇
計	九,〇一六	九,六七四	九,六五七
B、甘蔗糖			
インド	三,一〇六	三,一二〇	三,四〇〇
キューバ	三,三四〇	二,六一一	二,三五〇
臺灣	八〇二	一,一五四	一,二五〇
ブラジル	九六九	九七五	一,〇〇〇
フィリッピン	一,四三四	六三〇	九六五

ハ	ワ	イ	八六六	八六二	八六〇
ポ	ー	ト	リ	コ	一、〇一〇
オ	ー	ス	ト	ラ	リ
ヤ	バ	六	七	七	七〇八
ジ	ヤ	一、五〇四	七〇三	六五二	六三〇
其	他	三、六八九	三、六九七	四、〇七五	五七〇
計	一六、三九七	一五、一一一	一五、八一〇		
合	計	二五、五二一	二四、九〇四	二五、六一二	

(備考) 本表に於てジャバの年度は四月より三月の計数を採用したので前表と合致せず。

砂糖生産國にして輸出に重點を置いてゐた國の生産は漸減を示し、歐洲の生産が漸増傾向を帯び其他輸入國であつたものに自給自足する生産の増大した跡等の點が窺はれるのは世界砂糖の海上輸送を益々減少せしむる可能性にあるが需給の均衡が徐々に改善せられ一面消費需要の擡頭もあるから將來は注目に値ひする。

二、世界ゴム消費の増轉

英國定期船筋がスエズ以東に於て各國船の進出のために地盤を蠶食され、特に新嘉坡、北米線の如き其のベイス・カーゴ一たるヒリツピン糖の積取に於ても往年の如き妙味がなくなり太平洋航路の不振も桑濠線の撤廢するなぞ如實に其の類勢振りが示されてゐるが一九三六年の初頭新嘉坡積出しのゴムに對して蘭印側と協同工作を結んでゴム積取率の協定締結を航路同盟員たる米、日、其他に申込ん

でゐると報ぜられたが世界ゴム生産に決定的優勢率を把握してゐる英、蘭のこの行動は痛く米、日側を刺戟し、對米ゴム積取割當問題は業界の注目するところとなつた。英、蘭側がゴム積取割當率の協定を突然持ち出したのも世界ゴム市場が三六年に入つてから一段と好調を呈しゴム価格は英、米兩市場とも一九三四年以來の高値を唱へ需給状態が好化したことに着目して、この際一舉に其の積取輸送率の優勢を奪還せんとするものに外ならない模様であつた。

世界ゴムの需給が最近頗りに好轉して來たのは一九三四年六月より開始された國際ゴム統制計畫が實質的減産に乗り出し當時現存した滯荷を理想的水準にまで縮減して需給の調節に努力したからであつた。この國際ゴム限産協定に基いて供給が制限される一方、世界ゴムの消費需要は一九三四年以來堅實に増加の一途を辿つた。特に自動車景氣を反映してアメリカに於けるゴムの消費は一九二九年の水準を遙に突破する未曾有の好調を示し三六年に入つてから世界ゴム市場の活況はアメリカ筋の買付けにリードされるところが多いとされてゐる。だがこの國際ゴム限産協定統制の艱難な點は蘭印で特に蘭印土人ゴムの生産制限問題が難事中の難事であつた。即ち蘭印土人ゴムに對する輸出割當率があまり少量に過ぎたためか土人ゴムの輸出実績は増大し、蘭印政府はこの統制難を知るや輸出税高率賦課の舉に出たが其れにも拘らず三四年末には税率の低下を行つて輸出増進を助長し、一九三五年の如きは輸出許可量は十一萬二千五百噸であつたが實際の生産能力はこの三倍乃至四倍に達する状態であつて蘭印政府も遂に輸出許可制に代るに禁止的輸出税の賦課方法を採らざるを得なくなつた。斯くの如

き事態に處するために國際ゴム統制委員會は三五年十二月の委員會に於て一九三六年の蘭印ゴム輸出基準割當額を五萬七千噸方増額し、これをすべて土人ゴムに振り向けることにした。その代償として蘭印政府は土人ゴム生産の整調に努力し輸出税賦課による土人ゴム輸出統制を廢棄し新に個別的輸出割當制を實施する旨の言明をなすに至つた。土人ゴム輸出割當増加のため今後蘭印土人ゴムの輸出は毎月一萬噸餘の増加を示すこととなつたが既に一九三五年下半年期以來世界ゴムの消費増加に伴ふて需給状態は好轉の一途を辿ることが出來た。

即ち世界ゴム生産と消費需要の關係は次ぎに示す如く一九三五年の生産は消費大のために却つて不足を來たしてゐる。

世界ゴムの生産額 (國際ゴム統制委員會調査)

	一九三三年	一九三四年	一九三五年
海峽植民地	五一一	五五一	四七〇
蘭印	二八一	三七三	二七五
其他	四三	七六	九八
野生ゴム	一二	一三	二〇
計	八七七	一、〇一三	八六三

世界ゴムの消費額 (國際ゴム統制委員會調査)

	一九三三年	一九三四年	一九三五年
アメリカ	四一六	四五四	四九七
イギリス	七九	一〇九	九五
フランス	六二	五二	五七
ドイツ	五〇	五八	六三
日本	六二	七四	五二
其他	一四九	一八〇	一七三
計	八一八	九二七	九三七

即ち一九三五年の世界ゴム消費は九十三萬七千噸であつてこの間生産不足は七萬四千噸を算し、これを三四年の生産超過八萬噸、三三年の六萬噸に比すれば著しく需給状態が好轉したことを物語つてゐる。従つて世界ゴム市場の過剩滞荷は需要擴大を反映して三四年以來減少を示してゐる。アメリカ以外の滞荷は國際限産協定後も相當の増加傾向にあつたが一九三五年末以來急激な減退歩調を現はしてゐる。

世界主要ゴム市場の滞荷 (國際ゴム統制委員會調査)

	一九三四年 六月末	一九三五年 十二月末
アメリカ	三六一	九〇
イギリス	一〇〇	九一
其他	三五六	一〇七

(單位 千噸)

一九三五年	六月末	三二〇	一七〇	九〇
	十二月末	二九五	一六四	六二
アメリカ		五一五	ソヴイェト	四五
イギリス		一一〇	カナダ	三〇
フランス		六五	其他	一一四
ドイツ		六五	計	一、〇〇四
日本		六〇		

従つて一九三六年の世界ゴムの消費需要は過去二、三年來の實績よりして、大體百萬噸を突破することは豫想されるところであつてこれを各國別に看ると左の如くである。(單位千噸)

即ち一九三六年度の國際ゴム限産協定は輸出割當率に對し依然として基準率六十%を維持することを決定してゐるから協定參加國よりの輸出量は約七十七萬噸見當と見られ、これにインド・チャイナ及びアウトサイダー諸國の輸出量六萬噸前後を加へ世界ゴムの供給は八十三萬噸と豫想せられてゐる。即ち消費需給に比して十七萬噸の供給不足となる譯であるから必然的に世界ゴムの滞荷は其れだけ縮減される譯であつて、世界景氣の一段と昂揚を見た三六年の需給關係は益々好化するであろうとは否定出來ない。

勿論世界ゴムの滞荷は數量から見ても尙ほ著しい多量に上り、英、米兩市場の滞荷のみでも優に半ヶ年間の世界消費を充たすに足るものがあるが、需給の調節が徐々に改善された上は世界恐慌以前の

水準を維持する荷動き状態を取戻すことが出來よう。

ホ、世界資源の再分配論

ドイツの再軍備工作、イタリアの東阿遠征、日本の滿支進出に端を發して植民地乃至資源再分配論が英米政界の有力分子によつて提唱されてゐる。アメリカのハウス大佐によつて植民地再分割論の一石が投ぜられてより俄然世人の注目するところとなつたが尙ほ自由討議の範圍を出でずにあつた處、伊エ紛争の尖鋭化は遂にこの問題が政治的に表面に現はれ、イギリス前外相ホーア氏の聯盟に於ける對伊制裁に藉りた世界資源の自由交流説となり、續いて英國議會に於ては労働黨の動議を中心として議論が展開され遂に外相イーデン氏も其れに關して言及する處があり、世界資源の再分配問題は新たな課題として國際間の研究事項とならんとしてゐる。一見陳腐に見えるこの問題が再検討されるに至つたのも現下の國際情勢がこれ等の問題を再認識する必要に緊迫したものに他ならない。

試みに現在に於ける世界の資源網をブロッケ的に見ると(百分率)

英	ブ	ロ	ツ	ク	地域	人口
佛	ブ	ロ	ツ	ク	二七%	二五%
和	ブ	ロ	ツ	ク	九%	四%
米	ブ	ロ	ツ	ク	二%	三%
					七%	七%

露	一六%	九%
ブ		
ロ		
ツ		
ク		
其	三九%	五三%
他		

の如くであつて世界人口の四十七%を占めてゐる五大ブロックが面積に於て世界の六十一%を占有してゐることが判るが更に興味あることは世界資源中海上荷動として重要性あるものゝブロック別占有率を検すると次ぎの如くである。

世界資源分布率 (英誌「エコノミスト」より)

	英國	佛國	和蘭	米國	露國	其他
小麥	三三・四	九・一	〇・三	一〇・九	二・二	三三・一
大麥	一四・六	一〇・三	〇・三	六・九	一・八	五〇・一
玉蜀黍	五・九	一・四	一・四	五・〇	四・三	三三・〇
大豆	—	—	二・七	五・七	一・五	九・一
落花生	六・八	一四・一	三・八	六・八	—	一一・五
棉花	二四・四	〇・二	—	四三・二	七・一	一七・一
羊毛	五〇・九	三・五	〇・一	一一・三	三・八	二九・四
羊毛	五・〇	一・九	三・二	—	—	二・九
石炭	二五・四	四・五	一・二	三三・四	八・五	二六・〇
石油	一・八	—	二・三	五九・八	一一・七	二三・八
鐵礦	一〇・〇	一七・〇	—	三三・一	一八・八	二〇・一

即イギリス・ブロックは最も豊富なる種類に恵まれて居り、佛、和、米、露と夫々ブロックに適應した資源を占有してゐる。ブロック以外に於て絶對的優勢率を占めるものは小麥を主とする穀類と滿洲大豆である。尤もこれらの比率のみを以て直に資源の多寡を判断することは世界各地が經濟發展の過程を相異にし、相異つた生活様式を持つてゐるので危険であるが各重要原料品として世界海運の輸送貨物であることには何等の變りもない。こゝにブロック經濟の資源占有と自國貨自國船主義が問題となつて來るのである。

だが英議會に於けるイーデン氏の言明は結局労働黨の動議を多數を以て否決してゐるのであるから自ら英國内部に於ける議論の歸趨が明かとなつて來るのである。英國の如きは全世界の四分の一の版圖を占有する國であるから先づ第一に本問題の實質的検討に率先して當らなければならぬ筈であるが保守黨の動議否決と謂ひ、ロイド・ジョージ氏の論議の如きも畢竟するところ舊ドイツ領委任統治地の處分に關する範圍に限定されたものではないかといふ一應の疑念が浮ぶのである。蓋し問題の對照が委任統治地のみに限るとすれば到底世界資源の再分配論も意味が徹底されぬ憾みがありやしないか。委任統治地は主として未開發の土地が多く資源としても比較的貧弱なるを免かれ難く今尙ほ投資時代に屬するものであつて決して資源の再分配の要求を實際に解決するものではない。英議會に於ける意圖は資源再分配論の漸く激化せんとする情勢を看取し自國ブロックが其の論議の對照となることを恐れての一種のカモフラージュ的豫防線ではあるまいかと思はれる節々が多々存するのである。

オッタワ會議以來ブロックを強く固めることに急いでゐた英國としては結局現状維持を堅持するより外に何物をも想定することは出来ないのではあるまいか。米國のハウス大佐が資源の分配前提として人種的偏見の除去すべきことを提唱したがこれは卓見であつて大英ブロックの民族的結合の強化に對して一矢を報いたものと謂へよう。人種的平等觀なしに世界資源の再分配などは決して行はれる筈でない。かの米國の排日移民法、濠洲の白濠主義等は凡て人種的偏見の標本であつて、新興ナチス・ドイツのヒットラー總統の如きも舊植民地奪還の叫びに「白人種は植民地統治に宿命的である云々」と述べて居り、國內に於ては依然としてユダヤ人排撃を繼續してゐる状態である。

世界經濟活動の根幹は元來が國際的分業に依存度が深い。工業國は原料資源を農業國に求め、再び製品として農業國に輸出するのを原則としたものであつたが歐洲大戰はこの經濟機構に歪曲を生ぜしめ、農業國の範圍を脱しなかつた諸國は工業國化して生産の分野に一大變化を現出せしめた。況んや現下の世界經濟恐慌はブロック的に排他政策を強化することに拍車をかけたので世界資源の國際的移動も萎縮せざるを得なくなつた。要するに資源の再分配の如きは尖鋭化した國際情勢下に於ては木によつて魚を求むる類であることが解るが、よしや資源の分配なくとも通商、交通の自由性が障礙なく行はれたならば資源の分配に等しき効果のあることは必至であつてこれがために國際間の尖鋭化した情勢も或る程度に緩和することが可能であり、世界海運の活動分野も増大することは當然である。従つて世界資源再分配論の如きは第二義的の問題であらう。

へ、ドイツに於ける原料品輸入の實績

世界原料品の海上移動は生産の過剩に悩まされた原料品市場不振のために茲數年減退の步調を示してゐたが前年以來漸く需給の調節が豫期した効果を擧げ得たと共に世界工業生産の増轉が原料品需要を旺盛化し、世界原料品市場は恐慌以來の好調を辿つてゐる。原料品海上移動の好轉を物語るものとして茲にドイツに於ける原料品輸入の實績を觀測して見よう。

ドイツの經濟活動は既にナチス治下第三年を迎へてゐる。しかも一九三五年は概して上昇傾向を帯びた一年であつた。生産に消費に各經濟部内とも回復の顯著なるものがあり、とりはげナチス治下の景氣政策は益々國家的色彩を帯びて來て、一九三五年はとりはげ廣範圍に亘る積極的目標に移つて行つた。これは特に國防充實計畫と重工業の殷盛に著しきものがあり景氣政策の重點もそこに注がれてゐることが看取される。更に一九三五年のドイツ産業界の特色とすべきことは原料自給確保の努力が擧げられるがこれに關聯して重要工業の原料生産設備の増設と原料品輸入の統制が全くこの目標に向けられてゐることである。一九三五年の鐵鋼産業はザール地方の歸屬で生産も輸出も増進した。鐵鋼生産の活況は其れに伴つて海外より原鑛輸入が増加し鐵鑛界全般に好轉を示し、それが消費に反映して重工業部内の繁榮はナチス再軍備の強化と共に驚異的發展を遂げた。又ドイツ纖維工業は一九三四年の著しい好調の反動が強く現はれたが其れは原料品供給の不足と製品輸出の不勢が生産の萎縮を

招來し其後生産増轉に障碍となつてゐる織物工業令の改廢と原料供給の統制も簡易化して來たので今後の織維工業の好轉は期待されるものがあらう。機械工業、化學工業も亦好調の一途を辿つてゐる。従つて工業原料の自給方針に基いて其れ／＼自給政策の確保に努力したことは見逃すわけには行かない。

重要産業部門の生産増轉に伴ふてナチス・ドイツの一九三四年三月より食料品、原料品に對する極端な輸入防遏政策を採用した二ヶ年間の経過はドイツの軍國的色彩を濃厚化した物資需要に關心を拂はざるを得ないものが潜んでゐる。ドイツは何といつても現下國際貿易市場に於ける重要な買手國である、一九三四年に輸入防遏の統制政策がとられたときには其れがために關係商品市場の世界的急落を招來した程であつた。其の後ドイツの輸入貿易が如何なる實狀にあるか、一言にしていへばドイツの輸入防遏政策は食料品その他の輸入に多少の變化を齎したが輸入全體としては殆んど何等根本的な變化を見るに至らず、同政策採用當時の國際商品市場における杞憂は文字通り杞憂であつた事が實證されつゝあるといひ得るのである。先づ過去二ヶ年のドイツ貿易總額を一瞥すると(單位 百萬マルク)

	輸入價格	輸出價格
一九三四年	四、四五一	四、一六七
一九三五年	四、一五九	四、二七〇

であつて一九三五年は三四年に比して輸入が減退し輸出が増加し、三四年の入超二億八千四百萬マル

クに對して三五年は一億一千百萬マルクの出超を示してゐる。然るにこれを數量から見ると三四年、三五年ともに出超となつてゐるが三五年の輸入は次ぎの如く價格における場合と反對に却つて三四年よりも増加してゐるのが注目される。(單位 千噸)

	輸入數量	輸出數量
一九三四年	四四、四〇七	四五、二一八
一九三五年	四七、三七三	五〇、一三七

これはドイツ政府の輸入防遏政策に拘らずドイツ工業の生産増大が物資需要の旺盛を示す一端であつて更に輸入を部門別に検討すると左の如くである。(單位 千噸)

	一九三四年		一九三五年	
	家畜類	五九	八七	八七
飲食料品	四、七七六	三、六七四		
原料・半製品	三七、八〇八	四二、六七〇		
完製品	一、七六四	九四二		
合 計	四四、四〇七	四七、三七三		

減少してゐるのは飲食料品及び完製品で、原料及び半製品は増加を示してゐることが注目される。即ちドイツの輸入防遏統制からすれば飲食料品や完製品の如く他の物資輸入が減少してこそ然るべきであつて、原料品及び半製品の輸入が増加してゐるといふことは自給自足政策の建前にも前途尙ほ遑

遠なることを物語るものではあるまいか。

更に各輸入商品別の状況を見るに總數量に於ては減少を示してゐる飲食料品も各種商品別に見るときは増減區々であるが輸入防遏政策採用當時急減を豫想せられた穀類の輸入も減少は豫想程著しくないことが判然する。即ち重要穀物の輸出入を差引いた純輸入數量をみると(單位 千噸)

小麥	一九三四年	一九三五年
ライ麥	四六一、二四〇	一四五、七七四
大麥	* 五四、五八八	一八三、一三三
燕麥	五五一、九四〇	一五八、三六一
	二四、一五三	一八〇、四六三

(*印は純輸出)

となつて居り、小麥、大麥の輸入は激減し、國內需要を國內生産で賄はんとする計畫が相當効果を擧げたことを物語つてゐるが、しかしその反面に三四年は出超であつたライ麥が入超に轉じて燕麥の入超も亦激増を來してゐるのである。特に興味あるものは砂糖であつて、ドイツは大戦前後にかけて甜菜糖の一大供給國として常に砂糖の出超國であつたが、ナチス治下の砂糖貿易は形勢一變して次ぎの如く入超を示してゐる。

一九三三年	一〇、二二一噸
一九三四年	一六、三六九噸

一九三五年

二〇、三六五噸

尤も右の如き砂糖の入超數量増加はナチス・ドイツの軍事的目的のためにする強制貯藏の政策が強化されたことに基因するものであつて國內砂糖生産數量は次ぎの通り逐年増加してゐる。

一九三二—三三年	一、一一二、〇〇〇噸
一九三三—三四年	一、四四七、〇〇〇噸
一九三四—三五年	一、七〇二、〇〇〇噸

これによつてドイツ砂糖輸入増加は決して國內消費の急増した結果でもなく、又國內生産が減退した結果でもなく軍需的色彩の濃厚化した反面を如實に物語つてゐるのに他ならぬ。

右の如き軍需的用途の輸入が増加したことは砂糖以外に工業原料品特に鐵其の他金屬類の輸入にも顯著に表はれ居り、金屬類輸入に關する限りドイツの輸入防遏統制策は全く失敗に歸してゐるといつても過言でない。先づ鐵鑛及び鋼合金用金屬類の輸入數量をみると(單位 千噸)

鐵	一九三四年	一九三五年
滿鐵	八、二六四	一四、〇六一
ニツケル	二二五	三九四
タングステン	五	六
クローム	四	八
其	七七	九五
他	二一	二七
		一一七

即ち例外なく増加を示してゐる。しかもこれら金屬類の價格が昂騰してゐるにも拘らず斯くの如き輸入増加をみたことは以てドイツが如何にこれらの工業原料品を必要としたかを雄辯に物語るものであるが輸入數量が一九二九年當時を凌駕し、中には二九年の輸入の二倍に達したものが二、三ある盛況振りをしてゐる状態である。尙ほ鐵金屬以外の輸入も皮肉に自給自足政策に反して顯著の増加振りを示し、世界市場にドイツの原料品輸入防遏策が何等影響を與へなかつたことを證明してゐる。

次にドイツは原料品の自給自足政策に失敗し輸入統制も國際市場に殆んど影響を及ぼさなかつた例としてゴムを擧げることが出来る。即ちドイツはゴムの輸入防遏に努めたがゴムの輸入超過は次ぎの如き數字を示して居る。(單位噸)

一九三三年	五四、九八九
一九三四年	六〇、二八二
一九三五年	六三、九〇八

同様のことは石油の輸入に關しても言へるのである。ドイツの石油生産は一九三三年の二十三萬九千噸より一九三四年の三十一萬五千噸に増加してゐるが、一九三五年には更に四十萬噸に増加してゐる。現在ドイツの石油及び石油製品需要の六十五%は未だこれを輸入に仰いでゐる實状であるがこの比率が今後速急に低減するか否かには尙ほ大きな疑問がある。三四年、三五年の石油輸入超過高は次ぎの如き増加傾向を示してゐる。(單位噸)

重油	一九三四年	二七六、七一七	一九三五年	五一五、二九五
輕油	一九三四年	一、一四七、四七一	一九三五年	一、一七〇、一〇四
ガソリン	一九三四年	六一一、五七二	一九三五年	八四八、八二二
機械油	一九三四年	二四九、七〇七	一九三五年	三四四、二五七

最後に最も注目されるのは織物原料、特に棉花と羊毛の輸入である。元來ドイツは棉花や羊毛の代りに人造代用品を奨励して居るので過去二ヶ年間にこれらの試練が若干の進展を示し棉花、羊毛の輸入も漸減傾向を現はしてゐる。(單位千噸)

棉花	一九三三年	四一七	一九三五年	三一九
棉花	一九三四年	三一七	一九三五年	九九
棉花	一九三五年	三一〇		

更に興味あることはこれら原料輸入に關して分散主義を採つたことである。例へば棉花は一九三三年に總輸入高の五分の四をアメリカから輸入し、約九%はエヂプトから、約六%は印度からであつたが一九三四年にはアメリカからは全體の六〇%に低下し、且つブラデルからの棉花輸入が開始せられるに至つた。これが一九三五年になるとブラデルからの輸入は益々増加し全體の二十七%を占めて第一位の棉花供給國となり、アメリカからの輸入は更に減つて全體の二十四%となつてゐる。又一九三

五年には印度、エジプトからの輸入は減つてペルー、トルコ、アルゼンチン等からの輸入が増加してゐる。棉花輸入の數量は減少してゐるが供給國との航走距離の増大したことは船腹需要の消化力を必然的に増大させることになる。即ち原料品市場の好轉と相俟つて貨物の海上移動距離の變化は全般的に世界海運にとりて好材料たるを失はない。同様の事實は羊毛の輸入の上にも現はれこれがためにオーストラリア、ニューゼーランドからの羊毛輸入は減少し南阿及南米諸國からの輸入數量が増加の現象を呈してゐる。これもドイツが貿易政策を求償主義乃至物々交換主義に主力を注いだ結果であつて結局ドイツの自給自足政策は全く失敗に終ると共にドイツが依然たる原料品買付國としての地位を失つてゐない事實を反映したものであることが判る。勿論ドイツの物資需要の現況が著しく軍國的色彩を帯びてゐることも争はれない事實であつてこの變態的な状態が常態化して平和産業に復歸する時こそドイツの輸出貿易も常態に恢復するであらう。斯くの如き時こそ世界貿易の常態的復興であつて世界海運の好轉も本格的となることは疑のなきところであらう。

五、本邦經濟の特異性

イ、昭和十年の推移と大觀

本邦經濟は昭和七年下半年より八年に亘る急激な躍進の跡を承けて九年には全般的人氣に稍々行過

ぎの觀もないではなかつた。特に生産部門の設備擴大と株界に於ける株式供給の過剩状態は漸く好轉の波に乗つた經濟界に警戒の念を生ぜしめた。他方對外爲替は九年に既に安定期に入り、財政膨脹の程度も次第に緩慢の兆を現はし、金輸出再禁止後の經濟界發展に對する直接的の景氣昂進力は稍々鈍状を示し一時程の異常的のものではなくなつてゐた。同時に外國に於ても十年上期を通じて米國に於ける金約款問題や産業復興法の條項に對する違憲判決等の問題があり、景氣上昇の停頓を招來し、歐洲に於ける國際政局の緊張と金本位國の動搖は少からず本邦經濟界の安定に悪影響を及ぼすところがあつた。従つて九年下半年頃より景氣上昇の大勢が稍々衰へるかの觀を呈した情勢は十年上半期に至つて一段と深くなつて行つた。生産、消費部門の實勢は依然たる大勢を續けたとは謂へ、一部産業部門に於ては需給關係の悪化現象が顯著となり、前途に生産過剩の懸念が生ずるに至り、この傾向は輸出産業の重心をなす纖維工業と軍需景氣の核心をなす金屬工業に於て特に著しきものがあつた。其の結果として一部農産品や肥料等の騰貴があつたのを除くと一般主要商品は軟調の趨勢を辿つた。だがこれに反して輸入原料品は寧ろ昂騰し、原料高、製品安の傾向は企業の採算を或る程度に悪化したことは事實である。對外貿易に於ても海外の本邦品防遏の手段は益々熾烈を加へて輸出の増勢は鈍り、これに反して輸入は棉花を始め一般に増大し、貿易尻は巨額の入超増加を示した。金融緩慢の基調に變化なく、短資市場は動もすれば硬塞状態であつた。

十年下半年期に入るに及んで重要商品の生産過剩懸念はカルテル統制の強化による整調工作の結果次

第に緩和されて市況安定を見るに至つたが時恰も米國經濟界の好轉著しきこと、且伊エ紛争を繞る歐阿の風雲急を告げるが如き事情に恵まれて産業界は漸次生氣を恢復した。物價も七月を底として昂騰し、商品の取引量の増勢を對外貿易、鐵道荷動に反映して來た。これを要するに昭和十年の本邦經濟界は上半期に於て九年下半年以來の情勢を持續して景氣上昇の趨勢にあつたが下半期に至つて諸情勢は著しく明朗性を帯び一兩年前に比して稍々緩かとなつた傾向はあるが引續き健實なる足取りを以て上昇過程にあると謂へる。これを昭和六年以降の本邦經濟界の發展過程に顧ると、過去四ヶ年に於ける生産、貿易の躍進は何れも不況以前の水準を遙に突破して未曾有の激増を呈してゐる。物價も其間三十%の騰貴をなし、有價證券の値上りも顯著の實績を示してゐる。更に工業部門の就業者も約三十%の増加を示し従つて失業者の減少も低率となつてゐる。これを外國の情勢と對照するに金本位を離脱した諸國に於ても恐慌の底を入れたのは漸く七年乃至八年であつて九年以降になつて初めて恢復情勢の稍々見るべきものがあるに過ぎない。世界工業生産活動は六年乃至八年を底として十年に漸く二十%程度の恢復を示したに過ぎず、貿易に於ても今尙ほ一九二九年に比して約六十六%の減少を示してゐる事象を本邦の情勢に比較するとき本邦經濟發展の跡は誠に目覺しきものがあると言へる。

だが生産部門が限産によつて市價の維持を圖るが如きは發展の大勢より轉じて調整を必要とする時期に入つてゐることを雄辯に物語るもので前途必ずしも樂觀を許さざるものがある、低爲替と諸國の景氣對策に伴ふ物價高に累せられて原料品價格の著しく昂騰したことは海外に於ける本邦商品の輸入

障礙と相俟つて輸出工業部門の利潤低下を促すに至り、近年の經濟界好轉の一大支柱であつた輸出貨易の増勢を阻止しつゝある。工業生産及び對外貿易に關する限り世界の大勢に逆行して特異の恢復上昇を示したのは云ふまでもなく不況時に於ける産業合理化、金輸出再禁止に依る對外爲替の低落、滿洲事件後に於ける軍需インフレ、低金利の浸透等に基くものであつてこれらの條件に變化がなければ今後の經濟界の動向も好調を持續するであらうといふのが一般の見透であるが既説の生産部門の限産現象、輸出部門の騰勢挫折傾向は以上の諸條件の發展を裏切るものであるが其の間にあつて注意すべきは國際關係、特に歐洲に於ける政局、北支の情勢、對ソ關係、海軍會議退後に於ける諸情勢の推移であらう。

ロ、本邦物價の大勢

日本銀行調査の卸賣物價指數は前年の九年に比較して僅の騰勢を維持してゐる。尤も上半期は纖維工業品及び鋼材類の生産過剩懸念や輸出貿易の發展性の稀薄化、且米國經濟界異變の情勢に影響されて物價は全體として落勢を辿つたが其後の内外景氣の好轉、殊に歐洲政局の尖鋭化を見るに及んで重要商品は殆んど全般的に騰貴し、久しく伸悩んでゐた纖維工業品や鋼材も昂騰を示すに至つた。日銀卸賣物價の推移を示すに次ぎの如くである。(明治三十年十月を一〇〇とす)

日本銀行卸賣物價指數

昭和九年	昭和十年	
一月	一七五・五	一八一・五
二月	一七七・五	一八四・一
三月	一七六・九	一八三・五
四月	一七六・九	一八二・三
五月	一七六・二	一八二・四
六月	一七四・五	一八〇・二
七月	一七四・一	一八〇・二
八月	一七六・九	一八二・九
九月	一七九・二	一八八・九
十月	一八一・八	一九四・〇
十一月	一八一・一	一九三・六
十二月	一八一・一	一九一・九

右の如く本邦卸賣物價は金再禁止後漸次上昇してゐるが其の間對英、對米爲替は約四割程度の低落をしてゐるのでこの對外爲替相場の低落が物價に及ぼした影響を検討すると次ぎの如き推移を示してゐる。即ち國內商品に對して貿易商品の高率化、輸出商品に對して輸入商品の高率化といふ注目すべき現象が看取されて本邦最近の原料品高、製品安の傾向が漸次濃厚化してゐる事實を如實に反映して

ゐる。

金再禁止後の本邦卸賣物價の推移 (三菱經濟研究所調べ)

一六年十二月十日—一〇〇—

	昭和八年	昭和九年	昭和十年
國內商品	一一〇・七	一一八・八	一二三・四
貿易商品	一五一・〇	一五三・九	一五五・五
輸出商品	一三七・八	一三二・三	一三三・七
輸入商品	一七〇・六	一八六・八	一九六・〇
總指數	一四四・〇	一四七・五	一四九・六

即ち最近三ヶ年間に於ける原料品物價と製品物價の推移を比較すると原料品割高の傾向は年と共に上昇してゐる。従つて製造工業部門の利潤低下の趨勢も當然とされる一因をなしてゐる。本邦物價が對外爲替相場に影響されて國內商品物價と貿易商品物價の間に顯著な相異を示してゐるが茲に本邦物價と對英、對米物價比率を算出して當該國の物價の推移と比較して、本邦物價の國際的水準を掲げよう。

本邦物價の國際的水準 (昭和六年を一〇〇とす)

昭和八年	本邦物價	對英爲替指數	對英物價	英國物價
	一一七・三	五九	六九・二	九七・二
				一二五

昭和九年	一一六・一	五八	六七・三	一〇一・一
昭和十年	一一一・二	五七	六九・一	一〇五・五
	本邦物價	對米爲替指數	對米物價	米國物價
昭和八年	一一七・三	五一	五九・八	九〇・四
昭和九年	一一六・一	六〇	六九・七	一〇二・七
昭和十年	一一一・二	五八	七〇・三	一〇九・七

(註) 本邦物價は日本銀行、英國物價はエコノミスト誌、米國物價は勞働省の卸賣物價指數基準を換算したるものである。

即ち本邦物價は昭和八年に既に六年に對して十七%の上昇を示し十年には二十%の昂騰を演じてゐるがこれに反して英、米兩國の物價が八年には六年を下廻る状態であり、九年に漸く其の水準に達し十年に於て始めて本格的の上昇を現はしてゐる。斯くの如く本邦物價は騰貴率に於て英・米を凌いでゐるがこれを對英、對米物價に換算して國際的水準を比較すると圓貨の對英四十三%、對米四十二%の低落が作用して本邦物價の對英六九・一、對米七〇・三を示し、英國の一〇五・五、米國の一〇九・七に比して尙ほ著しい低位にあることが認められる。この現象が本邦輸出貿易の殷盛に極めて重要な關係を持つことは謂ふまでもないことであつて、輸出貿易の躍進と共に其の内容的構成の變化が本邦海運の定航化促進に積極的の支柱となつたことは周知の事實である。

ハ、生産活動の旺盛

昭和九年の生産活動で工業部門はとに角、農業方面は米、藪の收穫を始め自然的災害のために減收を餘儀なくされ、其上農産物價格の低落は農業生産に多大の打撃を與へた。然るに昭和十年は米穀の收穫並に價格の恢復、麥類の増收が著しく且つ蠶繭は引續き減收を示したが價格の昂騰が著増したので前年に比して顯著な好調を呈することが出来た。

主要農産品收穫高

	米	藪	小麥
昭和六年	五五、二一五 (千石)	九七、〇七二 (千貫)	六、四〇六 (千石)
昭和七年	六〇、三九〇	八九、五五〇	六、四九七
昭和八年	七〇、八二九	一〇一、一六四	八、〇一三
昭和九年	五一、八三九	八七、一三九	九、四五一
昭和十年	五七、〇六〇	八二、〇六六	九、六六一

工業生産の活動は依然たる旺盛を示し三菱經濟研究所調査の工業生産指數を見ても九年の増加率が約八%であつたものが十年には約十二%の増加を示してゐる。其中工産品の増加率は十二%の著増を示し、鑛産品は稍と衰勢を示したが尙ほ七%の増加を示してゐる。又生産財と消費財の生産増轉も九年には前者十三%、後者僅か四%を呈してゐたが十年には前者が依然として十二%、後者が十%に

増加し、茲に兩者の増加率が極めて接近して來たことが認められる。

工業生産指數 (三菱經濟研究所調)

—昭和五年を100とす—

	工業品	礦產品	生産財	消費財	總指數
昭和六年(年平均)	104.5	91.5	101.6	101.1	101.4
昭和七年(年平均)	111.1	90.3	103.6	103.3	103.3
昭和八年(年平均)	116.5	101.0	115.1	113.0	114.1
昭和九年 三月	113.6	117.4	114.6	116.8	110.1
六月	110.1	103.1	113.1	116.8	115.1
九月	116.8	106.8	117.4	119.1	113.6
十二月	113.0	106.3	116.0	114.2	110.5
昭和十年 三月	115.4	110.3	115.9	113.6	115.6
六月	116.3	114.8	116.5	116.4	116.6
九月	116.0	115.8	115.2	116.2	116.5
十二月	113.6	118.9	114.5	114.7	115.5

工業生産の増轉分野は昔に右の如き重要産業のみに止まらず廣汎に亘る中、小工業に浸透し更に新興産業の勃興を呼び、九年と同様、軍需工業の旺盛化と輸出貿易中の主要品以外の雜品輸出増加が斯く工業生産の活況を支持した原動力となつたのであるが更に農業經濟の實質的好轉が或る程度の刺戟

を加へたこととは否定出來ない。尙ほ物價と生産の推移は略々同一傾向を辿つてゐることが看取されるが本邦の景氣様相と英、米の景氣動向とに些か異なるものがある。即ち物價の騰貴と生産指數の上昇が其の内容に於て英、米では大體同じ傾向を帯びてゐるが本邦は然らず、英、米最近の景氣上昇は主として自然的要因が強く反映してゐるところが多いに拘らず、本邦では人為的作用の工作力が依然として強く働きかけ、その要因としても對内的事情に左右せられてゐるところが大である。

本邦物價に騰勢の根強いことは其の間多少の反落はあつたが持續的と謂へる。これは勿論農産物を主とする國內商品と貿易品中に於ける輸入品價格の昂騰によるものであつて、特に注目すべきは一部商品を除き何れも凶作乃至減産、政府の人為的釣上策、海外同種品の値上り等に原因した價格騰貴であり、他面工業部門に於て生産の増大した商品は何れも却つて低落してゐることである。物價が自然的要因から上昇するのであれば問題はないが右の如き要因から昂騰することは蓋し悪性インフレの一現象として警戒を要すべき點と見ることが出来る。しかもこの點は最近に於ける通貨の膨脹並びにこれが要因を検討すると本邦景氣上昇の反面に悪性インフレ的傾向が潜んでゐることが判然しよう。だがそれが本格的な悪性インフレに展開しつゝあると謂へないのはその通有性である産業利潤増加が伴つてゐないからである。

二、本邦景気の現勢

列國最近に於ける通貨流通高は何れも増加してゐるが本邦に於ける十年の日本銀行紙幣流通高を九年に比べると各月三千萬圓乃至一億圓の膨脹を示してゐる。これは工業生産の増加や對外貿易の増大等による本邦經濟實體の膨脹にもよるが、最近に於ける特異的な要因はやはり前述の農産物價の値上りや買入價格の引上げに基く金買入の増加、植民地關係就中朝鮮銀行券準備用の日銀紙幣増發によるものである。

日本銀行兌換券發行高 (單位 百萬圓)

昭和	上半年		下半年		年平均
	昭和	昭和	昭和	昭和	
昭和六年	一、〇七二		一、〇一七		一、〇四四
昭和七年	一、〇四五		一、〇三六		一、〇四一
昭和八年	一、〇九二		一、一三七		一、一一四
昭和九年	一、一七八		一、一七九		一、一七九
昭和十年	一、二三二		一、二六三		一、二七四

農産品の値上りに基く資金需要増加や鮮満方面の經濟的發展に伴ふ通貨需要等が兌換券増發に助勢したことは既定の事實であるが他面工業生産品の増加が如何に通貨流通に作用してゐることの少いかは全國手形交換高で枚數が増加して居るに拘らず金額が減少してゐることでも明かである。同時に十

年に於ける赤字公債の發行高及び國債の消化を見るに發行高は約九億圓と前年に比して六千萬圓の増加であるがこれが消化は九年に比して各月一千万圓方の減少であつた如く推定される。要するに國內に於ける商品取引の増加に伴はずして通貨の増發が行はれ、また流通高が増加したことは悪性的インフレ傾向の顯現ともいひ得るのである。

悪性インフレの本格化は産業利潤の増加しない點から觀測して積極的展開性がないものと推定される。昭和七年以來顯著の恢復振りを示した産業部門の業態は最近事業收益の上昇傾向が稍々停頓状態を示すに至つた。三菱經濟研究所の調査による業種別收益、配當を見ると其の間の消息が判然する。

企業の收益及び配當 (三菱經濟研究所調)

業種	拂込資本収益率(%)		配當率(%)	
	九下期	十上期	九下期	十上期
總平均	二・七	三・五	七・二	七・六
金 融	二・一	二・八	六・二	六・一
製 造 工 業	一六・三	一六・七	九・一	九・一
鐵 業	一四・四	一五・九	一〇・〇	一〇・〇
公 益 事 業	六・四	七・二	五・二	五・九
貿 易	九・八	一六・五	六・七	六・七
其 他	七・七	一〇・一	三・五	四・七
				一三・一

右の如く鑛業部門は益々活況を續けてゐるに反して製造工業は収益状態がやゝ鈍化の傾向を示し殊に十年下半年に於ては微弱ながら低下を現はしてゐる。斯く産業部門の生産及び取引は活況を反映して大勢尙ほ好調を續けてゐるものゝ増勢に鈍化の傾向が認められ、一部生産部門に於ては生産過剰が懸念され、原料高、製品安の情勢が企業採算の低下を生ずるに至つたことは注目すべき現象と謂はなければならぬ。近時の収益率の上昇鈍化に對して配當率の増大してゐることは其の反面社内保留割合の低下傾向を示すもので本邦産業界の前途に對し輕視出來ないものがある。

これを新規事業計畫の情勢に觀ると日本銀行の調査は、産業界の活況と低金利の滲透に依つて昭和八年以來急激に増加した株式會社資本發行高の新設と増資、社債は昨十年も引き続き上昇を示し、九年に比して七千萬圓の増加であるが九年に於けるが如き増勢はない。十年に於ける増加は新設増資が主であつて社債は却つて減少してゐる。

株式資本計畫高 (日本銀行調査)

	六年	七年	八年	九年	十年
新設、増設	五〇、三〇六	三九、三九二	一、〇七、五七三	一、〇九、三〇一	一、一〇、四九一
社債發行	四七、四〇〇	三〇、一〇〇	六、四四五	三三、七九〇	三三、四三〇
計	五七、六〇六	四九、四九二	一、一四、〇一八	一、四三、〇九一	一、四三、九二一

これを企業別に見ると、製造工業は依然として第一位を占めて雜業、商業及び運輸業が之に次いで

ゐることが解る。殊に商業及び雜業の増加は顯著なるものがある。尙ほ十年中の計畫資本の形態に從つて之を分類すると(單位 千圓、△印減)

	十年	前年比較
新設	七四七、五六九	一六三、六一四
増設	四四二、八九二	△ 六七、八五五
社債	二二六、四五〇	△ 三、三〇〇

であつて計畫資本は増設、社債ともに減少せるにも拘らず新設が激増し企業活動の特異性が充分に判明する。更にこれを分析して見ると本邦景氣好轉の濃淡が隨所に見出される。概して生産の産業部門の伸力が漸く鈍くなつてゐるに反して消費財生産の産業部門は相當の躍進を示してゐるのが注目される。従つて一般的景氣の動向は重工業に薄く寧ろ輕工業に移行しつゝある傾向は否定出來ないものがある。これが原因は何處にあるかといへば近時に於ける一般的農産物の價格昂騰、輸出貿易の好調に伴ふ雜品工業の殷盛、それに軍需工業の中小工業部門への滲透に基く活況から全般的に購買力が著しく増進したために外ならない。計畫資本の發展又は停頓は常に景氣の消長と正比例して動くものであるが、かかる意味に於て本邦經濟界の最近の景氣動向に決定的重要性をもつてゐるものは輸出貿易の發展が第一要件であらう。

株價はどうかといふに一時伊エ紛争の擴大見込が外れて反落したものの、其後の盛返しは可なりの恢

復を見せてゐるが物價の昂騰に比して遅々たる歩みである。

重要産業株價指數 (三菱經濟研究所調)

—大正十年—十四年を平均とす—

昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年
年平均	年平均	年平均	三月	三月
五一	六五	九五	一一四	一一二
			六月	六月
			一〇八	一〇四
			十二月	十二月
			九四	一〇二
			九月	九月
			一〇三	九四
			十二月	十二月
			一〇四	一〇三

即ち株價は十年の底である六月、七月に比しては稍々恢復してゐるとはいへ、金再禁止以來の高値たる九年三月とは可なり大きな隔りがある。これは物價昂騰が主として人爲的作用の所産であつて農村關係の好轉に基き都市産業は却つて業態悪化を見てゐるからである。だが産業の業態が悪化しつつあるにも拘らず株價が微弱ながら恢復してゐるのはインフレ擴大化の見込みを織込んでゐるからであらう。即ち惡性的インフレ傾向が農村關係及び一部の産業部門に惠まれてゐるに反し、今後は更に都

市産業部門にも再び波及擴大されることが豫想されるからである。一般的には政府の支出増大、特殊的には海軍協定の清算から来る軍需費の増大、大陸政策の進展に伴ふ政府支出の増加並びに投資の増加、國債消化力の減退等からである。従つて對外爲替相場の低迷と内外物價の懸隔の擴大化をも豫期されるからである。

もつとも輸出貿易が増轉するかぎり右諸條件の惡性インフレ傾向を幾分にも減殺することは疑のないところであるが本邦對外輸出増轉の裏面は對滿輸出の増大を含んで居るがこれは同一ブロック地域内のものだけに割引して考察する必要がある。以上の如く本邦に於ける景氣恢復の著しい點は認め得られるが中には惡性インフレ傾向を帯びるものもあつて、しかもその傾向が益々強化するものがあるやに思はれるのである。一般産業利潤は惡化の傾向にあるがしかもこれが好轉すればそこには本格的インフレの様相が顯現することは當然の成行であるかも知れない。

ホ、本邦輸出入貿易の躍進

茲兩三年來の本邦對外貿易程躍進過程の姿を顯著に現はしたものは餘りない。特に十年の貿易実績は正に劃期的と言ふことが出来よう。即ち十月下旬には既に一月以降の貿易累計が出超に轉じた如きことは殆どその例がなく歐洲大戰後の所謂戰時好況時代は知らず輸入超過を常態としてゐた本邦貿易にとつては極めて明瞭なる足跡を残すに至つた。大藏省發表の内地、朝鮮、臺灣、南洋を含む對外貿

易は左の如くである。(單位 千圓)

輸 入	昭和十年		昭和九年	
	輸 出	輸 入	輸 出	輸 入
輸 出	二、六〇三、一八〇		二、二五八、〇八一	
輸 入		二、六一七、八八〇		二、四〇〇、四九五
合 計		五、二二一、〇六〇		四、六五八、五七六
入 超		一四、七〇〇		一四二、四一四

内地だけを大観すると輸出二四九百萬圓、輸入二、四七二百萬圓の記録を出し前年分に比較して輸出は十五%、輸入は八%を夫々膨脹して居るのみならず、其の貿易尻は遂に二千六百八十萬圓の出超に終り、實に遠く大正七年以來十七年振りのレコードである。次ぎに外地を加へた貿易尻は一千四百七十萬圓の入超を示したが輸出額は過去に於ける最高レコードたる大正十四年度より更に九%を増加して本邦輸出貿易史上未曾有の記録を作り、輸入額又同年に匹敵する數字を示したので、十年の全國輸出入合計額は右大正十四年の記録を破つたのみならず、其の入超額の減少して貿易尻の改善著しき點に於ては大正七年以來始めての記録をなした。貿易額に於て大正十四年の記録を破つてゐる許りでなくこれを物價指數から見れば大正十四年は物價の昂騰した時であつて日本銀行の物價指數が二・二・二であつたが昭和十年は一四五・四となつてゐるから數量的に見た輸出入貿易は昭和十年が最高記録ではないかとさへ思はれるのである。何れにしても本邦輸出貿易の躍進が各國の防遏手段に反抗しつゝ、一路發展を續けてゐることは以上の數字を見ただけで充分に頷くことが出来る。

斯くの如き優勢な本邦商品躍進の裏面には何が秘められてゐるだらうか。勿論爲替安とか過去に於けるデフレ時代に於ける産業の合理化とか乃至は勞働條件の有利、技術の進歩等幾多本邦産業の有利な點を數へることが出来るが貿易上の特異なるものは第一に輸出商品の多様なる點が擧げ得られる。即ち一商品が相手國によつて輸入制限の憂目を見るに至れば別種商品の進出によつて其の喪失したところを補ふことが出来るのである。これは通商戰の激化に抗しつゝ、本邦輸出貿易が挫折しない大きな特異點であらう。この具體的な姿をはつきり認識するために十年の内地貿易と其の前年とを對比して見よう。

内地輸出入貿易額 (單位 千圓)

	輸 出		輸 入	
	十年	九年	十年	九年
食 料 品	一九七、二一〇	一七二、九三三	一九三、六〇五	一七五、四八八
原 料 品	一一〇、四六三	九五、七三九	一、五〇七、六三〇	一、四三三、八五六
原料用製品	六七三、四三三	四九六、五三九	四六八、六二六	四二五、八四二
全 製 品	一、四五二、三〇〇	一、三四五、五二二	二六六、二九二	二二一、六四四
其 他	二八、九九七	二七、四八五	一〇、五〇七	一〇、三三三
再 輸 出(入)	三六、七六〇	三三、七三九	六、五九六	五、四八九
計	三、四九三、〇九三	三、一七一、九三五	三、四七三、二五六	三、二八八、六〇一

即ち部類別からすると輸出にあつては食料品が十四・六％増、原料品が十五・四％増、全製品が八％増にあるに反して原料用製品の増加割合は三十五％の高率を示し断然他を壓してゐるのが目立つ。九年に於ける全製品及び原料品の著増、原料用製品の減退した傾向とは全く反對の現象である。之は主として生絲の激増に基くのであるが、全製品の増加程度が減退したことは、主として織物類の進展鈍化に因る爲めで、これは特に留意すべき事象である。従つて原料用製品の相對的地位は二十三％から二十七％に上昇し、全製品は六十二％から五十八％に低下を見てゐる。輸入にあつては各部類を通じて増加割合が前年よりも減退してゐる。この輸入部門に於ても原料用製品の増加は最も顯著であつて十三％を示し、全製の九％増が之に次ぎ、原料品は七％増に過ぎない。原料用製品の増加は鐵類、銅、製紙用パルプ等に基くものであつて、原料品に於ける増加割合の低下は主として棉花の減額によるものである。

次ぎに輸出貿易の躍進した内容を見ると本邦産業の殷盛に對して重要な暗示を與へてゐる事が判然する。重要輸出商品を抽出すると次ぎの通りとなる。

本邦重要輸出商品 (單位 千圓)

	十 年	九 年	對前年比增加率
小 麥 粉	三三、七〇〇	二八、四五二	二八％
罐裝詰食料品	五七、一三〇	五〇、三〇四	一三％

綿 糸	三五、八七三	二三、四八五	五六％
生 絲	三八七、〇三二	二八六、七九五	三一％
綿 織 物	四九六、〇九七	四九二、三五二	三％
絹 織 物	七七、四四四	七七、四八八	二％
人絹織物	一二八、二六〇	一一三、四八四	一六％
メリヤス製品	五〇、二六六	四七、六一八	八％
雜 品	一、一九四、五一一	一、〇一九、二一九	一九％
再 輸 出 品	三八、七六〇	三二、八二九	一八％
計	二、四九九、〇七三	二、一七一、九二五	一

即ち輸出商品の王座を占める綿織物は僅か三％の増加で、十年に於ては蘭印の輸入制限、埃及の輸入阻止等によつてこれ等市場に對する輸出が減少した外、本邦品輸入防遏の最大目標となつてゐるだけに、綿織物は最近所謂輸出の頭打ち状態に入らんとしてゐる。これに反して綿糸は一躍五十六％の増加を示してゐるが、これは綿布に對する輸入防遏を關稅率の比較的低い綿糸輸出で補はんとしてゐる事實を物語るものであつて、綿糸の輸出著増の仕向地が英領印度、蘭領印度である點から見ても特にその感が深いものがある。その他人絹織物の躍進、一般諸雜品の進出は綿布の進出によつて開拓された市場に漸次進展して綿布防遏阻止の間を巧みに縫つて飛躍をつゞけてゐる。特に最近は重要商品以外の雜品として一括される種々の雜貨輸出が極めて旺盛で輸出貿易の特徴となつてゐるが、從來雜品の輸出總額に對する輸出割合は四割乃至四割五分程度であつたものが漸次五割以上までも躍進し尙

ほ伸長餘力を示してゐる。この雑多な雑品の勃興こそ將來本邦輸出貿易の中核をなすものであつて相
當期待し得るものであらう。

本邦輸出貿易の特異性で注目すべき第二の點は市場の廣汎性であらう。本邦輸出商品は今や世界の
隅々にまで文字通り滲透してゐる。茲兩三年間に於ける新市場の開拓は或はアフリカに或は近東諸國
に或は中南米に懸命の努力が拂はれ、輸出膨脹の大勢は實に驚威的なものがある。この増加の跡を各
洲別に大別し、金輸出再禁止直前の昭和六年を基準とし茲一兩年の状態を示せば次ぎの如くである。

本邦輸出の仕向地別 (金額より見たる指數)

洲	六年			九年			十年		
	輸出	輸入	平均	輸出	輸入	平均	輸出	輸入	平均
亞細亞洲	100	100	100	223	100	100	252	100	100
歐洲	100	100	100	217	100	100	249	100	100
北米	100	100	100	92	100	100	121	100	100
中米	100	100	100	122	100	100	103	100	100
南米	100	100	100	558	100	100	700	100	100
アフリカ	100	100	100	295	100	100	306	100	100
太平洋	100	100	100	298	100	100	358	100	100
平均	100	100	100	184	100	100	214	100	100

斯くの如く從來本邦商品の輸出をあまり見なかつた地域に對する輸出増加が最近の大きな特異點で

あつて舊市場に於て多少の行詰りがあつても、新市場の開拓によつてこれを埋合せ世界市場の廣さを
痛感せしめてゐる。これは正金銀行調査の貿易數量指數を見ても輸出全體として増勢を持続してゐる
ことが解る。

正金銀行貿易指數 (昭和六年基準)

年	金額指數		數量指數	
	輸出	輸入	輸出	輸入
昭和七年	122.9	115.8	117.9	100.7
昭和八年	162.2	155.2	118.3	104.5
昭和九年	189.4	184.7	128.3	107.7
昭和十年	217.9	200.1	145.3	111.0

諸外國の國家主義的政策の強行、ブロック經濟の樹立、更に本邦商品を對象とする輸入防遏手段の
續出等によつて、本邦輸出貿易に對する關稅引上、輸入制限等の障碍は益々擴大強化せられるに至つ
たが本邦商品の多種多様性、市場の廣汎性が全世界に亘る輸出障碍に拮抗して異常の發展を示したが
これは本邦貿易が本格的に出超傾向を現出せしめた第一年度の特徴である。元來輸出價格は種々の關
係で一般に實質的價格より常に一割近くの過少に計上されてゐるものであると言はれてゐる。従つて
巨額の密輸出を除外しても實際上に於ては一億圓以上の出超をしてゐることは否定出來ないのであ
る。尙ほ從來の貿易出超は世界大戰當時の如く外部的條件が偶發的現象たらしめたものであるが最近

の輸出好調は生産力を背景として持続力を具へたものであつて、本質的に恒久性であつて全く偶發的現象とその特質を異にしてゐるものである。金再禁止前には輸入産業として製品の大部分を輸入に待つてゐた産業や或は單なる國內産業でしかなかつた産業の生産力やの擴大は漸次非常な勢で膨脹して輸出産業へと轉換した事は本邦海運の對外活動分野に重大なる刺戟を與へ茲に不定期船經營より定航化への海運經濟上に看過することの出来ない新課題を投げかけるに至つた。

六、昭和十年の本邦海運界

イ、概 観

昭和十年の本邦海運界は大局的よりすれば依然たる好調を持續したと稱しても差支へないが昭和六年末の金輸出再禁止を轉機として急轉回をなし自來再生の一途を辿り世界海運の不況をよそに独自の活況を呈し、九年には既に關東震災以來絶えて見なかつた好調を馴致したのであるが十年に入るに及んで前年の活況を發展維持することが出來ず期待に背いて騰勢は頓坐するに至つたと見るべき節がある。

倫敦を中心とする遠洋市況は本邦不定期船にとつては概して香しくなかつた。時に本邦不定期船に關係深い滿洲大豆の對歐輸送も出荷不振に加ふるに運賃軟調が本邦船の稼航に障礙となつた。だが前

年來の本邦輸出入貿易の躍進は定期船の船腹需要を著しく増大せしめ、其の活況は必然的に不定期船の定航化を促進するところとなつて船腹需給の均衡は益々効果を擧げ得るに至つたことは注目すべきところである。下期に於ける遠洋市況は新穀出廻りに臨んで伊・エ紛争の激化に當りし、倫敦市場は著しく刺戟されて市況の反撥を見たが本邦船の歐洲方面出動は内地備船料市況の硬化及び戰時保險料の加重に累せられて依然採算圏外に投出されてゐる觀があつた。

近海市況は軍需インフレに基く近海荷動の股盛から全般的に好調を迎るものと期待されたが遠洋不振に伴ふ大型船の近海歸航が多かつた上に、極東市場の特異的繁榮を夢みて蝟集する外國船の來航は一時稀有の多數に上り、しかも本邦有力筋の備船も相當の量を消化したとは謂へ、これら外國船が東洋に割込み採算を無視した運航は痛く本邦市場に打撃を與へるに至つた。地中海に於ける政局緊張と共に極東に蝟集した外國船は大半歐洲に歸航したために本邦近海市況の安定化は濃厚になつたが積極的發展性には乏しかつた。大手筋の外國船備船が未曾有の數に達し、其上外國置籍の輸入船が驚くべき多數に上つたことなどは特筆すべき現象であつて、九年度の外國船備船は常時三十萬噸、最高時四十萬噸を數へられたが十年は五十萬噸を突破したとか又外國置籍の所謂變態輸入船も三十五萬噸といふ夥しい量に上つたとかいはれてゐる。これら船腹が本邦海運市場に登場する様になつたのも船腹縮減政策たる人爲的作用―船舶改善助成施設と外國船輸入特許制が著しく強化され、一應の効果を達成したにも拘らず依然として繼續されてゐるからであつて情勢の變化した海運現勢よりすれば其處に何等

かの轉回策が施されなければならぬ筈であることを如實に物語つてゐる。

世界海運は昭和八年を底として自來除々ながら回復の歩調を示してゐるとはいへ、それは過剩船腹整理といふ消極的作用を施してゐる爲めであつて、極端な排他的貿易政策によつて歪められてゐる現下の通商實情からすれば世界海運の活動分野は前途尙ほ樂觀を許す譯には行かないのである。この間にあつて本邦海運は他國海運に率先して合理化の洗禮を享け恐慌克服の第一歩を踏み出してゐるのである。即ち本邦海運は金輸出再禁止を一轉機として爲替低落にある外貨運賃採算の良好、貿易の躍進、軍需インフレの進展及び船舶改善助成施設等を基調とする過剩船腹の整理等幾多の積極的施設進展に連れて世界海運歸趨のまだ混沌たる昭和七年既に更生の一步を踏み出し、八、九年と異常の飛躍的發展を遂げることが出来た。特に昭和九年は船腹調節の跡が著しく改善され、輸出貿易の進展、軍需工業の滲透とともに頗る順調の足取りを示したので本邦海運は桁はずれの活況を呈したもので、其後この活況は内外から壓迫されて遂に積極的發展性を失ひ挫折的傾向を帯び始めたので今日としては本邦海運の無條件的樂觀を許さざる情勢を現はしてゐるものと解すべきである。

ロ、運賃市況の大勢

近海運賃氣配は年初全般的に軟調であつた。若松ノ京濱の石炭運賃は一圓七、八十錢から一圓五、六十錢に低落し、前年末に於ける高値より六十錢乃至八十錢の崩落をしてゐる。其後北洋材の出廻期、

北洋漁業出動期接近につれてこれら方面への轉出船の増加、石炭出廻りの輻輳等のために氣配は漸次好化して三月には若松ノ京濱の石炭は二圓二、三十錢、北洋材の初航運賃は百五十圓處が唱へられ、石炭、北洋材の大口商談を中心として稍々活況を呈したが遠洋不振に伴ふ大型船の近海歸航、老大な外國船の東洋市場殺到、北洋材の期待を裏切る出材不振等の軟材料の續出から市況は極度に萎縮して騰勢を持続することが出来なかつた。上半期末には若松ノ京濱の石炭運賃は一圓六十錢に低落し、北洋材運賃もアウトサイダーの安値蒐荷のお影で百三十圓以下を唱へるに至つた。

下半期の近海市況で北洋材の積取商談は例年に比して極めて不振で八月に入るも出廻りが著しく閑散であつたがこれに反して軍需工業の依然たる活況は石炭、セメント、鐵材及び礦石類等の動きが例年以上に旺盛化したのと、一時東洋市場に蝟集して本邦市場を壓迫してゐた多數外國船も新穀出廻期が接近したのと伊エ紛争の激化とで漸次歐洲へ歸航し近海市場は外船壓迫より脱することが出来、其れがために堅調を取り返し、若松ノ京濱の石炭運賃は九月に至つて二圓臺に反撥し、北洋材運賃も北洋同盟の統制よろしきを得て比較的安定を保つことが出来た。だが本邦近海市場に於ける主要荷動の大宗である北洋材は樺太廳の林政改革による出材制限の結果、近年出廻りが著減し特に十年度の南樺太總出材高は四百四十八萬石で九年度に比すれば二百萬石の減少であつて如何に出材量の不振であつたかが首肯出来よう。試みに南樺太出材量と配船數を示すと

昭和	年	配船隻數	出材量 (單位 千石)	
			最高	最低
昭	和 六 年	八七三	一〇、二八二	—
昭	和 七 年	八五六	一〇、一七二	—
昭	和 八 年	六五七	九、〇五六	—
昭	和 九 年	四七五	六、八三〇	—
昭	和 十 年	三六三	四、四八四	—

の如く、北海道材を加へても出廻高は五百六十萬石に過ぎないものであつたがこの出廻量の七十%は北洋同盟の統制下に輸送されて居り、同盟の發表によれば引受物を除いたトリップ取極めの平均運賃は左の如くである。

昭和	年	運賃 (單位 千石)
昭	和 八 年	一一一圓五〇錢
昭	和 九 年	一三八圓六〇錢
昭	和 十 年	一三九圓八〇錢

即ち出材量は減少してゐるが反對に運賃率は却つて上昇し、北洋同盟の統制による運賃の安定化が窺はれる譯である。

一方遠洋市況は各方面共穀物の海上移動不振の上に北米に於ける木材人夫及び油槽船員の罷業勃發の結果、極東向米材荷動きが一時杜絶するなぞ年初は香しくなかつた。其上外國船の東洋市場壓迫もあつて本邦不定期船の最も重要航路である大連/歐洲の大豆輸送の如きも二十志を割つて採算外とな

り、西貢米、佛領印度支那炭の如きも全く跡を絶ち、只太平洋航路の米材と濠洲小麥の積取とが見る可きものに過ぎなかつた。尤も重工業關係の殷盛は銑鐵、屑鐵の輸入に活況を示し輸送船腹の需要も相當消化されたことは注目すべきである。

二區方面は礪石、南洋材の輸送が主であつたが期待された南洋材は材價悪化のため豫想された輸入を見ずに終つてしまつた。新穀出廻期に當面して地中海の戰時氣分は痛く倫敦市場を刺戟し大連/歐洲の滿洲大豆運賃は八月に二十三、四志、十月に二十五、六志と反撥し、北米/日本の木材運賃も七弗臺の硬化を見せたが依然本邦船の歐洲方面配船は内地備船料高、及び戰時保險料の加重による採算難からとかく見送られ勝ちとならざるを得なかつた。

遠洋の不振に伴ふ大型船の近海歸航、外國船の東洋市場進出を特質とする十年の近海及び遠洋の主要運賃率を示せば次ぎの如くである。

昭和十年主要近海遠洋運賃 (單位 圓)

品名	三 月		六 月		九 月		十 二 月	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
若 松/京濱(石炭)	二・三〇	二・〇〇	一・七〇	一・五〇	二・三〇	一・七〇	一・七〇	一・六〇
大 連/横濱(豆粕)	〇・〇三	〇・〇二五	〇・〇四	〇・〇三五	—	—	〇・〇四	〇・〇三五
北 洋 材(丸太)	一四〇圓	一三五圓	一三五圓	一三五圓	一四〇圓	一三〇圓	—	—
北 米/日本(木材)	五弗五	五弗三	—	—	六弗五	五弗七	六弗五	六弗三

大 連／歐洲(大豆) 一九志 一六志 一六志 一六志 一六志 一六志 一六志 一六志 一六志 一六志
 プレート／歐洲(小麥) 一四志六 一四志 一六志三 一五志六 一八志 一六志六 一七志九 一七志三

世界海運を支配してゐる倫敦市場の不振はひいて本邦大型船の遠洋進出を全く阻止した。大西洋、太平洋を始めとして印度、濠洲方面も亦不振を免がれず本邦品は全面的に封鎖された觀があつた。之がために大型船は相當近海に割込んで或は大連で撫順炭、特産物を積取り或は一區の石炭を輸送し、或は臺灣、朝鮮等までも配船して中、小型船の地盤を脅威したことは事實であつた。遠洋市況が全く不況の連続となり、近海も亦大型船の跋扈に悩まされた外に本邦備船料市況の硬調から外國船の備船が四十萬噸から五十萬噸に達したのみならず倫敦市況に比較して極東市場が著しく好率であるため漸次各國船が東洋に進出して十年初春には極東市場に於てフリーとなる之等船腹は實に三十五萬噸の多きに上る状態であつた。これがために外國船の近海横行と壓迫とは本邦船の活動分野を痛く切崩した。其上所謂變態輸入船として外國置籍の船腹が約三十萬噸に及んで本邦近海に消化されてゐるにも拘らずその船腹需給の基調が破れないのであるのは實に近海荷動の旺盛を如實に物語るものであつてこの點は騰勢挫折の傾向を與へたといへ多少強味のあるところであつた。

ハ、備船市況の推移

遠洋市況の軟調による大型船の近海割込みに加るに外國船の備船が常時四十萬噸前後を示し、外國

置籍の變態輸入船の進出と相俟つて本邦備船料市場の成行は頗る憂慮される商狀を呈した。現に倫敦市場に於ては八千噸型が二志見當で引合はれたがそれは日本渡、日本返船で一圓八、九十錢前後であるから大手筋の一般外國船に手當する傾向は益々濃厚となつて本邦備船市況を著しく不振に導いてしまつた。斯くの如く外國備船の旺盛化したことは要するに本邦船に比較して遙に低率である爲めであるが、自發的に極東市場に進出して來たことは歐洲市場より東洋市況が格段の好調であつたがため、これは二ヶ年前大連／歐洲の滿洲大豆輸送に本邦船が歐洲方面に進出したのと同様の現象であつて、當時は低爲替を唯一の武器として本邦船の遠洋配船を促進せしめたものであつたが漸く低爲替の威力は鈍化して備船料高、運賃安の悲觀的商狀を呈するに至つた。第一次船舶改善助成施設を繞つて實施せられた船腹縮減政策は立案當時の海運情勢を全然變轉して居るに拘らず尙ほ人爲的工作が續行してゐるのである。情勢の變化に伴ひこれに並行的に適應した方策が實施されないのは伸張すべき市況を停頓せしめるのみである。

下半期に入るに及んで倫敦市況の稍々硬化するや東洋市場に自發的進出してゐた英、諸、希等の外國船は相次いで歐洲に歸航し、一方大手筋で備船中の外國船も東洋市況が世界的市況の水準へ頓落するに及んで期限到來と共に解約歸航して茲に今春來外國船の近海重壓は漸く緩和され其上地中海方面に於ける伊エ紛争の激化は益々その傾向を強め、本邦を中心とする備船料市況も硬化し、東洋市場は漸く外國船の跳梁を脱することが出來た。斯くして攪亂された備船市況は安定的商狀を得た譯である

が本邦の如く近海船腹の需要に發展性が多分に存してゐる特殊的環境を持續してゐる限り備船市況の硬化するのは當然である。この本邦備船料市況硬化の一支柱となつてゐるのは船腹縮減策が依然として強化されてゐる爲めである。小、中型の船舶を整理した第一次船舶改善助成施設に端を發し、次いで軍需インフレの本格的滲透に基く近海荷動の激増、輸出入貿易の殷盛に伴ふ定航化の船腹消化等が要因となつて備船市況は益々好轉して關東震災以來の高値を呼び、小、中型船の備船料硬化は大型船に影響して著しく高率化するに至つた。

試みに大連ノ歐洲の滿洲大豆の輸送についても二十五志程度では往航四回前後の採算となるが復航の蒐荷如何で結局ベースは悪化して二圓五十錢を超え得ることは不可能とされてゐる。即ち復航をスエズ經由のウエールスノポルトセツドの石炭、紅海ノ日本の鹽乃至燐礦石を積取つても前者の十志、後者の十一志見當では一回前後の採算であつて、往復航平均二圓二十錢内外となり、大型船のベースが二圓二十錢前後を呼ばれてゐる市況では不定期船の對歐配船も何等妙味のないものとなる譯である。或は南阿經由の印度向石炭、南洋より内地向の鐵礦石、大西洋に廻つてガルフの燐鐵石、屑鐵、棉花にしても尙ほ一圓以上には廻らず、米材運賃の七弗を以てしても全般的採算は二圓内外を示す程度とされてゐる。備船料市況が世界市場の水準に對して高率化すれば外國船の東洋進出を誘發することは既に苦杯を喫したところであり、その不當の高率化することは船主對備船者の懸隔を益々擴大させる許りでなく外國船の跳梁を促進し本邦船の對外活動を減殺し徒に凸凹景氣の對立を激化させる許

りである。昭和十年に於ける本邦中心の備船市況を示せば次の通りである。

昭和十年備船料市況 (單位圓)

	三月		六月		九月		十二月	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
一千噸型	四・五〇	四・四〇	四・一〇	三・九〇	四・三〇	四・〇〇	四・一〇	四・〇〇
三千噸型	三・八〇	三・七〇	三・七〇	三・六〇	三・九〇	三・七〇	三・八〇	三・七〇
五千噸型	三・五〇	三・四〇	三・六〇	三・五〇	三・九〇	三・七〇	三・八〇	三・五〇
七千噸型	三・二〇	三・一〇	三・三〇	三・二〇	三・六〇	三・四〇	三・五〇	三・二〇
九千噸型	二・九〇	二・八〇	三・一〇	三・〇〇	三・四〇	三・二〇	三・三〇	三・〇〇

世界繫船の漸減、世界貿易の回復傾向、海運の好調を裏書きする世界造船景氣の昂揚、其他の諸現象は世界海運の將來性に樂觀的基礎を與へるかの報道が屢々傳へられるがこれらの諸現象が世界海運にとつて好材料たるは勿論であるが直に世界及び本邦海運の將來性を著しく樂觀するには可成り危険である。これらの世界海運背景として本邦海運界の過去三ヶ年繁榮を維持した跡を見るに、最初の海運景氣は遠洋からであつた。輸出貿易に於けるが如く、原料安の製品高といふ景氣様相を充分に備へてゐた。即ち不況時代の低率備船料で手當した船腹を多數擁してゐた處へ再禁止に伴ふ對外爲替の低落、外貨建運賃の邦價換算差益が有利となつて遠洋活動は急激の活況を呈するに至つた。原料安、製品高の現象は單に遠洋方面のみでなく近海市場も船腹需要側よりすれば貿易量の増加と近海荷動の急

速なる増加があり、船腹供給側よりすれば船舶改善助成施設に基く近海適船たる中、小型船腹の減少したことから海運景氣の昂進状態も規模に於て遠洋に優るとも劣りはしなかつた。だが海運景氣は遠洋よりとの景氣昂進は原料高即備船料高によつて既に八年下半期末には挫折してしまつたことは周知の事實である。九年上半年末前後から本邦海運景氣の昂進は近海よりと唱へられるに至つた。即ち景氣昂進は遠洋より近海景氣へと轉じて行つた。これは近海向船腹の整理された處へ軍需インフレ其他に基く近海荷動の旺盛化した證左であつて近海市場には全く船腹需給の均衡が破れて供給減となつて來たからである。

九年中遠洋不振、近海好調といふ情勢であつたがこの好調も十年に入るに及んで外國船の極東市場進出のために完全に破られてしまつた。即ち十年の近海市場は過剰生産が顯現された譯であつた。一般産業部門が九年年下期より十年上期末にかけてインフレ景氣の解消過程にあつた如く本邦海運も其の例外をなすものではなかつた。蓋し近海の船腹吸収力は既に飽和點に近いものと見られてゐるから大型船の遠洋配船が積極的に期待がかけられないとすれば近海市場の船腹需給は甚しく安定性を缺いてゐることになり、市況の積極的發展性はないものと見て差支へない。

大型船の近海割込、外國船の近海蝟集、變態輸入船の横行を基調としての配船量算定は當然無理のことであるが近海の荷動は依然たる旺盛の一途を辿り五%乃至十%の出荷増でセメント、南洋材、礫石、雜貨等は一樣に十%前後の荷動増を來たしてゐるのであるが市況の軟化は結局船腹供給方面より

破られて反撥的昂騰の餘地が全然なかつた譯である。前年と比較した社外船の配船量を参考のために掲げると次ぎの如くである。

遠洋配船は九年に比較して十五%から三十%程度萎縮してゐる。この不振時に勃發した九月の伊エ紛争は急展開で、秋景氣昂進の第一歩となり、外國船の壓迫も徐々に解消されて秋景氣培養の餘地を與へることになつた。だが海運景氣の昂進は低爲替といふ支柱を喪失してゐるのだから好轉力は鈍化したまゝ、十一年へと越年したのであつた。

昭和十年社外船配船状態 (各月中旬)

(單位 千重量噸)

区域	三月		六月		九月		十二月	
	隻數	重量噸	隻數	重量噸	隻數	重量噸	隻數	重量噸
歐洲	一一	一〇七	五	四六	—	—	九	八三
南米・南阿	二	二六	一	二〇	六	五〇	二	二七
大洋	二六	二四一	三	三〇	三	三〇	二	二〇
太平洋	四	四六	三	三〇	二六	二七	四	四四
濠洲	三	三三	〇	一三	一	一七	〇	一五
印度	三	一八	一	二六	一	一〇	一	一五
近海二區	五	三五	五	三〇	四	四一	六	四七
近海一區	二八	一三二	四	三三	〇	〇〇	二	二九

其	他	四〇	三二	三三	一七	三三	一〇	三三
計		五八	一、〇〇〇	三三〇	三、一七	三三	三、三	三、三

伊エ紛争の齎らした市場昂進は平靜化するに連れて本邦備船料市況も軟化し海運秋景氣も短く年初同様の不振裡に越年したが積極的遠洋配船の増轉しない限り近海荷動は依然たる旺盛を辿るとしても船腹需給の基調が好轉しない限り市況の冴えないのは當然の成行きである。

二、對外爲替の低落と遠洋稼航

最近本邦海運政策の轉換期に直面して幾多國策的論議が擡頭し、各種の調査研究が發表されてゐることは海運政策の樹立上、悦ばしいことであるが本邦海運の對外活動力の脆弱性を解明するに際して當然言及しなければならぬ重要性を帯びてゐる對外爲替の低落に關して一様に言及してゐない。海事審議會の討論に於ても特に其の觀が深かつた。一例を挙げると、本邦船舶と英國船舶の運航コスト計算を比較するに當つて本邦船價の割高、融資制度の缺陷乃至金利の高率なる諸點には觸れてゐるが現下に於ける對外爲替の低落に基く外貨建運賃の爲替換算差益に關して全然考慮してゐない觀がある。本邦船は低爲替を武器として其の掩護下に對外活動力を強化してゐるといふ爲替重要性に觸れないで本邦海運の對外活動の實相を傳へやうとすることは無理な話である。

對外爲替相場の低落が本邦海運の遠洋稼航に及ぼす影響は種々あるが其の中で最も重要性を有する

ものは外貨建運賃に對する効果的作用如何である。昭和八年末以後、九年、十年には邦貨は國際收支悪化のため幾分軟調の傾向を免れなかつたが概して前年に比して一層安定化を見るに至り、海外材料に因つて小浮動を繰返すに過ぎない現状であつた。斯く爲替相場の變動は本邦海運の對外貨建運賃の變動に強力なる影響を及ぼすのであるが、世界海上運賃は國際海上貿易の著しき萎縮に伴つて激減し、一方世界海運の輸送船舶は依然として過剩状態であつたので運賃は低率化して止まるところを知らなかつた。落潮滔々たる運賃率と對外爲替相場の適用された邦貨換算の關係を英國海運集會所作製の運賃指數を利用して解明して見よう。因に英國海運集會所の運賃指數は其の基準年數を一九二〇年としてゐるが茲には前年度發行の本年報に於て試みた如く該原指數は一九二七—三一年の五ヶ年平均を基準とする指數に換算したものである。

英國海運集會所不定期船運賃指數と爲替低落の影響

一九三二年	A、換算指數		B、爲替指數にて處理したる本邦船の享ける指數		C、「B」指數の修正指數	
	三月	六月	三月	六月	三月	六月
一九三三年	三月	六月	三月	六月	三月	六月
	七五	八四	一二五	一三八	一〇九	一二〇

一九三四年	三月	六月	九月	十二月	一九三五年	三月	六月	九月	十二月	一九三六年	三月	六月	九月	十二月
七二	七一	八八	七八	七三	八八	八〇	七五	七六	八〇	八一	八九	八九	八〇	八二
一一一	一一一	一〇七	一三一	一三六	一〇九	一三一	一一五	一一六	一二二	一二二	一二四	一三六	一三六	一三六

即ち各指數を當月の平價に對する爲替指數を以て處理したものであるが、爲替の低落は換算差益を擴大する反面、遠洋稼航のランニング・コストに反作用して爲替換算差益は或る程度に減殺される。此の減殺率は差益額の約三十%と假定して其の差損額を控除したのが「C」欄の修正指數である。本邦海運の不況を克服するために實施した第一次船舶改善助成施設の直前たる昭和七年九月と八年、九年を經過した十年との情勢を比較すると海上運賃そのものにはあまり變化がないが邦貨換算差益の如何に効果的であるかを雄辯に物語つてゐる。

本邦海運の對外活動が再禁止を一轉期として本格的に對外活動を旺盛化することの出來たのは一に爲替の低落が唯一の武器となつたもので、本邦輸出貿易があらゆる排他的障礙を乗り越えて躍進の一路を辿つた如く本邦船舶が列國の自國貨自國船主義に抗して國際海運戰場裡に活躍することが出來たが、この低爲替の威力は一般國民の生活上には頗る脅威的反作用を及ぼし海運企業の立場からは保護的政策の最も顯著な効果のあることが看取されるのである。従つて本邦海運の現勢は各種の觀點より檢して全く低爲替の掩護下に於てのみ存立し得る状態であつて、爲替が平價に恢復すると忽ち對外活動力は封じられてしまふ危険性を多分に包藏してゐるのである。海運國策を樹立する爲めには爲替の平價時に於ても尙ほ充分な對外競争力を維持し得る海運を建設すべきが緊急事である。

ホ、本邦海運の景氣指標

遠洋稼航の本邦船舶は爲替低落を温床として本邦海運景氣好轉の一支柱となるが翻つて近海市況は如何と案ずるに金輸出再禁止を轉期として慢性的海運不況を蟬脱することが出來た。景氣好轉の支柱となつたものは既に述べた如く第一次船舶改善助成施設を繞る船腹縮減政策と時局匡救を加味したインフレ景氣の本格化に伴ふ近海荷動の増加に基因してゐるが其の間低爲替に踊る輸出貿易の殷盛、軍需工業の躍進等が間接的に拍車をかけた。茲に近海運賃市況の代表的なものである若松ノ京濱の石炭運賃、樺太ノ内地の北洋材運賃市況の推

移を前記遠洋運賃指數換算作用と同様の方法を以て作製したものを掲げて遠洋市況と對比して見よ。

本邦近海運賃指數 (昭和二年—七年の五ヶ年の平均を一〇〇とす)

昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年	若ノ濱(石炭)		北洋村		遠洋	
				北洋村	遠洋	北洋村	遠洋		
三月	三月	三月	三月	八九	九四	九四	九六		
六月	六月	六月	六月	六一	六三	六三	八四		
九月	九月	九月	九月	七〇	七五	七五	一〇九		
十二月	十二月	十二月	十二月	一四七	一三二	一三二	一二〇		
三月	三月	三月	三月	九〇	一〇三	一〇三	一〇九		
六月	六月	六月	六月	一一九	一〇五	一〇五	一一一		
九月	九月	九月	九月	一一九	八五	八五	一〇七		
十二月	十二月	十二月	十二月	一六二	一三三	一三三	一三一		
三月	三月	三月	三月	一七二	一二三	一二三	一一六		
六月	六月	六月	六月	一六四	一三四	一三四	一〇九		
九月	九月	九月	九月	一七二	一三四	一三四	一三一		
十二月	十二月	十二月	十二月	一九三	一三四	一三四	一二二		
三月	三月	三月	三月	一七三	一三四	一三四	一一五		
六月	六月	六月	六月	一四四	一二八	一二八	一一六		
九月	九月	九月	九月	一七五	一三〇	一三〇	一二二		

昭和十一年 十二月 一六八 一三四
 三月 一七五 一二七 一三六

右の如く軍需インフレの慈雨に培養された特殊重工業部門の好況は近海荷動を旺盛にしたがこれが輸送上適船たる中、小型船腹は第一次船舶改善助成施設の実施に伴つて漸次整理解體された結果運賃率は一段と好調を示した。八、九年を通じて近海運賃市況の躍騰は著しきものがあり、關東震災以來の好況を見たことは前表に明かであるがこれは要するに近海船腹の需要に對して供給が不充分であるからである。夏季の大量荷動たる北洋材の出荷が累年漸減傾向にあるのを除けば、石炭、セメント、鑛石、鋼材、雜貨等の動きは著しく増大し、近海一、二區を通じて七年以降累進的の盛況振りを呈した。だがこの荷動の増加と適船薄の現象は九年末より十年を通じて外國船の大量備入及び外國置籍の變態輸入船舶の近海進出によつて甚しく悪化されて八年以來の好調が茲に騰勢挫折するに至つた。

ところで以上の如き市況を繞つて船腹需給の基調は如何と謂ふに、外國船の大量備入、變態輸入船舶の進出等の事象があるので本邦船のみの配船量を以て論ずることは妥當性を缺くが前述した本邦社外船の配船量を基礎にして船腹収状状態を掲げて見よう。即ち配船表中の配船區域を遠洋、近海二區、近海一區、其の他に分類して運賃指數の場合同様、昭和二—六年の各月を平均したものを基準として各年各月の推移を觀察したものである。

本邦社外船配船量指數 (昭和二十六年を基準とす)
 | 各年各月の比較 |

A、遠洋		B、近海二區		C、近海一區	
昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年
三月	九九	一〇一	一〇三	九三	一〇一
六月	一〇一	一〇六	九三	一〇〇	一〇八
九月	一二三	一〇六	一一一	九五	一〇八
十二月	一二一	一〇七	九五	八七	八八
三月	八八	八八	八三	八三	八八
六月	一一七	一一二	一一二	一一四	九二
九月	一〇八	一八九	二〇三	一五四	八〇
十二月	八一	一四一	一三七	一二三	八九
三月	九二	一〇六	一一二	七〇	九六
六月	八七	八七	一六二	八六	八八
九月	六一	九一	一八四	七〇	七八
十二月	九二	一〇八	一三二	七〇	八一

D、繋船・其他

昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年
三月	一〇〇	八九	四八	六一
六月	一三〇	九二	八四	五五
九月	一四七	九四	九七	四八
十二月	七一	六三	四九	三六
三月	九二	一〇六	一一二	一一二
六月	八五	八七	八七	八七
九月	六八	九一	九一	九一
十二月	九二	一〇八	一〇八	一〇八

E、總船腹

昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年
三月	一〇一	九九	九七	九三
六月	一〇〇	九八	九五	九三
九月	一〇〇	九七	九五	九五
十二月	九九	九六	九四	九五
三月	九六	九六	九六	九六
六月	九六	九六	九六	九六
九月	九六	九六	九六	九六
十二月	九六	九六	九六	九六

即ち總船腹量全體としては僅少の減退であるが船舶改善助成施設、自力建造に新船の建造が相當行はれたので輸送力の能率に於ては大差ないものと見て差支ない。これを配船區域別から觀察するに、

遠洋は再禁止を轉機として活況を呈してゐるが十年には不振が目立つ。近海二區の盛況は南洋、海峽植民地方面に於ける本邦輸出入貿易の殷盛と共に配船量を激増したが十年に入るに及んで急激に減少してゐる。これは本邦船の配船減を見たが外國備船の配船が代位してゐるものであつて本質的に九年の盛況同様の船腹消化があつたことは當然である。翻つて近海一區を見るに七年以降累年減少して船腹需給の均衡は是正されてゐたがこれも十年に入るに及んで外國船及び變態輸入船の進出と遠洋不振に伴ふ大型船の割込等があつて過去三ヶ年と比較して膨脹してゐる。繫船・其他は依然として少量であることは船腹需要の旺盛化を雄辯に物語るものに外ならない。以上の配船量の動きは直ちに備船市況に反映してゐることは當然である。

對外爲替の低落につれ遠洋配船の採算良化に關して留意すべきはランニング・コストの反騰作用であり、備船料の硬化することは必然的現象である。遠洋に配船するオペレーターは主として備船主義を採るのが通則であるが備船料の昂騰はオペレーターの遠洋配船に致命的桎梏たるは云ふまでもない。然も備船市況は背壓的作用を及ぼす繫船の存在が皆無と云ふ好條件に恵まれてゐるのであるから運賃市況の好調に刺戟されて備船市況が硬化するのは當然である。

茲に本邦備船料市況の推移を小型、中型、大型の三種に分けて運賃市況と如何なる關係にあるかを一瞥しよう。指數作製方法は上記諸指數と同様である。

本邦備船料指數 (昭和二一六年の平均を基準とす)

昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年
三月	三月	三月	三月	三月
六月	六月	六月	六月	六月
九月	九月	九月	九月	九月
十二月	十二月	十二月	十二月	十二月
小型船	八七	五八	七三	一〇〇
中型船	九四	五九	七六	一〇〇
大型船	九九	六五	七五	一〇〇
三月	一〇八	一〇〇	一〇〇	一〇〇
六月	一〇八	一〇〇	一〇〇	一〇〇
九月	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三
十二月	一二九	一二九	一二九	一二九
三月	一四八	一四八	一四八	一四八
六月	一三四	一三四	一三四	一三四
九月	一四五	一四五	一四五	一四五
十二月	一四五	一四五	一四五	一四五
三月	一五六	一五六	一五六	一五六
六月	一四二	一四二	一四二	一四二
九月	一五九	一五九	一五九	一五九
十二月	一四八	一四八	一四八	一四八
三月	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇

右の如く昭和七年九月以降小、中、大型の三者共に漸進的に昂騰してゐるが運賃率の推移を観察するために小型船備船料對若ノ濱石炭運賃、中型船備船料對北洋材運賃、大型船備船料對遠洋運賃を比

較して見ると次ぎの如き相關關係が明かとなる。

船型別より看たる運賃及備船料

船型	項目	昭和七年		昭和八年		昭和九年		昭和十年		昭和十一年	
		三月	六月	三月	六月	三月	六月	三月	六月	三月	六月
小型船	運賃	八九	六一	九〇	七〇	一七二	一六二	一六四	一七二	一六八	一七五
	備船料	八七	五八	一〇八	七三	一四八	一二九	一三四	一四八	一四八	一五〇
中型船	運賃	九四	六三	一〇三	七五	一二三	八五	一三四	一四三	一五三	一二七
	備船料	九四	五九	一一五	七六	一四三	一一一	一四八	一四三	一四七	一四七
大型船	運賃	九六	八四	一〇九	一〇九	一一六	一〇七	一〇九	一一六	一二四	一三六
	備船料	九九	六五	一三〇	七五	一四五	一一二	一二六	一四五	一二九	一三八

即ち小型船に於ては運賃の昂進率は備船料を上廻つてゐるが中型船及び大型船に於ては然らず又これを採算的に觀察すると小型船自營船主が最良の條件に恵まれ、中型、大型の船主は貸船主義に出るのが採算的に有利であるが中型、大型を備船して配船するオペレーターは最悪の條件の下にあると謂ふことが出来る。遠洋不定期船運賃が寧ろ不利な傾向を帯びてゐる現状に於ては爲替の低落を唯一の武器として配船する當事者にとつては備船料の躍騰は全く遠洋稼航が枯枯たらざるを得ないのである。其の結果として社外船主の定航化促進と外國船の大量備入とが利用される傾向を益々濃厚化して市況の一部を不安定化したことも副産的現象として注目すべきことである。

茲に英國海運集會所の備船料指數を邦貨に換算してこれを本邦備船料指數と對比して見ると外國船備船の採算的有利なること、又それが一種の牽制的工作として本邦備船料市況の昂騰に背壓的作用をなすことが明瞭となる。

英國備船料指數と邦貨換算指數

年	月	英國備船料	邦貨換算	本邦大型船備船料
昭和七年	三月	五七	六六	九五
	六月	一	一	六五
				一六五

昭和十一年	三月	七月	十一月	三月	七月	十一月	三月	七月	十一月
昭和十一年	三月	七月	十一月	三月	七月	十一月	三月	七月	十一月
昭和十一年	三月	七月	十一月	三月	七月	十一月	三月	七月	十一月
昭和十一年	三月	七月	十一月	三月	七月	十一月	三月	七月	十一月
昭和十一年	三月	七月	十一月	三月	七月	十一月	三月	七月	十一月
昭和十一年	三月	七月	十一月	三月	七月	十一月	三月	七月	十一月
昭和十一年	三月	七月	十一月	三月	七月	十一月	三月	七月	十一月
昭和十一年	三月	七月	十一月	三月	七月	十一月	三月	七月	十一月
昭和十一年	三月	七月	十一月	三月	七月	十一月	三月	七月	十一月
昭和十一年	三月	七月	十一月	三月	七月	十一月	三月	七月	十一月

斯くの如く英國に於ては一般卸賣物價は未だ平均水準に到達してゐないが運賃及び備船料と同一の歩調を辿つて徐々に恢復してゐるが本邦に於ては卸賣物價の動きに比して運賃及備船料の躍騰は異常な高率である。これは金輸出再禁止を轉機とする爲替の低落、財政インフレの進行、國內産業の勃興、對外貿易の躍進等幾多の好材料に恵まれた結果であつたが本邦中心の極東市場硬化は漸く不況に悩む外國船の流入を促し殊に九年より十年にかけての外國船の蝟集は本邦市況を頗る悪化させた。かく本邦海運は打續く經濟事情の好調に順調の推移を辿つてゐるが最近の船腹消化力は昭和六、七年の最悪期に比して約百萬噸に近い増加を來たしてゐるのであるが對外輸出入の圓滑なる遂行と運賃收入による國際貸借の改善が本邦海運の擔ふ二大使命である以上、海運政策の根本方策を對外活動力の強化と謂ふ點に置くことは、世界各國の貿易戰が深刻化し自國船強化がいよゝゝ激甚なる現下の情勢からして官民一致して努力すべき緊急事である。

七、本邦海運の現有勢力

イ、船腹需要の増大傾向

本邦海運の船腹需要振りは依然たる膨脹傾向にある。是を逓信省調査の船舶統計より總噸數五百噸以上の船舶を抽出すると次ぎの如き推移を示してゐる。

總噸數五〇〇噸以上の全日本船舶 (逓信省調査)

大正二年末	六二一	一、五五〇、九五九
大正九年末	一、一四九	二、九六七、四五四
大正十五年末	一、二四七	三、七九三、二〇三
昭和四年末	一、二七四	三、九九七、七四六
昭和七年末	一、二〇八	四、〇四三、二〇三
昭和八年末	一、一六四	三、九四四、三六一
昭和九年末	一、一四一	三、八九九、五七八
昭和十年末	一、一五一	三、九一〇、四九三

即ち歐洲大戰の直前と大戰中に建造された船舶の竣工期たる大正九年及び其の後の後の推移を見るに隻

數に於ては二倍弱の膨脹力であるが噸數に於ては三倍近くの増加率を示してゐる。昭和七年を頂上にして八、九年と減少したが十年には再び増加に出でてゐるのは第一次船舶改善助成施設の古船解體、新船建造の實施に基くものであつて、この間外國船舶輸入が禁止的になつてゐる現状からして十年に於ける船腹増加は國産船舶である點に特色がある。是を船型別に小型船(五百噸以上二千噸)中型船(二千噸以上五千噸)、大型船(五千噸以上)に分類して大戰直前とその直後及び最近の状態を見ると次ぎの如くなつてゐる。

船型別より見たる本邦船舶 (總噸數五百噸以上)

年次	小型船		中型船		大型船	
	隻數	總噸數	隻數	總噸數	隻數	總噸數
大正二年末	二八五	三二六	二七七	八三八	五九	四〇七
大正九年末	六〇	六三三	三二二	一,〇八一	一九七	一,一七一
大正十五年末	五二七	五六六	四六二	一,四八二	三六八	一,七四四
昭和九年	四三八	四六六	四〇二	一,二八八	三二	二,一四三
昭和十年	四九	四七	四〇二	一,一三九	三〇	二,一三三

(單位千噸)

歐洲大戰直前の大正二年末には大型船は總數の二割六分を占めてゐたに過ぎなかつたが、其後着々増加して昭和九、十年には五割餘に達した。これに反して小型船腹の膨脹したのは大戰直後が頂上で

其後は漸減傾向を示してゐるが十年には逆轉して増大を示した。これは中型船にも同様の傾向が窺はれる。即ち船腹需要の均衡が是正された上に近海荷動の激増に刺戟され近海市況の好調を招來した結果と見るべきである。しかし乍ら全般的船型の大型化への傾向は本邦海運の活動區域が近海より遠洋に伸展した證左であつて特に船舶改善助成施設が總噸數一千噸以上の老齡船を解體して、四千噸以上の優秀船を建造することを條件としたことによるのである。本邦海運は戰後反動期に於ける列國海運の船舶合理化による整理船を輸入して大型化の膨脹に拍車をかけたが、一方量的増加に貢献した點は大なるものがあるも質的改善に留意しなかつたのはけだしやむを得ぬ處であらう。

ロ、海の軍—マリン・トラックの活躍

本邦近海荷動の旺盛化に伴つて昭和八年以來所謂「マリン・トラック」と稱せられる小型快速船の建造熱が頓に高まり、船舶改善助成施設による恩恵を全く味はなかつた中、小造船所はこの種新造注文によつて著しく業態が好轉するに至つた。何故この種小型マリン・トラックの建造が旺盛になつたかと謂ふと、(一)普通小型貨物船は金融關係から群小船主に新造困難であること、(二)船舶職員規定の適用が緩慢であるので、乗組員の關係からして運航費が採算的に有利であること、(三)船舶改善施設の進捗と共に小、中型の近海適船が整理せられたところにインフレの本格的浸透に刺戟されて近海荷動、特にこの種小型船の手頃である本來の性能に適した特殊貨物の出廻りが増加した等の點にある。

何れにしても小型快速船の建造が盛になつたことは茲兩三年本邦造船界の一特色であつてこれが近海進出のために朝鮮米積取にまで活躍するに至り業界にたゞならぬ波紋を投げつけるに至つた。

遞信省調査の造船統計中より九年、十年に於けるマリン・トラックと見做される小型船のみを抽出して見ると實に九年には五十四隻、一萬六千噸餘に及びその中二、三を除けばマリン・トラックであつて、これ以外に帆船として新に建造された小型船は九十六隻、一萬二千噸及び、帆船と稱するも補助機關附が大部を占めてゐるから準マリン・トラックの性能を有するものであり既往に於ける小型汽船なる總噸數五百噸乃至一千噸型の活動範圍は著しく蠶食された。このマリン・トラック建造の殷盛は十年へも持越され、十年中には六十五隻、一萬八千七百噸に及び、補助機關附帆船は百〇三隻、一萬四千五百噸に達し前々年來の洪水的出現を繰返す盛況を示したが流石に飽和點に達したのか、一面小型船の市場氾濫に伴ふ蒐荷競争も激甚となつて運賃採算を低下せしめたことなども原因してこの種小型船の新造計畫は下半期に及んで著しく下火となつたことは造船統計にも見る處で十年一月初めに於て建造中の所謂マリン・トラックに屬する小型船は二十九隻、七千二百二十噸を算したが其の後の推移は

	隻數	總噸數		隻數	總噸數
昭和十年二月末	二七	七、一二二	昭和十年八月末	二〇	四、四〇〇
四月末	二七	七、二五〇	十月末	一七	三、七三〇
六月末	二六	六、三九三	十二月末	一七	四、〇六六

の如く、補助機關附帆船の二四隻、三千二百噸（十二月末）を含めても前々年來の殷盛さを失つてゐる。

マリン・トラックの市場氾濫が生んだ一つの重大な事實は鮮米積取をめぐる鮮航同盟會對荷主の紛争である。従來、強固なる統制下に内地向け輸送量の大部分に當る八百萬石以上を積取つてゐたブル制の鮮航會にとつてマリン・トラックの進出は正に脅威であつた。鮮航會と穀聯の夏場運賃更改問題が決裂したのもこれがためであつた。鮮米荷主側は小型船の低率運賃を利用して鮮航會に運賃引下げを要求したのであるが同盟がこれを一蹴するや極力盟外船及び小型船を支持して兩者の抗争を激化し遂に同盟は五月一日大中の運賃引下げを斷行せざるを得ざる情勢に立至つた。しかもこの大中引下げも兩者の尖鋭化した關係を緩和すること能はず、穀聯側は同盟船不積を申合す強硬態度に出で、事態は更に同盟内部の紛糾へと發展し、飯野、尼崎の同盟脱退となり、かくて八月一日に鮮航會はブルの共同計算機能を停止して自由積取配船を開始するに至り強固を誇つてゐたブル制も崩壊状態を招くに至つた。従つて運賃も三十圓臺にまで崩落して混亂状態を現出し多年に亘る運賃同盟として存在價值を認められてゐた鮮航同盟會も荷主に對して不統制を暴露し利害問題の錯綜、紛糾が如何に統制に困難であるかを如實に物語つてゐるが、これは晴天の霹靂の如く出現したマリン・トラックのアウト・サイダー的活躍が生んだ運賃切崩し工作に外ならないのである。

ハ、航洋商船隊の現勢

ロイド・レヂスターの世界船舶統計の船齡別表は列國海運力の優劣、航權維持力の強弱を明かに指示してゐる。一九三五年六月末現在の調査に依れば本邦海運は依然として世界第三位の海運國たるの地位を確保してゐることに變りはないがこれを質的見地から或は航洋商船隊と謂ふ建前から觀測すると列國海運國に比して甚しく遜色のあることが看取せられるのである。

世界船舶（汽船及機船）（ロイド・レヂスター一九三五年六月末）

（單位 千總噸）

國	百噸以上の船舶		千噸以上の船舶	
	隻數	總噸數	隻數	總噸數
英國	六、九九八	一七、二九八	三、〇八五	一六、〇三七
米國	二、五五三	九、六六五	一、七九九	九、四〇四
日本	二、一四六	四、〇八六	九二六	三、七三三
日逸	一、八五八	三、九六七	九七二	三、六八七
佛國	二、〇七〇	三、六九三	七〇六	三、二六一
伊太	一、三八二	二、九八九	六〇〇	二、七六二
和蘭	一、〇四一	二、八三八	五六〇	二、六七三
全世界	二九、〇七一	六三、七二七	一三、七三九	五八、八三三

即ち全世界の總噸數百噸以上の汽船及びモーター船は三五年六月末に於て隻數二九、〇七一隻、總噸數六三、七二七千噸を算し、其の中英本國は約二十七%、米國（大湖船を除く）は十六%を占め、本國は僅か六%の割合で第三位を堅持してゐる。海運の祖國大英帝國も今を去る四十五年前世界總船舶が二千萬噸臺の時代には其の四十八%も占有して世界の海洋をユニオン・ヂヤツクで處狭しと活躍したものであつたが其後獨逸海運の勃興、歐洲大戰時に米國の躍進、後進日本の擡頭と續いて起る海運興亡の波瀾があつて今や往年の優勢率を見ることが出来なくなつた。

其の間本邦海運は着々と陣容を整備し量的には驚異的發展をなし、且つ遅滞きながら船舶合理化運動の仲間入をして質的改善を自途とした船舶改善助成施設の実施を見るに至り、特に航洋商船隊の充實に専念した跡に見る可き効果があつたことは周知の事實であつた。然し乍ら前表に示す百噸以上、或は千噸以上の船舶と謂ひ平水航路より遠洋航路に亘る全般的の船舶が網羅されたものであり、従つて世界的檣舞臺で相互に角逐する國際海運戰の花形船舶の優劣を觀察するには不適當である。凡そ世界海運戰に於て列國海運が鎬を削るが如き爭覇戰を演ずる船舶は大型船、即ち大體總噸數四千噸以上の航洋船であるから其れを抽出して列國別に見ると次ぎの如き全貌を示してゐる。

世界航洋商船隊（總噸數四千噸以上の船舶）

（單位 千噸）

國	一九三五年		一九三四年	
	隻數	總噸數	隻數	總噸數
英國	一、九二一	一三、五一〇	一、九五五	一三、七一一

米	諸	日	獨	伊	佛	和	全
國	威	本	逸	太	國	蘭	世
國	國	國	國	國	國	國	界
一、二一〇	四一二	四〇六	三一三	三〇六	二六一	二四一	六、三九〇
七、九七六	二、六〇七	二、五五七	二、四三七	二、一二三	一、九九五	一、七五六	四二、八六二
一、二五五	四〇九	四〇二	三一七	三〇九	二九八	二四三	六、四五九
八、〇六五	二、五六一	二、五四七	二、四一一	二、一三八	二、二一二	一、七六四	四三、一五一

一七六

國際商戰場裡に進出して國際貸借の上に貿易外收入を齎らして大いなる功績を擧げ得る能力を具備した大型商船隊は概して最近の海運不況が反映してか減少しつつあり、諸、日、獨を除いて列國の保有量は前年に比して一様に退歩を示してゐる。この航洋商船隊の觀點からすると本邦は世界第四位に顛落するのである。しかし乍ら大型船と稱しても新鋭優秀船も老齡船も一緒にしたもので老齡船が國際海運戰に進出して列國の新鋭船と太刀打ちが出来るものではない。この見地から國際海運戰に於ける落伍者とも謂ふ可き老齡船即ち船齡二十五年以上の船舶を除外した列國の中堅大型船を抽出すると次の如くなる。

老齡船を除いた世界航洋商船隊 (單位 千噸)

英	米	諸	獨	日	佛	伊	和	全
國	國	威	逸	本	國	太	蘭	世
國	國	國	國	國	國	國	國	界
一、八四五	一、一四八	三九一	二九六	三五四	二四七	二五九	二二三	五、六四八
一、二、九五一	七、五五一	二、四六七	二、三四五	二、二七〇	一、九〇三	一、八七四	一、六九〇	三八、五三九
一、八八四	一、一六四	三八二	二九九	三四四	二七五	二六〇	二三六	五、七二四
一、三、一八三	七、六二五	二、三九一	二、三一五	二、二二二	二、〇七〇	一、八八一	一、七一一	三八、八九六

一九三五年

一九三四年

茲に於て本邦海運は第五位に顛落してゐる。小型船を含めた保有量よりすれば英、米に次ぎ第三位を持つるが是を航洋商船隊のみよりすれば第四位となり、更に其中より老齡船を除外すると第五位となり、諸威は第三位、獨逸が第四位を占めてゐる。諸、日、獨を除き列國の保有量はこゝにも一様に前年に比して減少してゐるが、特に本邦の如きは船舶改善助成施設の実施條件が中、小型船を解體して大型船を建造するにあつたから航洋商船隊の量的減少を防止することが出来たがこれを列國に比較すれば依然劣位にあり、將に展開されんとする國際海運戰の尖鋭化を見るときに當り、質的改善のみに捉はれて量的増大の方策を等閑に附して居る感がするがこの際大型航洋船の充實は益々重要性を

示唆するものである。

次に航洋商船隊中新鋭優秀船と目される進水後十年以内の船舶は列國が國際海運戰に對處せんとするために不斷の補充を行つて對外競争力の培養に専念してゐるところが明かになる。其れを抽出すると次ぎの如くである。

世界新鋭航洋商船隊 (單位 千噸)

國名	一九三五年		一九三四年	
	隻數	總噸數	隻數	總噸數
英國	七一六	四、九二五	七九二	五、三七二
諾威	二四〇	一、六一〇	二四四	一、六〇四
獨逸	九九	九一〇	一〇一	九〇二
米國	八五	八〇七	八八	八〇二
日本	一〇五	七四八	九〇	六五七
和蘭	九四	七四一	九四	七四三
伊太利	六四	六三六	六六	六八二
佛國	五七	五七九	六六	六三五
全世界	一、七三七	一、九四七	一、八四一	一、三、五六三

新鋭航洋商船隊に於ても英國は依然第一位の貫録を具へ、米國は第二位を諾威に譲つて第四位とな

り、獨逸は第三位、本邦は第五位を示してゐる。諸威海運の躍進振りの驚異的なことは注目し値するがこれは同國國情が官民一致して海運の發展に努力してゐる爲めである。本邦海運も前年の三四年六月末には第七位であつたが助成施設の進捗した影響として新鋭船の建造が行はれたので、諸、獨、米の諸國を除いて一様に保有量の減退を示してゐるに拘らず増大してゐることは國際情勢の益々尖鋭化せんとする際に悦ばしき現象と謂はなければならない。これ等の新鋭航洋商船隊を不斷大量に保有することは國際海運戰に重要性を具備する許りでなく、國防上の見地からしても艦隊背後の商船隊たり得る使命を有するものであるから、近年列國海運の等しく多大の關心をこの點に拂ひ各種の保護施設を強化して自國商船隊の改善を助長してゐる實狀である。幸に本邦に於ても船舶改善助成施設の實施を見て、第一次施設は既に多大の功績を残して完了し、今や第二次施設の進捗中であつて、且つ第三次施設も繼續されるまでに具體化してゐる。船舶改善施設が恒久的施設として航洋優秀商船隊の充實擴大を不斷に計り、國際海運戰のみならず國防上に於ても劣敗的地位に顛落しない用意を期すべきである。

二、新鋭優秀船の建造熱

船舶改善助成施設の第一期計畫は三ヶ年に亘りて優秀貨物船三十一隻、二十萬噸の建造を行ふが十年十一月大阪商船の彰化丸の竣工を殿として愈々完了した。願れば昭和七年十月、時局匡救を加味

した第一次船舶改善助成施設が實施されて、この建造工事が進捗するや列國海運にも甚大の衝動を與へた許りでなく、これがために本邦海運の基調が根本的に改善され、國防上にも重大意義を含むものと豫想されて以上の効果を擧げ得ることが出來た。この優秀船三十一隻の就航分野を見ると次ぎの如く紐育航路就航船が最多數を占めて居り、結局北米を中心とする就航船は實に二十一隻に及んで總數の七十%を占めてゐる。また臺灣航路就航船が八隻を占めてゐるのも注目すべきである。

A、紐育航路 合計 十八隻 X印は備船

三井物産 八隻

吾妻山丸、天城山丸、阿蘇山丸、青葉山丸、X宇洋丸、X日洋丸、X月洋丸、X大洋丸

日本郵船 六隻

長良丸、能登丸、那古丸、能代丸、鳴門丸、野島丸

國際汽船 三隻

鹿野丸、清澄丸、金剛丸

川崎汽船 一隻

X新興丸

B、太平洋航路 合計 三隻

大同海運 一隻

X高榮丸

飯野商事 二隻

極東丸、東亞丸

C、盤谷航路 合計 二隻

三井物産 二隻

朝日山丸、明石山丸

D、臺灣航路 合計 八隻

大阪商船 五隻

屏東丸、臺東丸、彰化丸、X海平丸、X宏山丸

近海郵船 三隻

千光丸、萬光丸、X神州丸

斯くの如く第一次助成船の特殊的現象は北米航路と南方航路の二方面へ配船が偏集してゐるがこの結果紐育航路の如きは列國海運に比して面目を一新し堂々たる偉觀を呈し、航海日數の短縮、其の他凡ゆる點に於て他國船を完全にリードするに至つた。又盤谷航路、臺灣航路の殷盛も本邦南方輸出貨易の躍進を物語るものであつて貿易の増轉と海運の活動が不可分の關係にある事實を如實に示してゐるのである。

第一次助成施設は右の如く三十一隻、二十萬噸の新鋭優秀船を建造し本邦海運の對外活動能力を著しく高率化したと同施設の實施された直後より最近に至る間に自主的に新鋭船の建造されたことも注目すべきである。即ち昭和七年十月に第一次船舶改善助成施設が開始されたが八、九、十年を通じて

次ぎの如く同施設の恩恵に浴せざる建造船乃至同施設の助成条件の適用範囲外の船舶が新造せられてゐる。即ち官廳用船舶を除く主なるものは次ぎの如くである。

昭和八年中

南海丸、北海丸(大阪商船)、廣盛丸(廣海商事)、新京丸(朝鮮郵船)、小牧丸(國際汽船)

昭和九年中

高千穂丸(大阪商船)、康福丸(山科良夫)、盛京丸(朝鮮郵船)、バラオ丸(日本郵船)

昭和十年中

八幡丸(日の出汽船)、吉林丸、熱河丸、洛東丸、大同丸(大阪商船)、建川丸(川崎汽船)、乾坤丸、乾隆丸(乾汽船)、さんらもん丸(三菱船舶部)、兵庫丸(神戸棧橋)

昭和十一年上半期

住吉丸(日の出汽船)、清忠丸(宇部セメント)、日本丸(山下汽船)、衣笠丸(第二次助成船)、香稚丸、香久丸(國際汽船)、香港丸、龍興丸、かんべら丸(第二次助成船)(大阪商船)、音羽山丸(三井物産)、大阪丸(神戸棧橋)、サイパン丸(日本郵船)

ホ、旺盛を極める船腹消化

本邦海運が昭和六年末の金輸出再禁止を轉機として好轉の一途を辿り、本邦輸出入貿易の殷盛と近海荷動の増轉に刺戟されて船腹消化が旺盛化したことは著しきものがあり、第一次船舶改善助成施設の実施を強化するために外國船の輸入が全く禁止的條項の適用を受けて跡を斷つに至り、船腹縮減政

策は全面的に強行されたに拘らず經濟的國力發展は頗る甚大なるものがあつて其れが反映として本邦海運の好調は世界海運の不況に隔離した特異的のものであつた。これがために一面船舶改善助成施設が圓滑な進捗を見せてゐる以外既に述べた如く本邦有力船主の自主的新船の建造があり、其の一面には外國船輸入特許制の裏を搔く外國籍籍による變態輸入船舶及び外國船傭船の如きも旺盛を極めて本邦海運の船腹消化力は第一次船舶改善施設實施前の昭和七年末當時に比して驚異的の膨脹を遂げることが判明する。

先づ昭和七年十月より實施された第一次助成施設は四十萬噸の老齡船を解體整理して二十萬噸の新船を建造したが實施前後の市況は極端な不振状態であつて各港に繫船相次ぐ船腹過剩振りであつた。ところが經濟情勢の變轉に伴つて近海荷動の増轉は加速度的に膨脹し、輸出貿易の躍進に並行してライナーの開設は著しく船腹消化力を急激に増加させた。茲に昭和八年以降十一年六月末に至る三ヶ年半に於ける本邦船腹増減の推移を示すと左の如くである。

本邦船腹増減表 (總噸數五百噸以上)

(第一次船舶改善助成施設による解體見合船と新造船は含まず)
(第二次施設の新造船六隻分は十一年分中に含む)

昭和八年	喪失船		新造船		輸入船	
	隻數	總噸數	隻數	總噸數	隻數	總噸數
	三三	三七,五九〇	七	四四,一〇四	七	二六,一〇四

昭和九年	九	三三、六五三	二	三四、一九二	一	九、八三六
昭和十年	八	一九、八六五	三〇	五九、八二二	一	七、一〇〇
昭和十一年(上半期)ハ	ハ	一五、三三三	三三	六六、九二二	一	一
計	元	六六、三〇〇	六〇	二二二、〇一八	九	四四、一四三

右船腹増減を基にしてこれに第一次改善施設に基く解體、新造、變態輸入船及び外國船の備船を加算して昭和十一年六月末現在に於ける本邦海運の船腹消化力と昭和七年末に於ける膨脹量とを算出して見よう。

先づ第一次船舶改善施設完了によつて結局二十萬噸の減少を見てゐる。然るに其後本邦海運の好調に刺戟されて外國船が合理的に輸入されたのは前表に示す如く四萬五千噸に過ぎないが外國置籍に擬装した變態輸入は大體十五萬總噸數と稱せられてゐるのが全部本邦大手筋に備船されてゐる。その上外國船の備船は九年より十年にかけて本邦備船料市況の硬化に刺戟されて著しく増加し最高時は四十萬噸にも及んだが常時平均二十萬噸が備入れられてゐると見て差支へない。これに前表に示すところの喪失船と新造船を加味した増減表を作ると次ぎの如き大勢を示してゐる。

昭和七年末に比較した本邦海運の船腹消化増加量 (總噸數)	二〇〇、〇〇〇噸
イ、第一次助成船	二二二、〇〇〇噸
ロ、八年以降十一年六月末に至る建造船(第二次助成船の六隻を含む)	四五、〇〇〇噸
ハ、輸入船	

ニ、變態輸入船	一五〇、〇〇〇噸
ホ、外國備船	二〇〇、〇〇〇噸
計	八〇七、〇〇〇噸
ヘ、第一次助成施設の解體船	四〇〇、〇〇〇噸
ト、八年以降十一年六月末に至る喪失船	九六、〇〇〇噸
計	四九六、〇〇〇噸

以上各項を通算するに十一年六月末現在に於ける本邦海運の船腹消化力は昭和七年末に比して三十一萬一千噸膨脹してゐる譯であつて、これが十一年下半期中に竣工を見る十二萬七千噸、十二年中の二十三萬二千噸を加算すると實に六十七萬噸の驚くべき數字に上り、本邦海運の特異的好調を雄辯に物語つてゐるものと謂はなければならぬ。

八、恒久化された船舶改善助成施設

イ、船舶改善助成施設の繼續

第一次船舶改善助成施設が當時急迫した時局匡救を加味した一面海運不況克服を目的とし他面造船工業能力を維持する劃期的事業であつたため諸外國に於ても實例を見ない新しい試みとなり、しかも其れが多大の効果を擧げ得たので歐米先進海運國を非常に刺戟したことは事實であつた。しかして第